松浦市文化財調査報告書　第６集

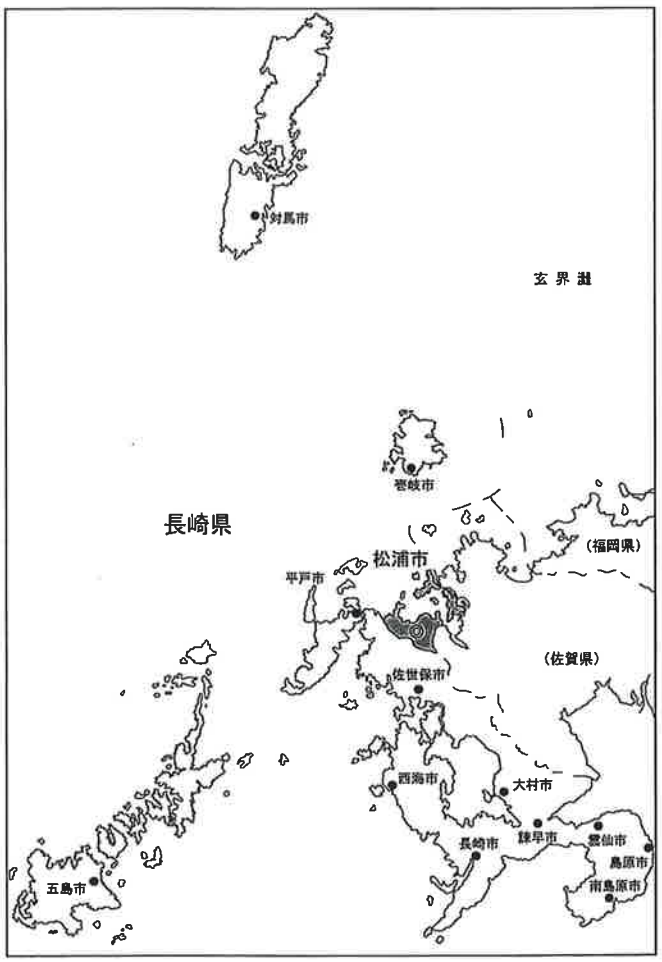
松浦市内遺跡確認調査（４）

２０１５

長崎県松浦市教育委員会

松浦市文化財調査報告書　第６集

松浦市内遺跡確認調査（４）



２０１５

長崎県松浦市教育委員会

栢ノ木遺跡第26次調査出土　滑石製子持勾玉

発刊にあたって

長崎県松浦市は平成18年の一市二町の合併後、地域の活力の基本といえる「人」に焦点をあてた政策の推進に努めています。この政策の一つに、福岡都市圏と「人」の交流を掲げています。交流は現在だけではなく、古来の人々も海や陸を介して中国大陸や朝鮮半島と交流を行っていました。それらは、市内の各地に所在する文化財が物語っています。

松浦市では各種開発と埋蔵文化財の保護・調整のため、平成７年度より国庫補助を受けて、確認・試掘調査を実施しています。本書は平成24年度から平成26年度に確認・試掘調査を実施したその報告になります。

本書が松浦市の埋蔵文化財保護への理解と認識を深める一助となるとともに学術研究の資料として広くご活用いただけましたら幸いに存じます。

最後になりましたが、文化庁・長崎県教育委員会及び関係者の方々のご協力により本書を刊行することができましたことに対して、ここに心から謝意を表します。

平成27年３月31日

長崎県松浦市教育委員会

教育長　松　尾　　紘

例　　言

1．本書は、平成24年度から平成26年度にかけて実施した松浦市内の遺跡の確認・試掘調査の報告と平成13年度から平成14年度の神崎港改修工事に伴う鷹島海底遺跡緊急調査で出土した遺物のうちから報告をしていない鉄製品の透過Ｘ線撮影調査とＸ線ＣＴ調査の画像を付した報告である。

2．調査は、国庫補助及び県費補助を受けて松浦市教育委員会文化財課が主体となって実施した。

3．調査及び本報告書作成にあたっては、長崎県教育委員会学芸文化課をはじめ、多くの方にご指導ご協力を賜った。

4．調査は、江上正高（平成24年度）、合澤哲郎（平成25年度）、鈴木美奈都（平成25・26年度）があたった。

5．出土した遺物の実測・製図・拓影図の作成は宮﨑朝美、吉野貴子、江上、鈴木があたり、遺物の写真撮影は江上、鈴木があたった。鷹島海底遺跡出土遺物の実測は大信技術開発・埋蔵文化財サポートに委託した。なお、図版の縮尺は不統一である。

6．第Ⅵ章の鉄製品の調査では、Ｘ線ＣＴ調査を九州国立博物館にご協力を得た。また、透過Ｘ線撮影調査は、長崎県埋蔵文化財センターのご協力を得て、分析結果の画像の報告はそれぞれより承認を得て掲載した。

7．本書で用いている方位は磁北である。

8．本書の執筆は第Ⅱ・Ⅲ・Ⅶ章を江上、第Ⅵ章を合澤、第Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ章を鈴木、編集を中田敦之の協力を得て鈴木があたった。

9．本書にかかわる出土遺物は、松浦市生涯学習センター（松浦市志佐町浦免1483番地１）郷土資料室で収蔵・保管している。また、今回報告した鷹島海底遺跡出土鉄製品は、松浦市立鷹島埋蔵文化財センター（松浦市鷹島町神崎免146番地）で収蔵・保管している。

本　文　目　次

第Ⅰ章　はじめに……1～3

１．調査に至る経緯……1

２．調査の組織……3

第Ⅱ章　地理的・歴史的環境……4～6

１．地理的環境……4

２．歴史的環境……4

第Ⅲ章　平成24年度確認・試掘調査の概要……7～15

１．姫神社遺跡第５次調査……7

２．青島遺跡第２次調査……10

３．栢ノ木遺跡第26次調査……12

第Ⅳ章　平成25年度確認・試掘調査の概要……16～19

１．久保園遺跡（隣接地）調査……16

２．栢ノ木遺跡第27次調査……17

第Ⅴ章　平成26年度確認・試掘調査の概要……20～23

１．寺ノ尾Ａ遺跡第１次調査……20

２．栢ノ木遺跡第28次調査……21

３．久保園遺跡第８次調査……23

第Ⅵ章　鷹島海底遺跡出土鉄製品の透過Ｘ線撮影調査・Ｘ線ＣＴ調査について……24～60

１．はじめに……24

２．章　　結……56

第Ⅶ章　志佐川流域の遺跡群について……61～64

１．栢ノ木遺跡第18次・23次調査……61

２．久保園遺跡第３次・６次調査……62

３．章　　結……64

第Ⅷ章　まとめ……65

挿　図　目　次

第１図　平成24年度から平成26年度所収遺跡位置図（１/100,000）……１
第２図　姫神社遺跡位置図（１/10,000）……７
第３図　５次調査区設定図（１/1,500）……７
第４図　５次調査区平面図・土層図（１/40）……８
第５図　５次調査出土遺物①（１/３）……９
第６図　５次調査出土遺物②（２/３）……９
第７図　青島遺跡位置図（１/10,000）……10
第８図　２次調査区設定図（１/600）……10
第９図　２次調査区土層図（１/40）……10
第10図　２次調査出土遺物①（２/３）……11
第11図　２次調査出土遺物②（１/３）……11
第12図　栢ノ木遺跡位置図（１/10,000）……12
第13図　26次調査区設定図（１/1,500）……12
第14図　26次調査区平面図・土層図（１/40）……13
第15図　26次調査出土遺物（１/３）……15
第16図　久保園遺跡（隣接地）位置図（１/10,000）……16
第17図　調査区設定図（１/400）……16
第18図　栢ノ木遺跡位置図（１/10,000）……17
第19図　27次調査区設定図（１/1,500）……17
第20図　27次調査区平面図・土層図（１/40）……18
第21図　27次調査出土遺物（１/２）……19
第22図　寺ノ尾Ａ遺跡位置図（１/10,000）……20
第23図　１次調査区設定図（１/600）……20
第24図　１次調査区土層図（１/40）……20
第25図　栢ノ木遺跡位置図（１/10,000）……21
第26図　28次調査区設定図（１/600）……21
第27図　28次調査区土層図（１/40）……22
第28図　久保園遺跡位置図（１/10,000）……23
第29図　８次調査区設定図（１/400）……23
第30図　８次調査区土層図（１/40）……23
第31図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像①（１/３）……25
第32図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像②（１/３）……26
第33図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像③（１/３）……27
第34図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像④（１/３）……28
第35図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑤（１/３）……29
第36図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑥（１/３）……30
第37図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑦（１/３）……31
第38図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑧（１/３）……32
第39図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑨（１/３）……33
第40図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑩（１/３）……34
第41図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑪（１/３）……35
第42図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑫（１/３）……36
第43図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑬（１/３）……37
第44図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑭（１/３）……38
第45図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑮（１/３）……39
第46図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑯（１/３）……40
第47図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑰（１/３）……41
第48図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑱（１/３）……42
第49図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑲（１/３）……43
第50図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑳（１/３）……44
第51図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像㉑（１/３）……45
第52図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像㉒（１/３）……46
第53図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像㉓（１/３）……47
第54図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像㉔（１/３）……48
第55図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像㉕（１/３）……49
第56図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像㉖（１/３）……50
第57図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像㉗（１/３）……51
第58図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像㉘（１/３）……52
第59図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像㉙（１/３）……53
第60図　栢ノ木遺跡18次・23次調査出土遺物（１/３）……61
第61図　久保園遺跡１・２号甕棺（１/８）……62
第62図　久保園遺跡３・４号甕棺（１/８）……63
第63図　４号甕棺内出土遺物（１/８）……64
第64図　１号甕棺内出土遺物（１/３）……64

表　目　次

表１　平成24年度から平成26年度の
法第93条・94条関係届出等一覧表……２
表２　鷹島海底遺跡出土鉄製品
Ｘ線調査結果一覧表……57～60
表３　出土遺物一覧表……66
表４　出土遺物観察表……67

図　版　目　次

図版１　姫神社遺跡５次Ｔ１完掘状況（南から）
姫神社遺跡５次Ｔ２完掘状況（南から）
姫神社遺跡５次Ｔ７完掘状況（西から）
姫神社遺跡５次Ｔ７ＳＫ１牛歯出土状況
青島遺跡２次遠景
青島遺跡２次Ｔ２完掘状況（北から）
栢ノ木遺跡26次遠景
栢ノ木遺跡26次Ｔ５完掘状況（北から）
図版２　栢ノ木遺跡26次Ｔ８第Ⅲ層検出状況（西から）
栢ノ木遺跡26次Ｔ８第Ⅲ層滑石製子持勾玉
出土状況
栢ノ木遺跡26次Ｔ９完掘状況（南から）
栢ノ木遺跡26次Ｔ10完掘状況（西から）
久保園遺跡（隣接地）作業風景
久保園遺跡（隣接地）Ｔ２完掘状況（西から）
栢ノ木遺跡27次遠景
栢ノ木遺跡27次Ｔ２完掘状況（北から）
図版３　栢ノ木遺跡27次Ｔ３完掘状況（南から）
栢ノ木遺跡27次Ｔ４完掘状況（北から）
寺ノ尾Ａ遺跡１次Ｔ３完掘状況（南から）
寺ノ尾Ａ遺跡１次Ｔ５完掘状況（北から）
栢ノ木遺跡28次Ｔ１完掘状況（東から）
栢ノ木遺跡28次Ｔ３完掘状況（東から）
久保園遺跡８次作業風景
久保園遺跡８次Ｔ１完掘状況（東から）
図版４　姫神社遺跡５次出土遺物①
姫神社遺跡５次出土遺物②
姫神社遺跡５次出土遺物③
青島遺跡２次出土遺物
栢ノ木遺跡26次出土遺物①
栢ノ木遺跡26次出土遺物②
栢ノ木遺跡26次出土遺物③
栢ノ木遺跡26次出土遺物④
栢ノ木遺跡26次出土遺物⑤
栢ノ木遺跡26次出土遺物⑥
栢ノ木遺跡26次出土遺物⑦
図版５　栢ノ木遺跡27次ＳＸ１出土遺物
栢ノ木遺跡18次・23次出土遺物
久保園遺跡１号甕棺
久保園遺跡２号甕棺
久保園遺跡３号甕棺
久保園遺跡４号甕棺

第Ⅰ章　はじめに

1．調査に至る経緯（第１図　表１）

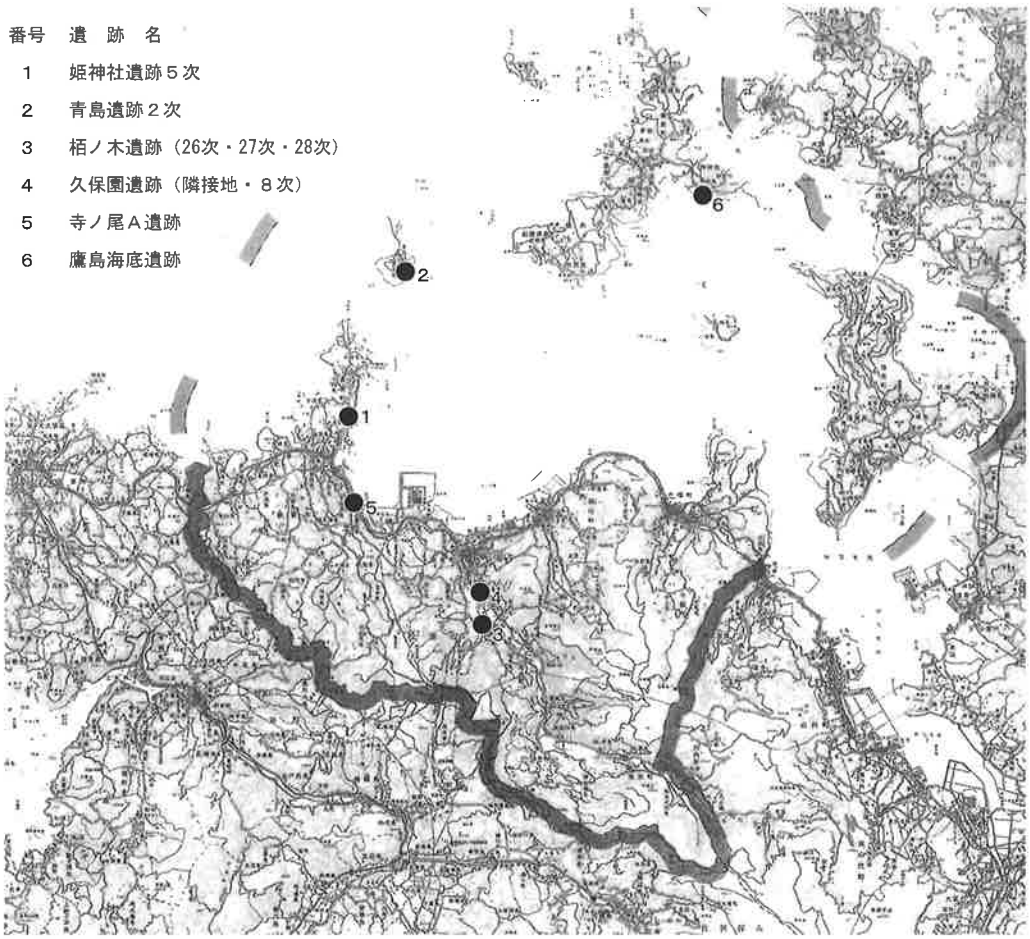
松浦市における埋蔵文化財保護行政は長崎県教育委員会の指導のもと、文化財保護法に基づき立会調査や確認調査など積極的に実施している。その成果もあり、現在では開発行為を行う際の事前に文化財保護に関する照会や届出の増加は埋蔵文化財の周知が整いつつある。

平成24年度の法第93条・第94条関係届出等の件数は15件で、このうち国庫補助・県費補助事業（以下、補助事業という）関係で実施した確認調査件数は、３件である。

平成25年度の法第93条・第94条関係届出等の件数は７件で、このうち補助事業関係で実施した確認調査件数は、２件である。

平成26年度の法第93条・第94条関係届出等の件数は９件で、このうち補助事業関係で実施した確認調査件数は、３件である。

３年間の傾向として市域では民間開発事業の減少の傾向を示している。また、県教育委員会による西九州自動車道建設に伴う本調査が平成25年度まで行われていた。市街地周辺部での照会の増加傾向は、開発が進んでいることの現われである。



第１図　平成24年度から平成26年度　所収遺跡位置図（１/100,000）

表１　平成24年度から平成26年度の法第93条・94条関係届出等一覧表

年度	遺跡名	届出地	事業内容	事業主	処置
24	八幡山城跡	今福町東免	道路建設工事	国土交通省	慎重工事
	今福遺跡	今福町仏坂免	道路建設工事	国土交通省	慎重工事
	八幡山城跡	今福町浦免	道路建設工事	国土交通省	工事立会
	中ノ瀬遺跡	今福町浦免	道路建設工事	国土交通省	工事立会
	今福遺跡	今福町仏坂免	道路建設工事	国土交通省	慎重工事
	刈萱城跡	星鹿町岳崎免2283番地８	テレビ中継所等撤去工事	日本放送協会	慎重工事
	刈萱城跡	星鹿町岳崎免2283番地８	テレビ中継所等撤去工事	長崎放送(株)	慎重工事
	田口高野遺跡	御厨町西田免	地籍調査	松浦市	慎重工事
	葉山六地蔵	御厨町小船免	地籍調査	松浦市	慎重工事
	姫神社遺跡	星鹿町北久保免682番地	養護老人ホーム改築工事	(福)和光福祉会	確認調査
	鷹島海底遺跡	鷹島町神崎免地先	学術調査	琉球大学・松浦市	確認調査
	青島遺跡	星鹿町青島免856番地１	無線基地局電気通信設備新設工事	ソフトバンクモバイル(株)	確認調査
	鷹島海底遺跡	鷹島町神崎免地先	学術調査	琉球大学・松浦市	確認調査
	栢ノ木遺跡	志佐町栢木免1726番地	用排水路設備整備	個人	慎重工事
	栢ノ木遺跡	志佐町栢木免49番地２	用排水路設備整備	個人	確認調査
25	辻ノ尾遺跡	志佐町浦免738番地１	学校敷地の舗装工事	長崎県知事	慎重工事
	今福遺跡	今福町仏坂免	道路建設工事	国土交通省	発掘調査
	久保園遺跡(隣接地)	志佐町里免244番地１・３	住宅建築	個人	試掘調査
	鷹島海底遺跡	鷹島町神崎免地先	学術調査	琉球大学・松浦市	確認調査
	中ノ瀬遺跡	今福町東免	道路建設工事	国土交通省	慎重工事
	栢ノ木遺跡	志佐町栢木免	範囲確認調査	個人	確認調査
26	今福遺跡	今福町仏坂免	道路建設工事	国土交通省	慎重工事
	寺ノ尾Ａ遺跡	御厨町下登木免305番地1･5	住宅建設	個人	慎重工事
	黒岩岩陰遺跡	志佐町横辺田免	地籍調査	松浦市	慎重工事
	狸岩岩陰遺跡(隣接地)	福島町塩浜免	溜池整備	県北振興局	慎重工事
	鷹島海底遺跡	鷹島町神崎免地先	学術調査	琉球大学・松浦市	確認調査
	鷹島海底遺跡	鷹島町原免	港湾工事	県北振興局	慎重工事
	鷹島海底遺跡	鷹島町原免	港湾工事	県北振興局	慎重工事
	栢ノ木遺跡	志佐町栢木免96番地１・98	範囲確認調査	松浦市	確認調査
	久保園遺跡	志佐町高野免109番地２	無線基地局新設工事	ＫＤＤＩ(株)	慎重工事

２．調査の組織（敬称略）

調査主体	松浦市教育委員会事務局	
	教育長	松尾　紘
	教育次長	今西　誠司（平成26年３月31日まで）
		黒川　政信（平成26年４月１日から）
文化財課	課長	中田　敦之
	課長補佐	内野　義　（平成26年４月１日から）
	係長	小澤　智彦
	主査	服部　浩史（平成26年３月31日まで）
	学芸員	合澤　哲郎（平成24年９月１日から）
	主事補	鈴木　涼華（平成26年４月１日から）
	嘱託	江上　正高（平成25年３月31日まで・現田川市役所）
	嘱託	鈴木美奈都（平成25年12月１日から）
整理補助員	宮﨑　朝美・吉野　貴子	
調査参加者	池田正子・石黒小夜子・川久保義之・久保川隆司・坂本秀則・坂口盛行・田中節子・竹山勝治・中川ヨシ子・中島カズ子・冨本敏子・前田数子・前田義孝・増本義隆・増本ツギ子・松永セツエ・松永チエ子・森淑子・毛利重信・森山浩一郎・森山八重美・吉田末千子・吉山猛・渡口洋子	
調査協力者	市山延雄・今里豊己・北川浩幸・久保川隆司・久保川茂吉・高谷シゲ子・堤博俊・堤寿栄子・冨山不二夫・中川五一郎・藤田温・松田清志・松田格栄・松田優子・松永知雄・眞弓富代・宮本優美・山口ゆかり 社会福祉法人和光福祉会・ソフトバンクモバイル株式会社・ ＫＤＤＩ株式会社	

第Ⅱ章　地理的・歴史的環境

１．地理的環境

長崎県本土の北端に位置する松浦市は九州島の西北部、北松浦半島の北部に位置し、黒島・鷹島・福島・飛島・青島などの島々から構成される。市域は南に山麓、北に海域に接する「南高北底」の地勢を呈する。この山麓が県・市境となり、東西に長い市域である。県境は国見山（776m）を最高峰に、八天岳から隠居岳と南北に続き、北と西に標高を下げながら海へ没する。

市域の地形は、溶岩台地・第三紀層・沖積層・洪積層と大きく４つに分類される。まず、玄武岩の溶岩台地が山麓に展開する。この台地は北松浦半島全域を覆っている。次に第三紀（佐世保層群・福井層）層は、緩やかな起伏をもつ砂岩や泥岩で堆積し市域の基盤を形成する。また、北松浦半島一帯は北松炭田として昭和30（1950）年代に栄えたが、炭田は狭炭層を含む第三紀層と砂礫層の互層から形成されているため、地すべりの多発地帯でもある。そして沖積層は、志佐川流域で最も展開がみられるが、今福川流域において確認できる。これらの河川は、上流から下流までの長さが短く急傾斜地を流れている。そのため、第三紀層を削り幾度となく氾濫している。洪積層（段丘）は志佐川流域にて展開が確認できている。また、鷹島・福島等の島々の地質は、玄武岩と第三紀層に分類されている。

２．歴史的環境

本市の歴史は旧石器時代より人々が活動した痕跡がうかがえる。ここでは時代ごとに述べる。

旧石器時代は、46箇所の遺物散布地が確認されている。市域西部に位置する田口高野遺跡はＡＴ火山灰が確認され、台形石器やナイフ形石器が出土している。

縄文時代は、94箇所が市全域において確認されている。田口高野遺跡は鬼界アカホヤ火山灰が確認されている。下谷遺跡は21基のドングリ貯蔵穴跡や土坑跡が確認されている。また、鈴桶型石刃技法より産出された腰岳産黒曜石製品が多数確認されている。鷹島海底遺跡で早期前葉の押型文土器、小嶋古墳群では中期遺物包含層と考えられる土を古墳の封土に用いたと推測され、阿高系曽畑式土器、石製品が出土する。その他に宮ノ下リ遺跡で晩期、今福遺跡で後・晩期の土器が出土するが、遺物包含層の検出は限られている。

弥生時代から古代の遺跡の数は限られている。

弥生時代は、市域中心部に位置する志佐川流域で、栢ノ木遺跡が前期後半頃に甕棺墓・石棺墓の墓域を形成し、後期前半には内行花文鏡やガラス玉を持つ集団と形成がうかがえる。また、対岸に位置する久保園遺跡は、中期の甕棺墓を用いた墓域が確認されている。両遺跡に宮ノ下リ遺跡を加えた３遺跡は、志佐川が形成した環境によって育まれた重要な遺跡群として捉えられる。市域西部に位置する池田遺跡は、中期の甕棺墓が確認されている。市域東部に位置する今福川流域の中ノ瀬遺跡では、弥生時代では本市初となる中期の円形の竪穴式住居跡が確認され、丘陵上に集落が営まれていたことが確認されている。

古墳時代は、市域西部に所在する小嶋１号から３号の古墳群、福島に所在する横島古墳や小島古墳、

鷹島に所在する薫崎鬼塚古墳や宝ヶ峯１号から３号墳が築造されている。いずれも海岸部に位置し、海洋氏の統率者の墳墓である。そのうち発掘調査が実施されたのは小嶋１号墳、宝ヶ峯古墳群のみである。いずれも円墳で横穴式石室を用いた古墳で、後期から終末期の古墳に位置づけられている。一方、集落では宮ノ下リ遺跡より４世紀後半から５世紀代の竪穴式住居跡、栢ノ木遺跡より６世紀後半、今福遺跡で４世紀初頭頃と６世紀後半の土師器や須恵器が出土している。

古代は、明確な遺構は確認されていないものの宮ノ下リ遺跡・久保園遺跡・今福遺跡より、緑釉陶器碗や越州窯系青磁碗が出土している。今後の調査において、明確な遺跡の位置づけが求められていく。

中世は、市域中心部に位置する楼楷田遺跡で12世紀頃の墓壙や掘立柱建物跡が確認され、出土遺物より人々の往来がうかがえる。今福川流域の中ノ瀬遺跡で木棺墓や土壙墓、対岸の今福遺跡で11世紀後半から14世紀中頃の土師器、中国産や朝鮮産の貿易陶磁器などが出土している。山城跡は市全域に展開している。志佐川流域では陣ノ内城跡が築かれている。市域東部に位置する県史跡松浦党梶谷城跡は標高約197ｍの城山山頂部に楕円形状に主郭を設け、外周に段築と石垣からなる山城跡である。石垣の構築技法などから豊臣政権の文禄・慶長の役に伴う改築様相を示している。遺物の主体は15世紀後半から17世紀前半の陶磁器類が確認されている。また、同じく市域東部に位置する八幡山城跡は、大きく北部の区域（北城）と南部の区域（南城）に分かれる。遺構は尾根筋を取り囲む切岸が配置される特異な構造を呈している。北部の区域は出土遺物より、15世紀から16世紀後半頃に位置づけられている。一方、南部の区域は曲輪・切岸を中心とした一般的な形態を呈し、同一丘陵上で構造の違う城郭跡が確認されている。鷹島海底遺跡は伊万里湾に浮かぶ鷹島の南岸に位置し、弘安四（1281）年の蒙古襲来の際、暴風雨により数千隻もの元軍の船が沈没した地点と伝えられる海底遺跡である。平成23年秋には、琉球大学の研究チームが遺跡内の水深20ｍから25ｍの地点で「元の１号沈没船」を発見している。これまでの調査で出土した遺物は、海底に堆積したシルト質の土壌によって保たれ、分析の結果、これらの遺物が弘安の役で沈没した元軍のものであり、文献史料と考古資料が一致する古戦場跡として蓋然性が高まった。また、蒙古襲来は鎌倉幕府を崩壊させる遠因となった日本史上重要な事件である。遺跡から出土する様々な遺物が、従来、文献・絵画等によってしか知られなかった蒙古襲来の様相を具体的に明らかにしたことから、平成24年３月27日に鷹島海底遺跡内の384,073.61㎡が鷹島神崎遺跡として海底遺跡では日本初となる国史跡に指定されている。平成26年３月には『国指定史跡鷹島神崎遺跡保存管理計画書』を策定している。

近世は、集落や近世墓が楼楷田遺跡・池田遺跡・中ノ瀬遺跡、生産遺跡が松浦皿山窯跡で確認されている。市域は平戸藩領に属するが、平戸ー伊万里間に平戸街道御厨筋の設置、今福では寛永十二（1635）年に分地、寛政二（1790）年に押役所の設置など、藩の重要な機関及び交通の要所としてなっている。産業では干拓や寛延二（1749）年に赤岩炭坑の採掘が行われている。また、自然災害も頻発したと記録が残っている。

近・現代は明治４（1871）年の廃藩置県により平戸県、同年に長崎県、郡制施行で北松浦郡の管轄となっている。この時期も産業として炭坑採掘・干拓事業が継続して行われているが、炭鉱はエネル

ギー革命の影響を受けて昭和47（1972）年の福島を最後に市域全ての炭鉱が閉山している。そして、平成18（2006）年１月１日に松浦市・北松浦郡福島町・同鷹島町が合併して新しい「松浦市」が誕生している。

第Ⅲ章　平成24年度確認・試掘調査の概要

平成24年度に確認・試掘調査を実施した姫神社遺跡、青島遺跡、栢ノ木遺跡について概説する。

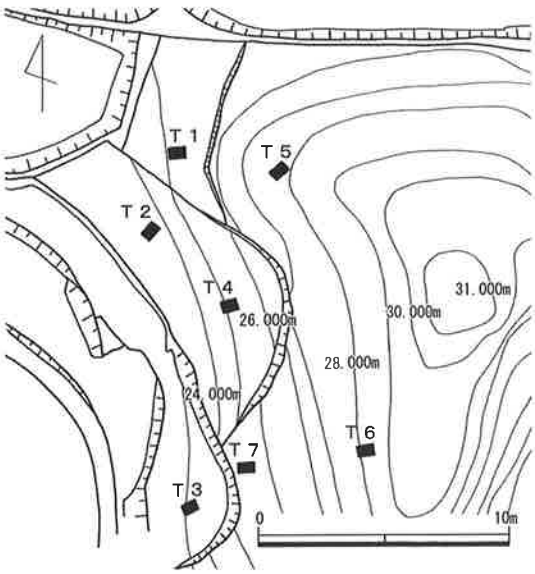
１．姫神社遺跡第５次調査

（第２図～第６図　表３・４　図版１）

立　　地　本遺跡は、市の西部、星鹿町北久保免に位置し、標高２ｍから30ｍの玄武岩台地上に位置している。遺跡の中心部は昭和41年に日米合同調査が行われた姫神社境内及び本殿に向かって左側の民有地周辺である。本遺跡の範囲は東西約200ｍ、南北約400ｍの範囲に展開している。

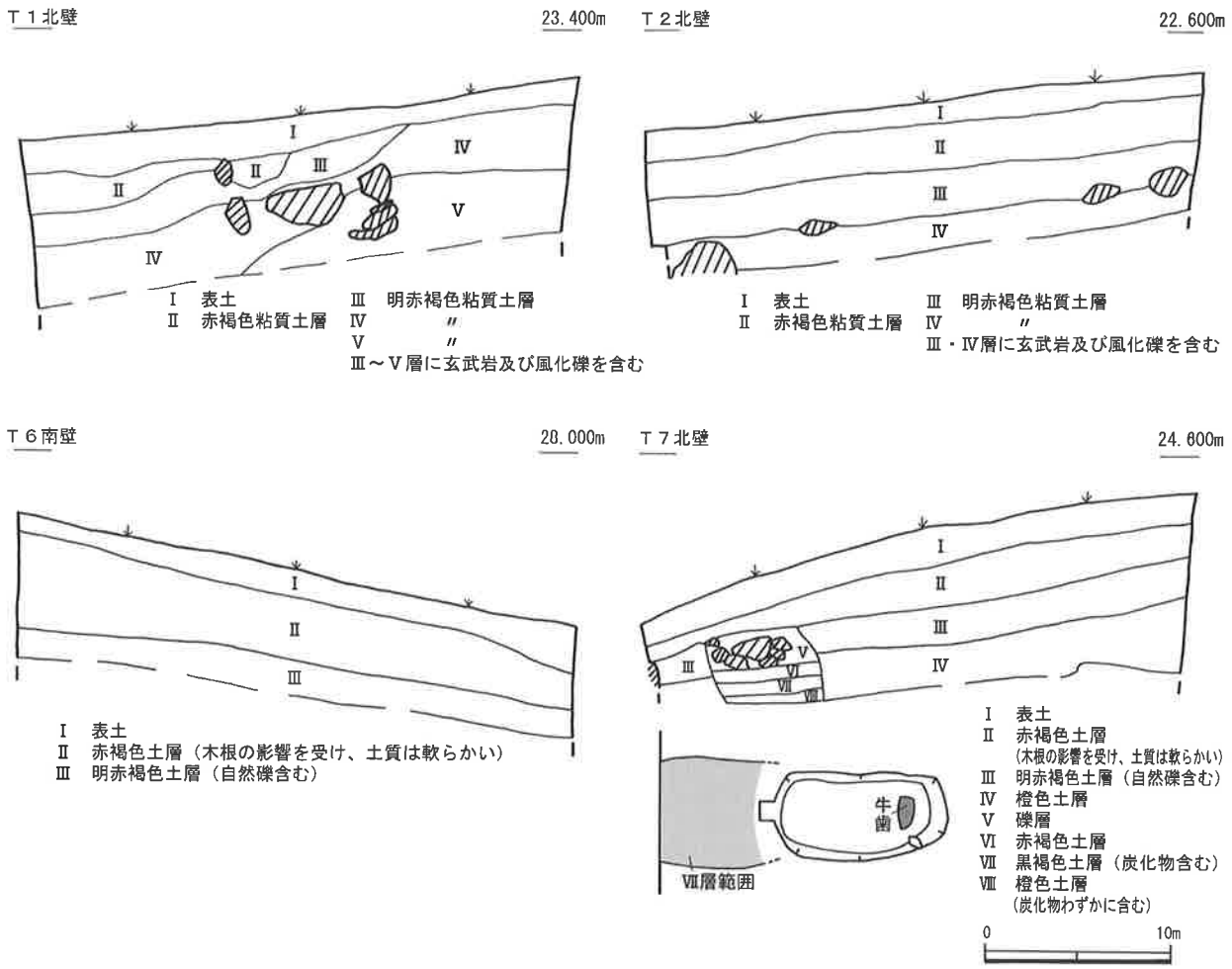
第２図　姫神社遺跡位置図（１/10,000）

調　　査　７月４日付けにて養護老人ホーム改築工事に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、７月９日から７月26日にかけて範囲確認調査及びその隣接地の試掘調査を実施した。調査区は２ｍ×３ｍの７箇所、合計42㎡を設定し、人力掘削による調査を実施した。



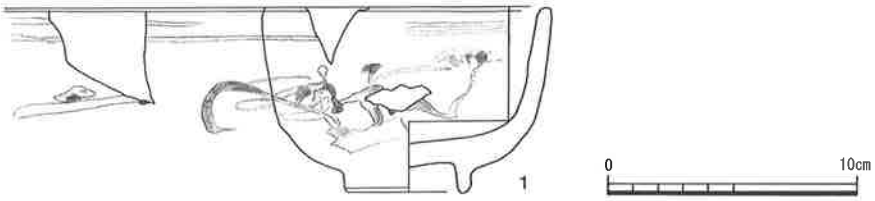
第３図　５次調査区設定図（１/1,500）

検出遺構　当該地の現状は、植林された杉林及び自然林を呈しており、そのため全ての調査区の第Ⅰ層は、木根の影響を受けた表土であった。Ｔ１・Ｔ３・Ｔ４の第Ⅱ層は粘性の風化土を、Ｔ２は黄褐色や赤褐色の風化土が確認できた。これらの風化土は玄武岩の影響によって堆積したと考えられる。Ｔ５・Ｔ６は第Ⅰ層の木根の影響を第Ⅱ層まで受けていることが確認できた。Ｔ７は第Ⅱ層を除去すると自然礫の集中する箇所が確認された。この礫を除去すると炭化物の集中する箇所が認められた。また、この集中する箇所より南で、陶器碗と長軸90㎝×短軸46㎝、深度約25㎝で、灰色土を呈した楕円形の土坑跡（ＳＫ１）を確認した。炭化物が集中する箇所と土坑跡との関係は不明である。ＳＫ１の埋土は単層である。この土坑跡からは獣骨が出土し、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所松井章氏の鑑定の結果、牛歯の上顎骨と下顎骨とされる。歯の咬耗が進行していることから、年老いた牛の牛歯と考えられる。残存状況は良好である。

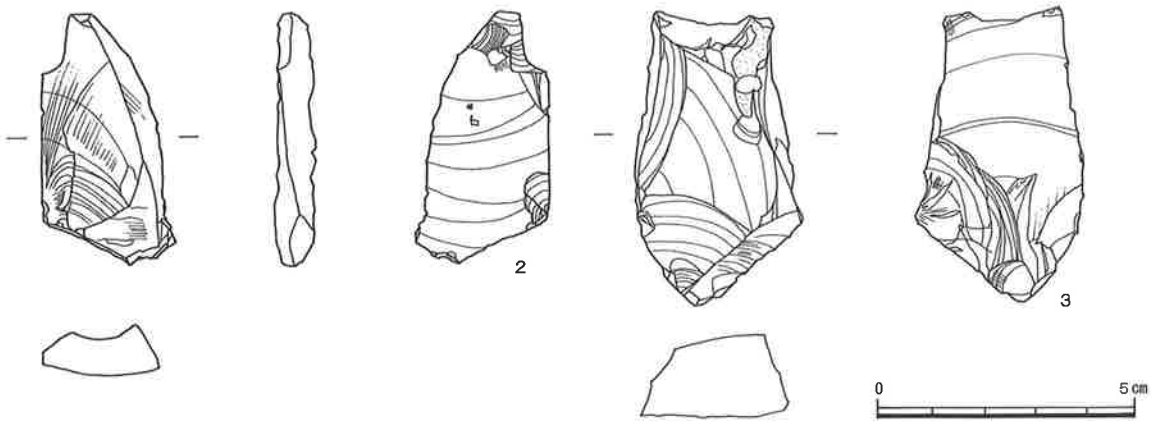


第４図　５次調査区平面図・土層図（１/40）

出土遺物　１は陶器碗である。現状は一部欠損しているがこれは人力掘削の影響を受けたものである。器形は丸型で、器壁は厚い。施釉は全面に認められ、畳付は釉剥が施されている。外面に松文が描かれている。なお、Ｔ７ＳＫ１は出土状況より牛墓と推測されるため、牛墓に供えられた供膳具と考えられる。２・３は黒曜石製の削器である。３は刃部が形成され、一部に表皮が残っている。全体的に風化が認められる。



第５図　５次調査区出土遺物①（１/３）

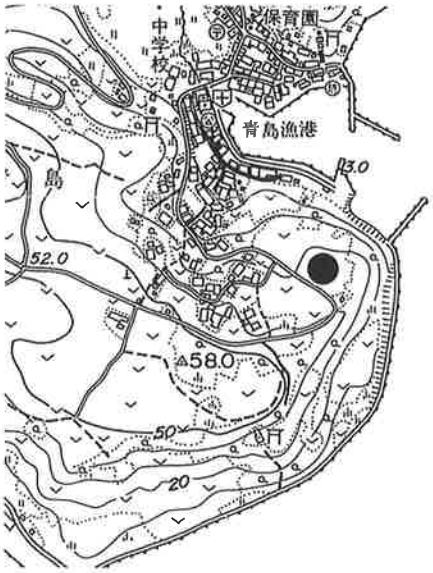


第６図　５次調査区出土遺物②（２/３）

２．青島遺跡第２次調査

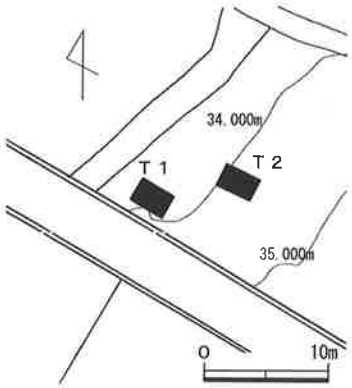
（第７図～第11図　表３・４　図版１）

立　　地　本遺跡は、市の北西部に位置する星鹿半島の津崎鼻より約1.2m北方の玄界灘に浮かぶ青島の南側に位置する。標高は約30mから40mの東から西へ傾斜する玄武岩台地上に位置している。第１次調査ではナイフ形石器・台形石器が採集されている。本遺跡より北側に壇ノ上遺跡が位置している。



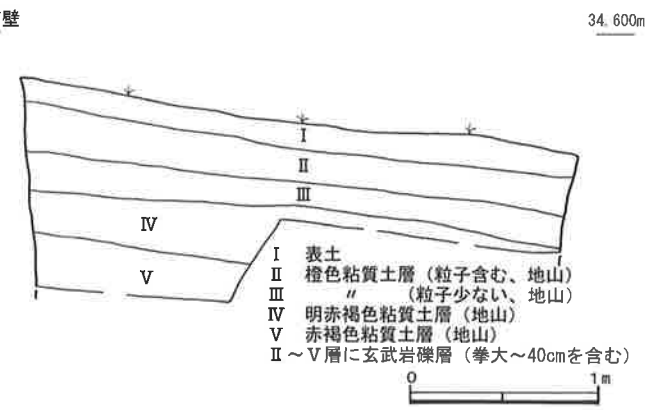
第７図　青島遺跡位置図（１/10,000）

調　　査　８月３日付けにて無線基地局電気通信設備新設工事に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、９月４日から９月11日にかけて範囲確認調査を実施した。調査区は、２m×３mの２箇所、合計12㎡を設定し、人力掘削による調査を実施した。



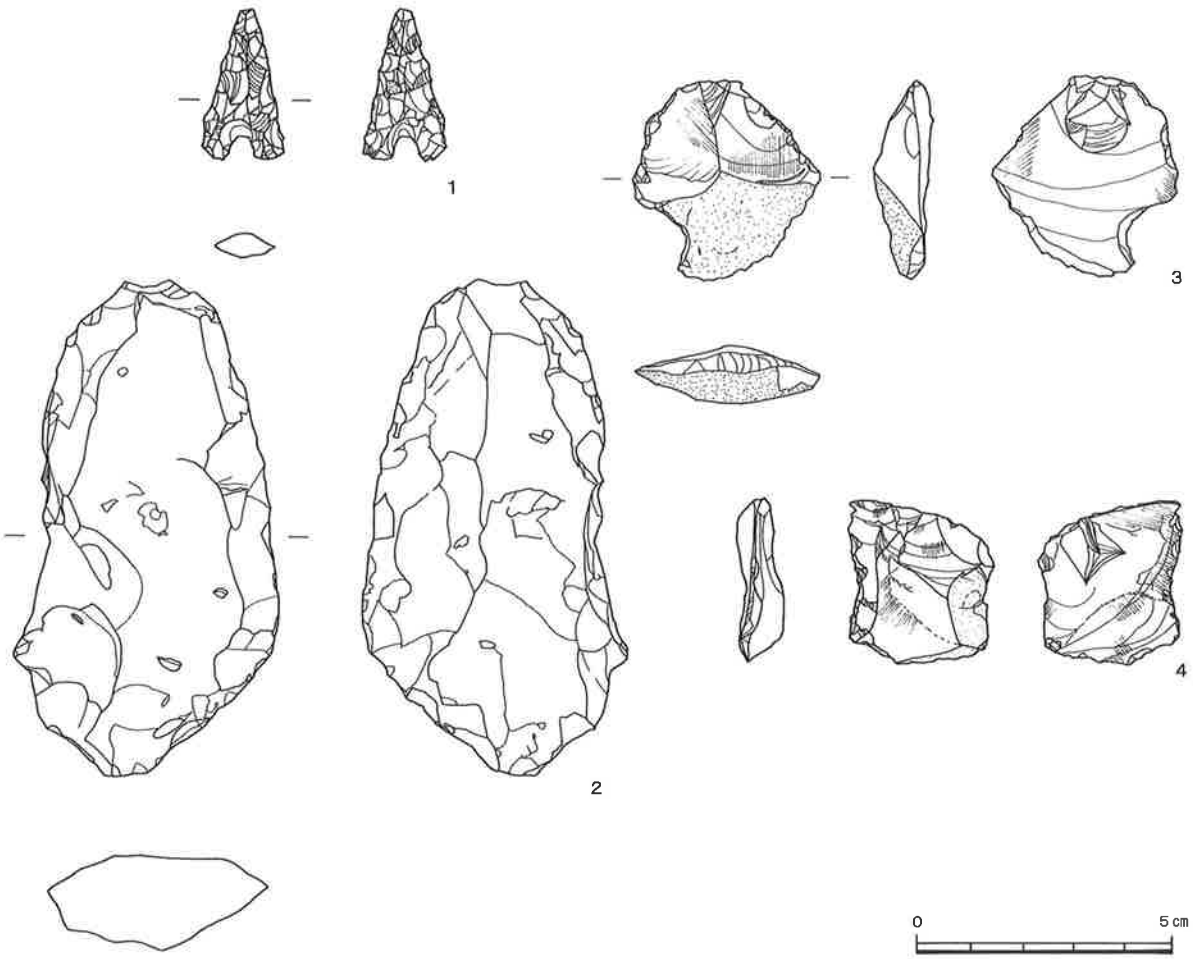
第８図　２次調査区設定図（１/600）

検出遺構　Ｔ１・Ｔ２ともに第Ⅰ層が表土、第Ⅱ層が赤褐色粘質土層の自然堆積層で、遺構は認められなかった。

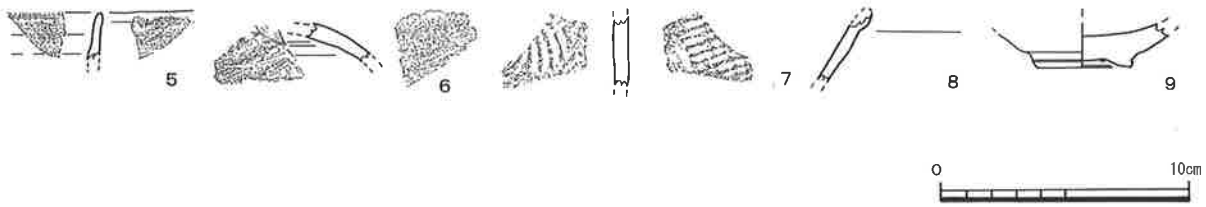


第９図　２次調査区土層図（１/40）

出土遺物　全て表面採集した遺物である。１は黒曜石製石鏃で、二等辺三角形状を呈し、両側縁は直線的で交わる。基部の抉りは浅い。２は基部と周縁の一部に欠損が認められる安山岩製石斧である。３・４は黒曜石製の二次加工が認められる剥片で、３は良質で、牟田産である。４は不純物が含まれており、腰岳産である。５～７は須恵器である。５は口縁部で器種は不明である。６は坏身の天井部で、内・外面に回転ナデの痕跡が認められる。７は胴部で外面が格子目叩き痕、内面が同心円文当て具痕が残っている。８は輸入白磁の碗で、口縁部は一部欠損が認められるが玉縁を設けている。９は李朝陶器の碗で、底部から立ち上がりが残存する。全面に灰オリーブ色の釉を施し、内面底部に胎土目跡が認められる。



第10図　２次調査出土遺物①（２/３）



第11図　２次調査出土遺物②（１/３）

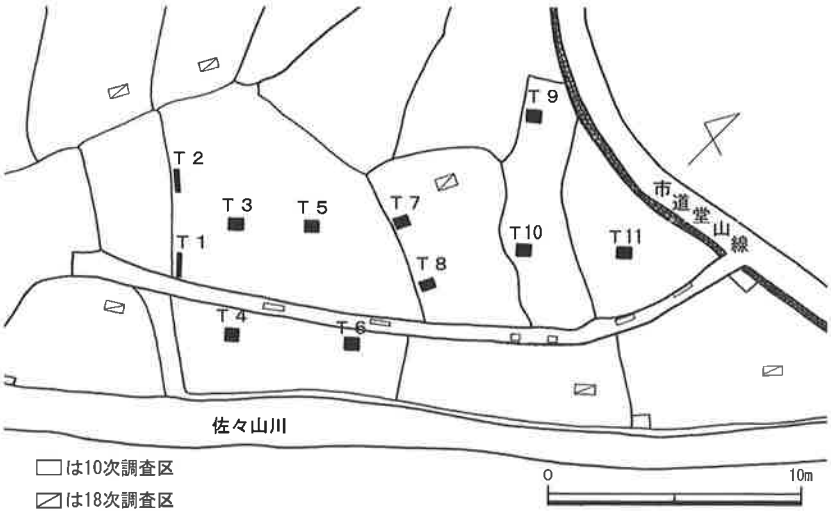
３．栢ノ木遺跡第26次調査

（第12図～第15図　表３・４　図版１・２）

立　　地　本遺跡は、市の中心部に所在し、調査地は志佐川の支流である佐々山川左岸の標高約13mから15mの河岸段丘上に位置している。

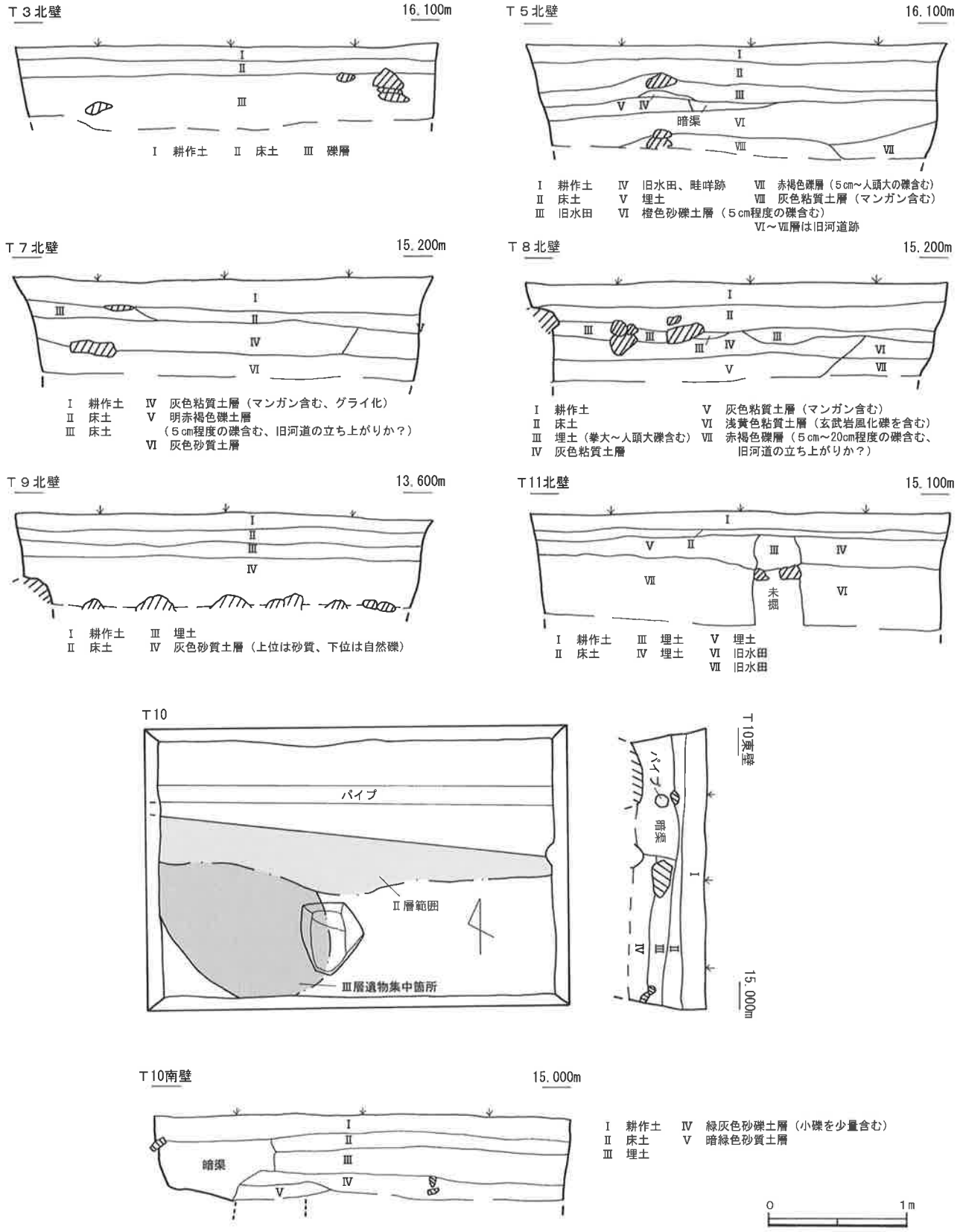
第12図　栢ノ木遺跡位置図（１/10,000）

調　　査　11月14日付けにて個人より水田の用排水路施設設備工事に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、12月３日から12月26日にかけて範囲確認調査を実施した。当該地周辺はこれまで、第10次・18次と範囲確認調査を実施してきた経緯がある。調査区はＴ１・Ｔ２の２箇所は0.6m×５mで、Ｔ３からＴ11の９箇所は２m×３mで合計60㎡を設定し、人力による掘削を実施した。



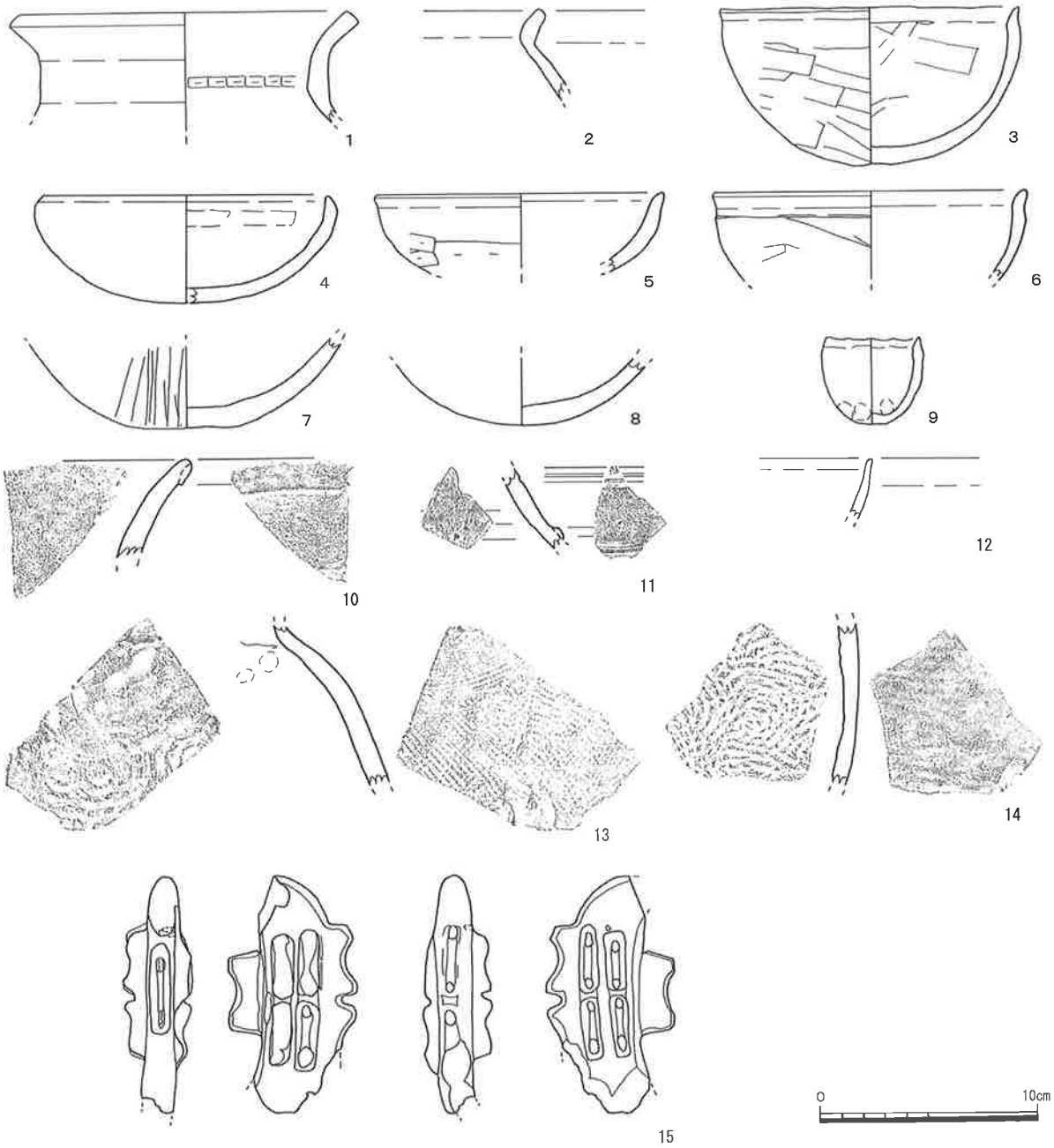
第13図　26次調査区設定図（１/1,500）

検出遺構　Ｔ１からＴ３は自然礫の堆積、Ｔ４・Ｔ６・Ｔ11は灰色や緑灰色砂礫土、埋土を確認した。Ｔ５の第Ⅲ層で橙色・赤褐色の砂礫土や灰色粘質土の堆積が認められた。Ｔ７からＴ10は灰色や緑灰色の粘質土や砂礫土の堆積に、明赤褐色・浅黄褐色・赤褐色の粘質土や礫土の立ち上がりが確認できた。これらより、Ｔ５・Ｔ７からＴ10の第Ⅲ層は、旧河道跡の堆積によるものと考えられる。



第14図　26次調査区平面図・土層図（1/40）

出土遺物　１は口縁部から肩部まで残存する甕である。頸部付近の断面は厚く、内面は短い間隔で横方向のケズリが施される。肩部内面はヘラケズリを施した痕跡がわずかに認められる。２は口縁部から肩部下半まで残存する甕である。３は埦である。口縁部は外方向へ摘み上げることで頸部を作り出している。その頸部下半に最大径を有する。底部はわずかに平坦面を有する。調整は内・外面ヘラケズリが施されるが、内面はナデによってヘラケズリが消されている。４は埦である。口縁部が内面へ傾き、口縁部から体部にかけて最大径を有する。５は口縁部から体部下半まで残存する埦である。口縁部は３と同様な口縁部の作りであるが、頸部の作り出しは５が緩やかである。調整は外面の体部に横方向のヘラケズリが施される。６は口縁部から体部下半まで残存する埦である。５と同様、口縁部の作りは緩やかである。調整は外面の体部に強いヘラケズリが施される。７はわずかに平底を有する底部である。調整は内面に板ナデが施される。外面にハケが施されるが、その単位と幅は大きい。８は丸底を有する底部である。９は１／２程残存するミニチュアの甕である。内・外面の底部に手頭圧痕が認められる。10は口縁部が残存する甕である。口唇部は粘土紐を帯状に貼付けている。11は瑞と考えられる。残存する外面の上部に横走する二条の沈線、下部に一条の断面が台形の突帯を巡らしており、その間に波状文が施される。12は口縁部が残存する埦である。13は頸部から胴部まで残存している甕と考えられる。肩部の外面は円弧状に櫛描文が描かれ、格子目叩き痕が認められる。内面は同心円文当て具痕、手頭圧痕後にナデが認められる。14は甕と考えられ、外面が格子目叩き痕、内面が同円心文当て具痕が認められる。15は滑石製子持勾玉である。子持は表・裏面に各４箇所、左側に１箇所、右側に２箇所の合計11個作られている。裏面の一部に黒斑が認められることから、被熱を受けたと考えられる。



第15図　26次調査出土遺物（１/３）

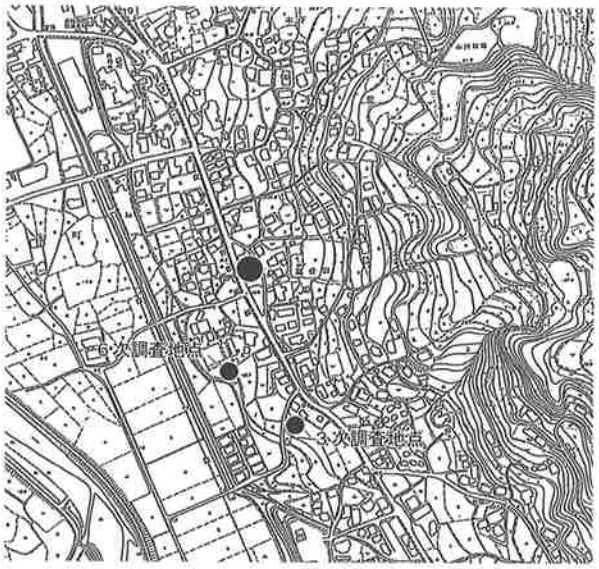
第Ⅳ章　平成25年度確認・試掘調査の概要

平成25年度に確認・試掘調査を実施した久保園遺跡（隣接地）、栢ノ木遺跡について概説する。

１．　久保園遺跡（隣接地）調査

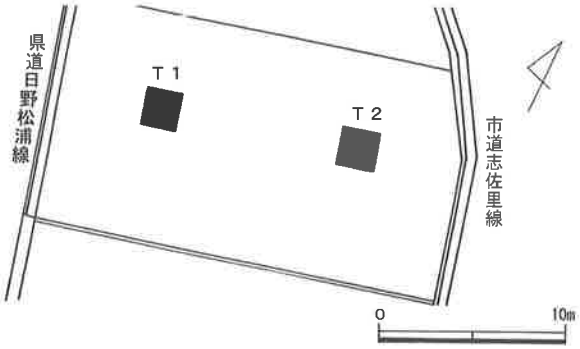
（第16図～第17図　図版２）

立　　地　本遺跡は、市の中心部を流れる志佐川の右岸河岸段丘上に位置している。久保園遺跡の調査はこれまで７次にわたって調査を実施しており、弥生中期を中心とした集落跡と墓跡と中世の集落跡である。輸入陶磁器等の遺物が出土していることから陣ノ内城に関連した集落と思われる。遺跡の北側には中世の陣ノ内城跡が、南側には中世の集落跡である宮ノ下リ遺跡が位置している。



第16図　久保園遺跡（隣接地）位置図（１/10,000）

調　　査　９月18日付けにて個人住宅建築に伴い、久保園遺跡の隣接地であることから遺跡の範囲が拡大していないかを確認するため10月１日から10月３日にかけて試掘調査を実施した。調査区は２ｍ×２ｍを２箇所設定し、合計８㎡を人力掘削による調査を実施した。



第17図　調査区設定図（１/400）

検出遺構　Ｔ１・Ｔ２は表土を0.2～0.3m取り除くとアスファルト・砕石の造成土に至り、約0.6ｍで黄茶褐色混礫土の基盤層を確認した。遺構・遺物包含層は確認できなかった。

出土遺物　遺物は確認できなかった。

２．栢ノ木遺跡第27次調査

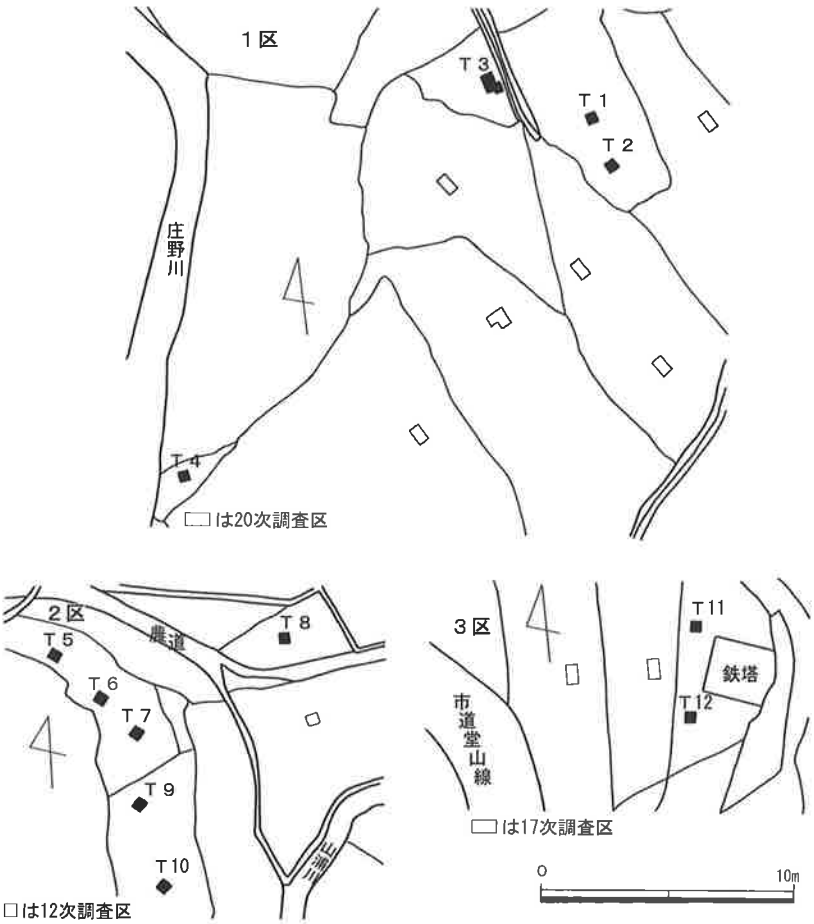
（第18図～第20図　表３・４　図版２・３）

立　　地　本遺跡は、市の中心部を流れる志佐川西部の河岸段丘から佐々山川、庄野川流域の沖積平野に広がる水田地帯にかけて位置している。

第18図　栢ノ木遺跡位置図（１/10,000）

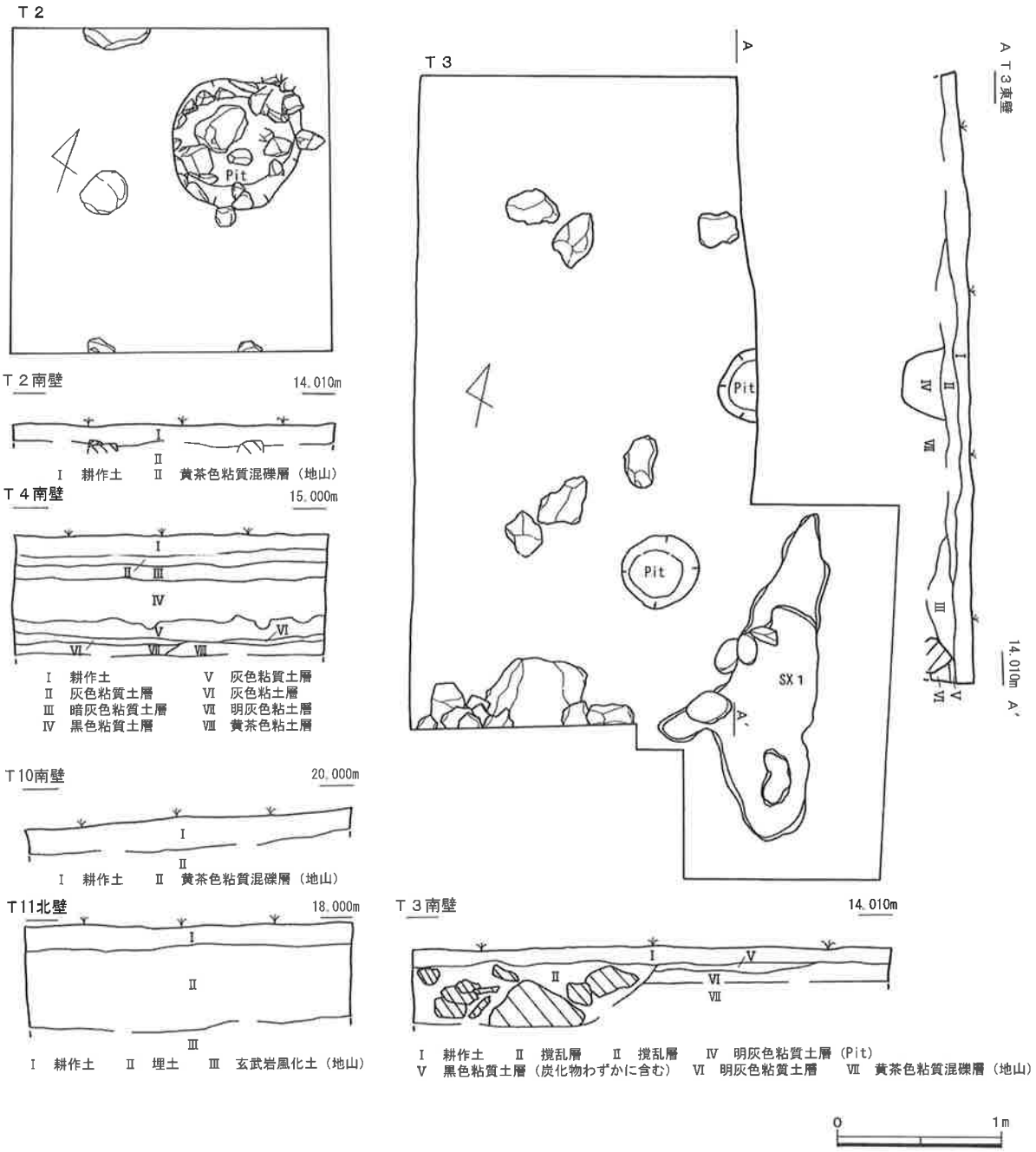
調　　査　調査は遺跡範囲を確認するため、２月24日から３月17日にかけて、第１区から第３区まで設定し範囲確認調査を実施した。

第１区一帯は第22～24次、第２区一帯は第12次、第３区一帯は第17次と範囲確認調査を実施してきた経緯がある。第１区は２ｍ×２ｍの調査区を３箇所と２ｍ×４ｍを基本とした調査区を１箇所、第２区は２ｍ×２ｍの調査区を６箇所、第３区は２ｍ×２ｍの調査区を２箇所設定した。第１区から第３区まで合計12箇所設定し、最終的な調査面積は合計54.4㎡を人力掘削による調査を実施した。



第19図　27次調査区設定図（１/1,500）

検出遺構　全ての調査区の第Ⅰ層は耕作土である。Ｔ１・Ｔ２の耕作土を取り除くと直下に黄茶色粘質混礫土の基盤層に至り、Ｔ２には基盤層に掘り込まれる形でピットが一基検出できた。Ｔ３の第Ⅱ層は撹乱層で、取り除くと黄茶色粘質混礫土の基盤層に掘り込まれる形でピットが二基確認できた。他に検出できた遺構もあるが、削平されておりどのような性格か判断がつかなかったため不明遺構（ＳＸ１）とした。なお、不明遺構は完掘できたものの、基盤層まで掘ることができなかった。Ｔ４は耕作土を取り除くと黒色粘質土層（ボタ）に至り、ボタの埋土による造成が行われていることが確認できた。



第20図　27次調査区平面図・土層図（1/40）

Ｔ５からＴ７・Ｔ９・10は耕作土を取り除くと直下に黄茶色粘質土の基盤層に達した。現状に至るまでの造成により削平されていることが確認できた。Ｔ８は耕作土を取り除くと造成土に至り、赤褐色玄武岩風化土の基盤層に至った。Ｔ11・Ｔ12は耕作土を取り除くと茶褐色混礫土の厚い埋土の下に黄茶色岩盤を確認した。

出土遺物　１は黒曜石製の剥片で、二次加工が確認できる。２は弥生土器の口縁部であるが、摩滅しており非常に残りが悪い。胎土に石英を多く含んでいる。１・２ともにＴ３の不明遺構（ＳＸ１）から出土している。

第21図　27次調査出土遺物（１/２）

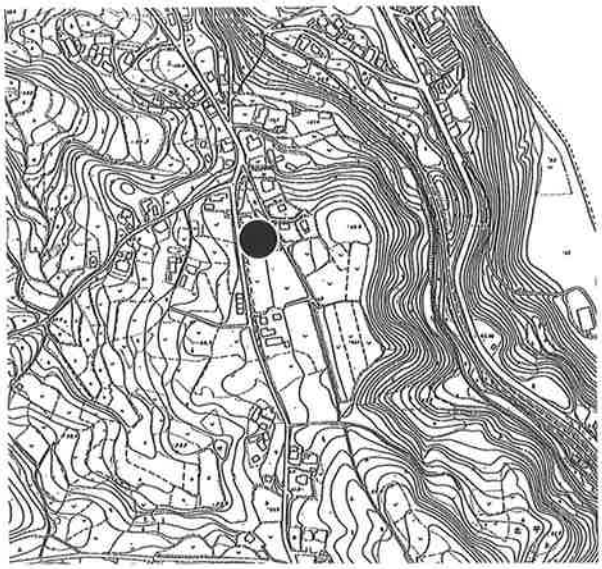
第Ⅴ章　平成26年度確認・試掘調査の概要

平成26年度に確認・試掘調査を実施した寺ノ尾Ａ遺跡、栢ノ木遺跡、久保園遺跡について概説する。

１．寺ノ尾Ａ遺跡第１次調査

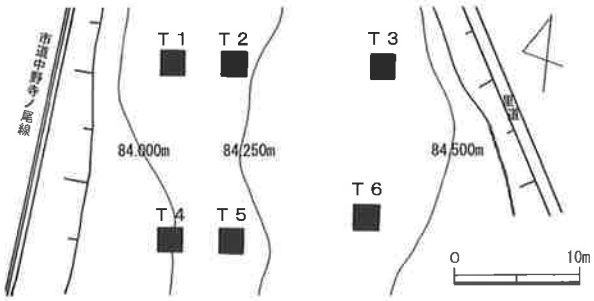
（第22図～第24図　表３　図版３）

立　　地　本遺跡は、市の中心部より北西の御厨町下登木免に位置している。遺跡の中心部を市道中野寺ノ尾線が、南側には市道横久保白岳線が走っている。本遺跡周辺の南側に寺ノ尾Ｂ遺跡・寺ノ尾Ｃ遺跡が位置している。



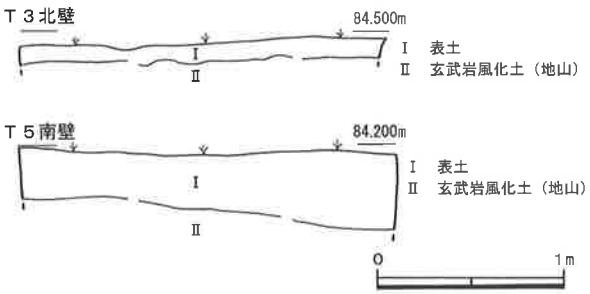
第22図　寺ノ尾Ａ遺跡位置図（１/10,000）

調　　査　５月26日付けにて個人住宅建築に伴う埋蔵文化財発掘の届出を受け、５月29日から６月２日にかけて範囲確認調査を実施した。２ｍ×２ｍの調査区を６箇所設定し、合計24㎡を人力掘削による調査を実施した。



第23図　１次調査区設定図（１/600）

検出遺構　全ての調査区の第Ⅰ層は耕作土である。耕作土を取り除くと赤褐色玄武岩風化土の基盤層に至った。過去の造成により調査地全体が削平されており、遺構・遺物包含層は確認できなかった。



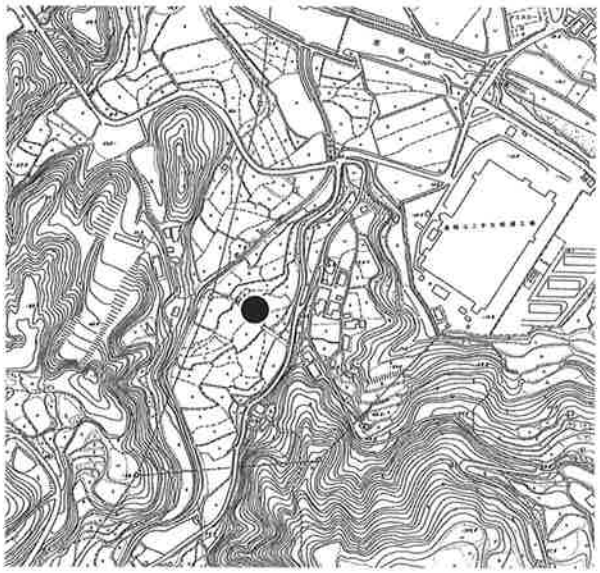
第24図　１次調査区土層図（１/40）

出土遺物　調査によって出土した遺物は全て耕作土からで、黒曜石製剥片、土師器片等が確認できた。

２．栢ノ木遺跡第28次調査

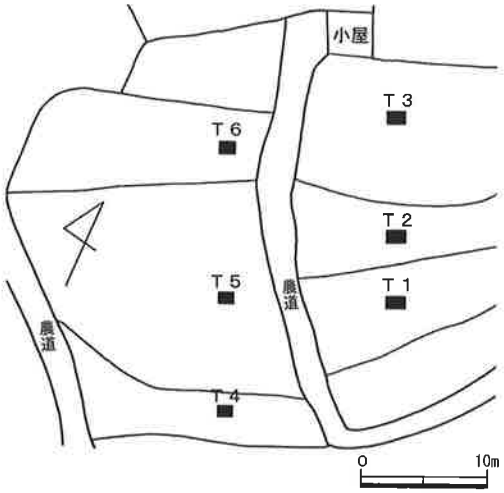
（第25図～第27図　表３　図版３）

立　　地　本遺跡は、市の中心部を流れる志佐川西部の河岸段丘から佐々山川、庄野川流域の沖積平野に広がる水田地帯にかけて位置している。



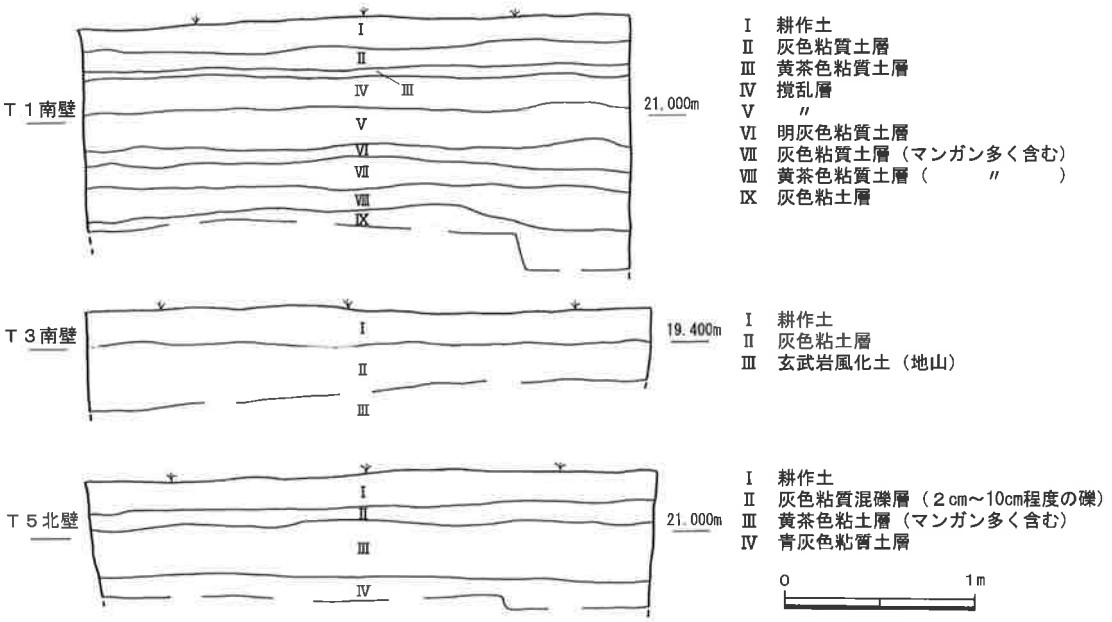
第25図　栢ノ木遺跡位置図（１/10,000）

調　　査　調査は遺跡範囲を確認するため、12月１日から12月12日にかけて、範囲確認調査を実施した。調査区一帯は第７次・８次・16次と範囲確認調査を実施してきた経緯がある。２ｍ×３ｍの調査区を６箇所設定し、合計36㎡を人力掘削による調査を実施した。なお、埋め戻しは、湧水があることから慎重を期して重機を活用した。



第26図　28次調査区設定図（１/600）

検出遺構　全ての調査区の第Ⅰ層は耕作土である。Ｔ１・Ｔ２・Ｔ４・Ｔ５は湧水が激しく、地山まで掘りきることが出来なかった。Ｔ１は撹乱層、灰色、黄茶色の粘質土層に至り、灰色粘土層を約1.5m掘り下げたところ、Ｔ２・Ｔ４は人頭大の礫が入った分厚い埋土を約0.7m掘り下げたところ、Ｔ５は粘土層を取り除き、青灰色粘質土層に至った約50cmのところで掘削を断念した。Ｔ３・Ｔ６は第Ⅱ層の灰色粘質土層を取り除くと玄武岩風化土の地山に達した。過去の調査も含め、調査区付近全体が、現在の水田地帯に至るまでの造成により、本来の遺物包含層・遺構が削られていると考えられる。



第27図　28次調査区土層図（１/40）

出土遺物　調査によって出土した遺物は、主に耕作土、撹乱層、造成土からで、黒曜石製剥片、弥生土器片、近世磁器片等を確認できた。

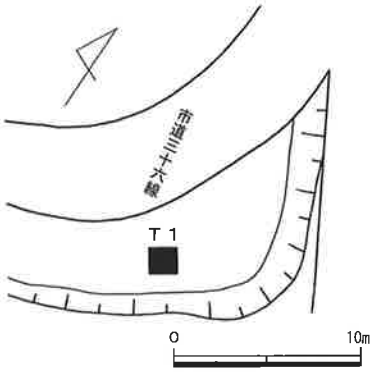
２．久保園遺跡第８次調査

（第28図～第30図　表３　図版３）

立　　地　本遺跡は、市の中心部を流れる志佐川の右岸河岸段丘上に位置している。遺跡の北側には中世の陣ノ内城跡が、南側には中世の集落跡である宮ノ下リ遺跡が位置している。

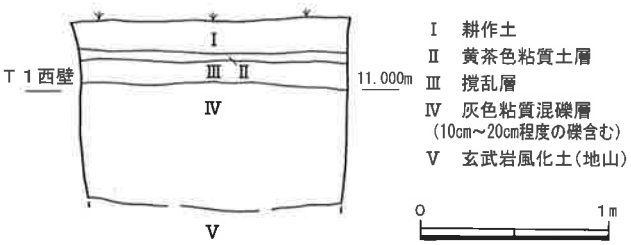
第28図　久保園遺跡位置図（１/10,000）

調　　査　12月１日付けにて無線基地局新設工事に伴い、久保園遺跡の範囲内であるため12月18日から12月19日にかけて範囲確認調査を実施した。調査区は1.5m×1.5mを１箇所設定し、合計2.3㎡を人力掘削による調査を実施した。



第29図　８次調査区設定図（１/400）

検出遺構　Ｔ１は表土を取り除くと、撹乱層、灰色粘土混礫の造成土に至り、玄武岩風化土の基盤層が確認できた。遺物包含層、遺構は確認できなかった。



第30図　８次調査区土層図（１/40）

出土遺物　調査によって出土した遺物は、全て耕作土と撹乱層からで、近世磁器片、白磁片が確認できた。

第Ⅵ章　鷹島海底遺跡出土鉄製品の透過Ｘ線撮影調査・Ｘ線ＣＴ調査について

１．はじめに

鷹島海底遺跡から出土する金属製品、特に鉄製品の多くは、蒙古襲来から現在までの約730年もの歳月にわたり、海底面下に埋没していた影響により、貝殻や砂を巻き込んだ厚い錆に覆われており、遺物本来の使用用途について、形状から把握することが非常に難しい状況である。

しかしながら、透過Ｘ線撮影調査やＸ線ＣＴ調査を行うことにより、厚い錆に覆われた遺物内部にある本来の遺物の形状や遺物の状態を知ることができる。

今回、平成13年度から平成14年度にかけて神崎港改修工事に伴う鷹島海底遺跡緊急調査で出土した鉄製品について、独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館でのＸ線ＣＴ調査と長崎県埋蔵文化財センターでの透過Ｘ線撮影調査を行ったので、その成果を報告する。なお、調査はまず長崎県埋蔵文化財センターで透過Ｘ線による撮影を行った後、遺物内部に特異な形状が確認できたもの、遺物の内部の画像が不明瞭なものについては九州国立博物館でＸ線ＣＴ調査を行うことにした。調査では、鉄製品は錆化が著しく進行しており、メタル分は失われ、遺物の形をした空洞が内部にあることが分かった。遺物の形状はＸ線ＣＴ画像では黒色、透過Ｘ線撮影画像では白色の影で表示されている。本文中の計測値はＸ線ＣＴ画像より求めた数値であり、遺物から求めたものではない。今回報告している鉄製品については『松浦市文化財調査報告書第４集　松浦市鷹島海底遺跡　総集編2011』遺物一覧表で報告したもののうち、整理ができた鉄製品に限っている。

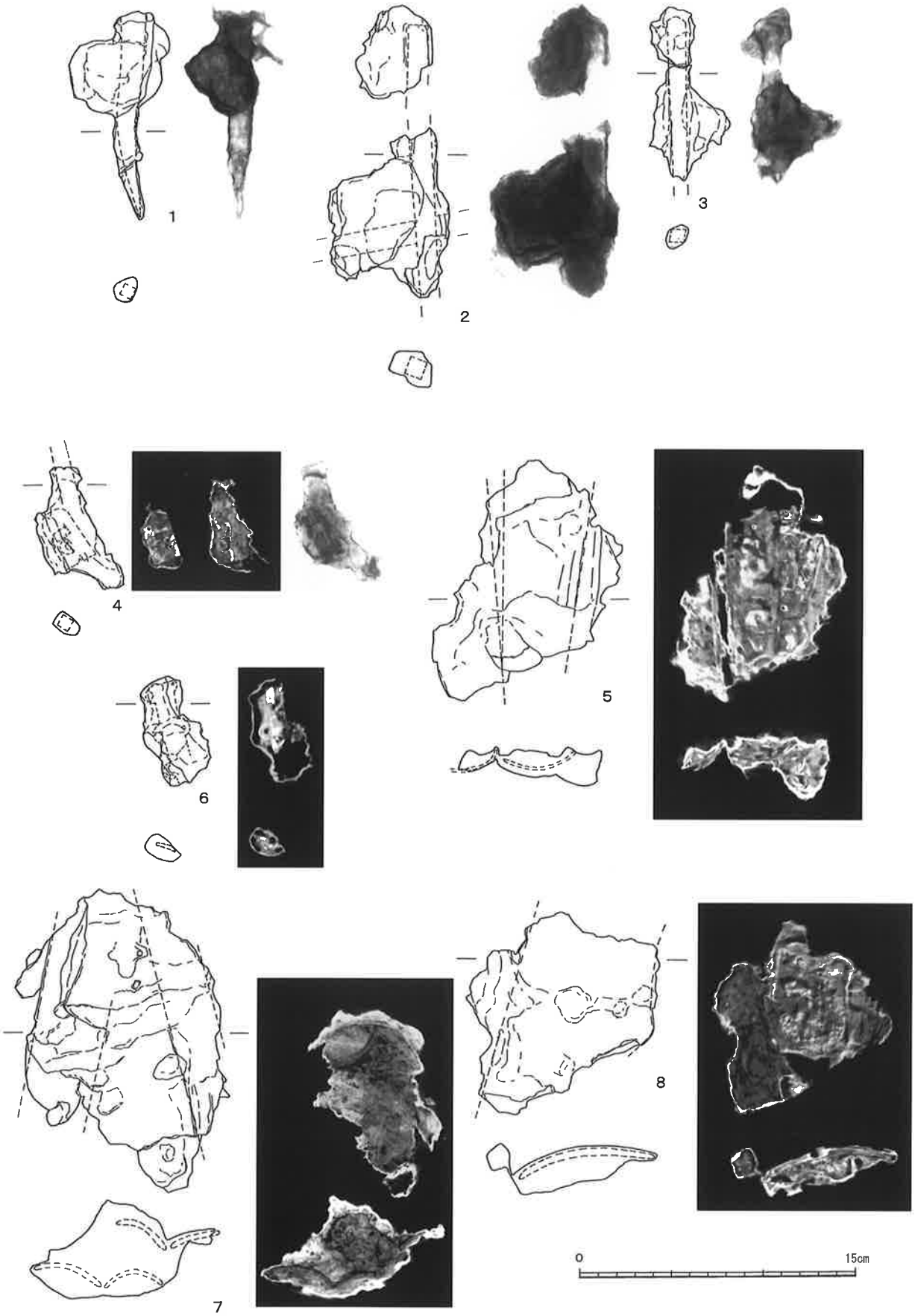
以下、調査を行った遺物の内、特徴的な結果が得られたものを紹介する。

４は釘と報告している。透過調査により、鉄釘だけでなく、内部に板状の遺物があることが分かった。更に詳しく内部構造を調査するため、ＣＴ調査を行った結果、板状遺物の中に鉸具などに見られる刺鉄があること、遺物は板状で四隅に釘が残存していることが分かった。釘の残存長は約９㎜、頭部幅は約２㎜である。板状部分の厚みは約1.2㎜である。画像では、板状遺物の表面が白く表示されることから、メッキ処理が施されている可能性があると考えられる。

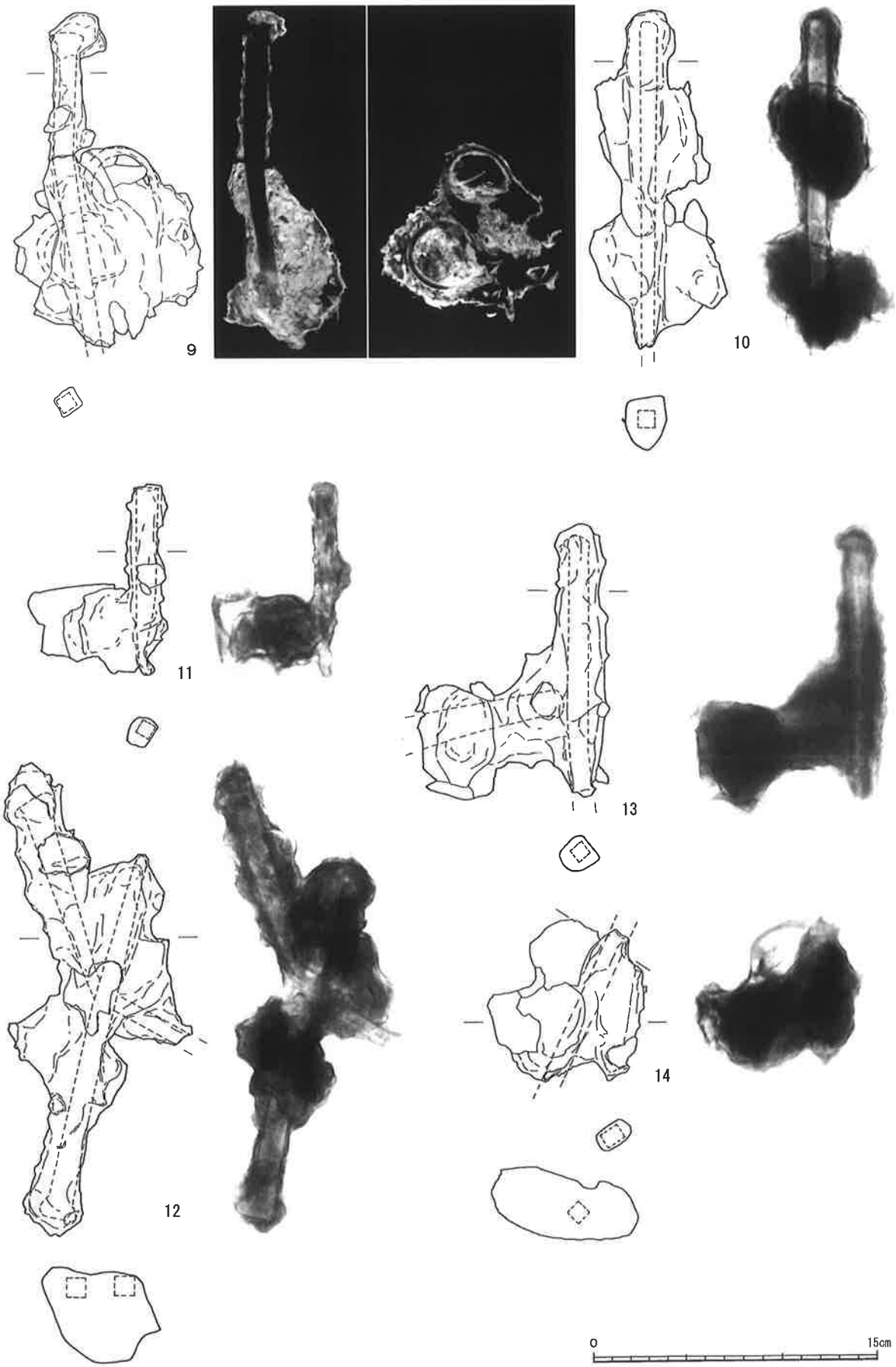
５～８は板状鉄製品と報告している。ＣＴ調査により、湾曲した板状鉄製品が錆化、溶着したものであることが分かった。遺物の形状より脛当てか籠手の一部であった可能性があると考えられる。

９は角釘、その他と報告している。ＣＴ調査により、角釘であることが確認できた。釘の先端部の錆の中に輪状の鉄製品が確認できた。輪状鉄製品の残存状態が悪いため、本来の形状は不明である。

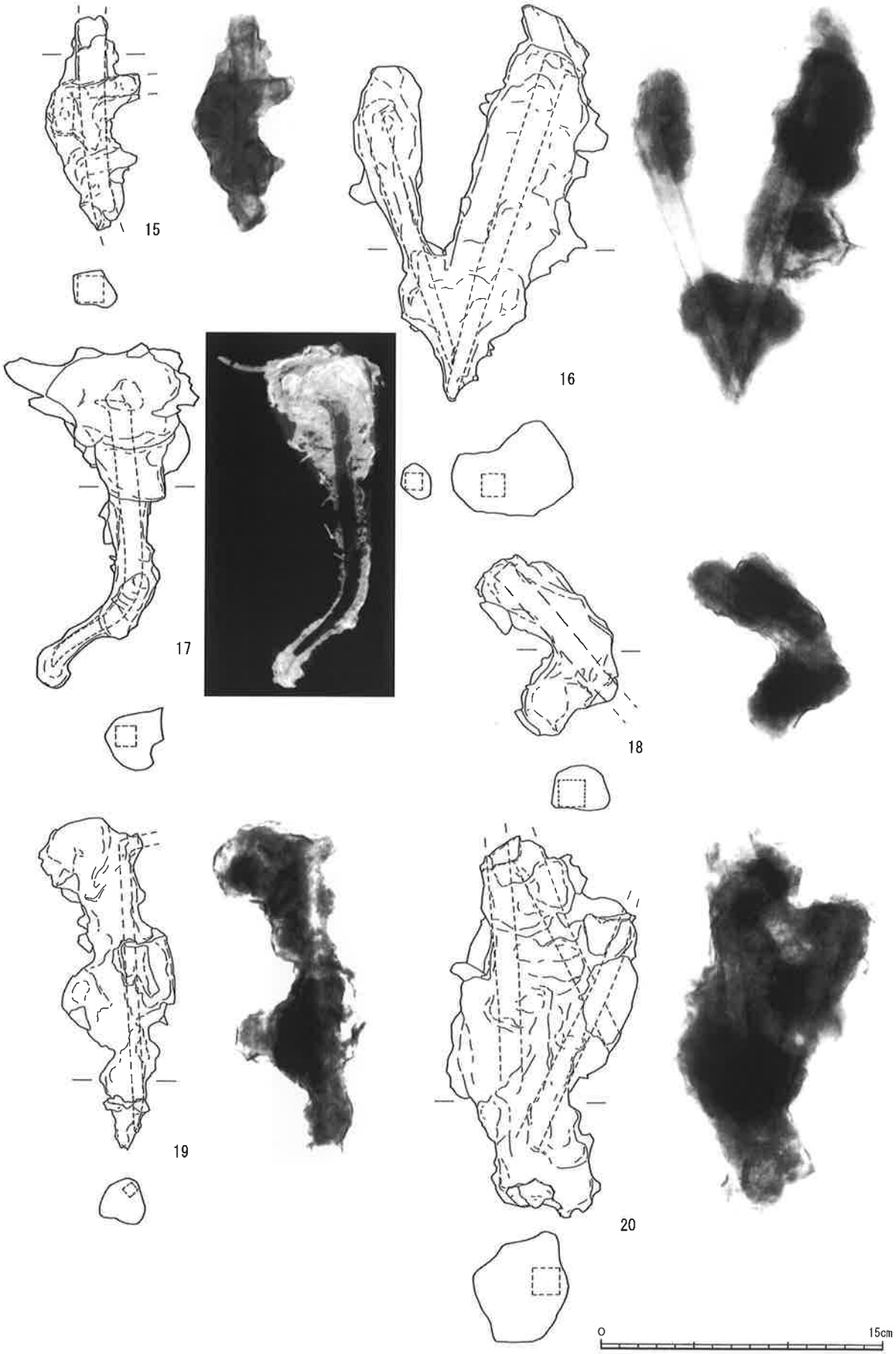
28は矢束である。矢が胡禄などにまとめられた状態で錆化している。ＣＴ調査の結果、内部に矢が隙間なく密集していることが確認できた。また、断面画像より80本以上の矢が内部にあることが確認できた。



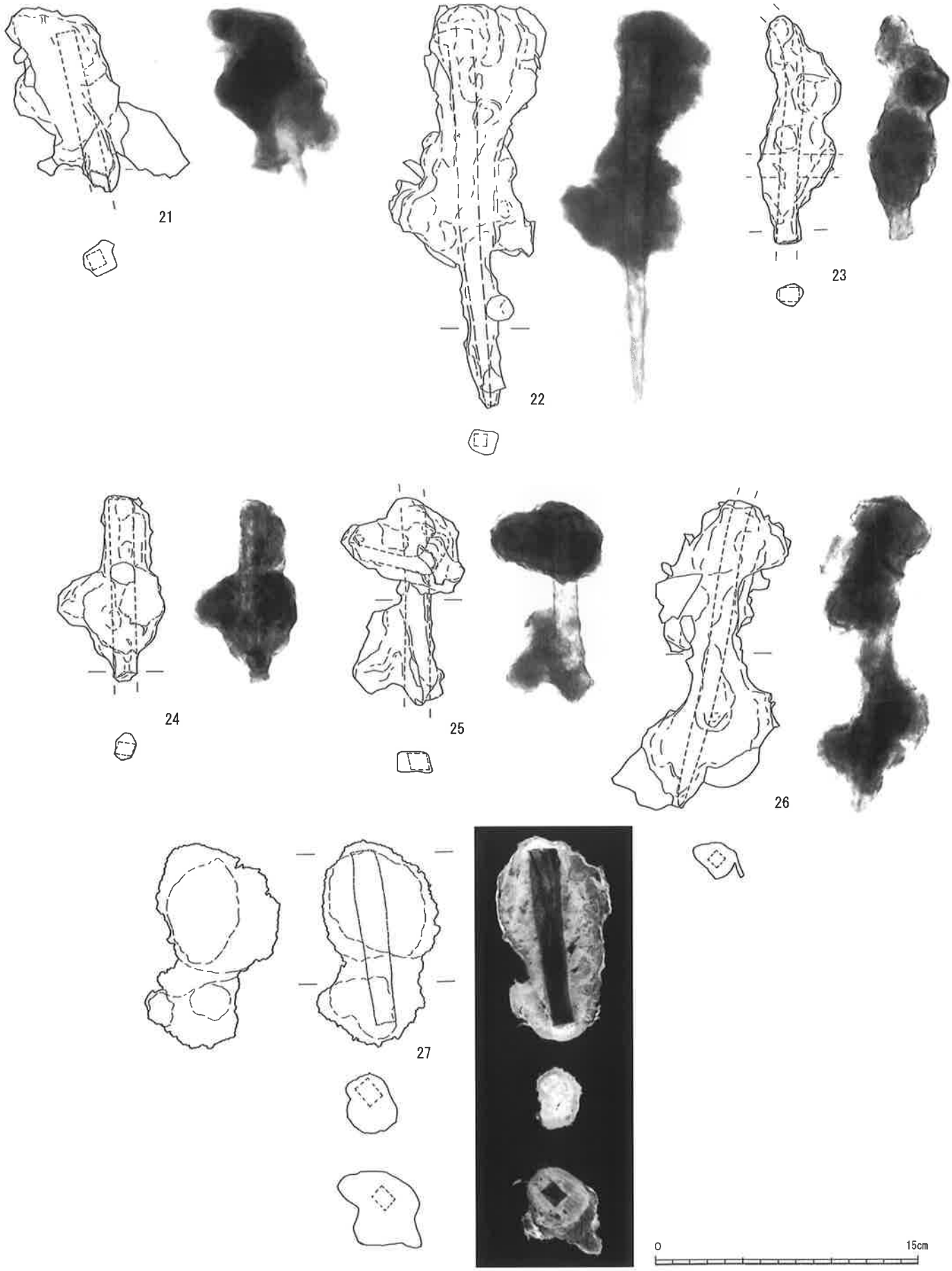
第31図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像①（1/3）



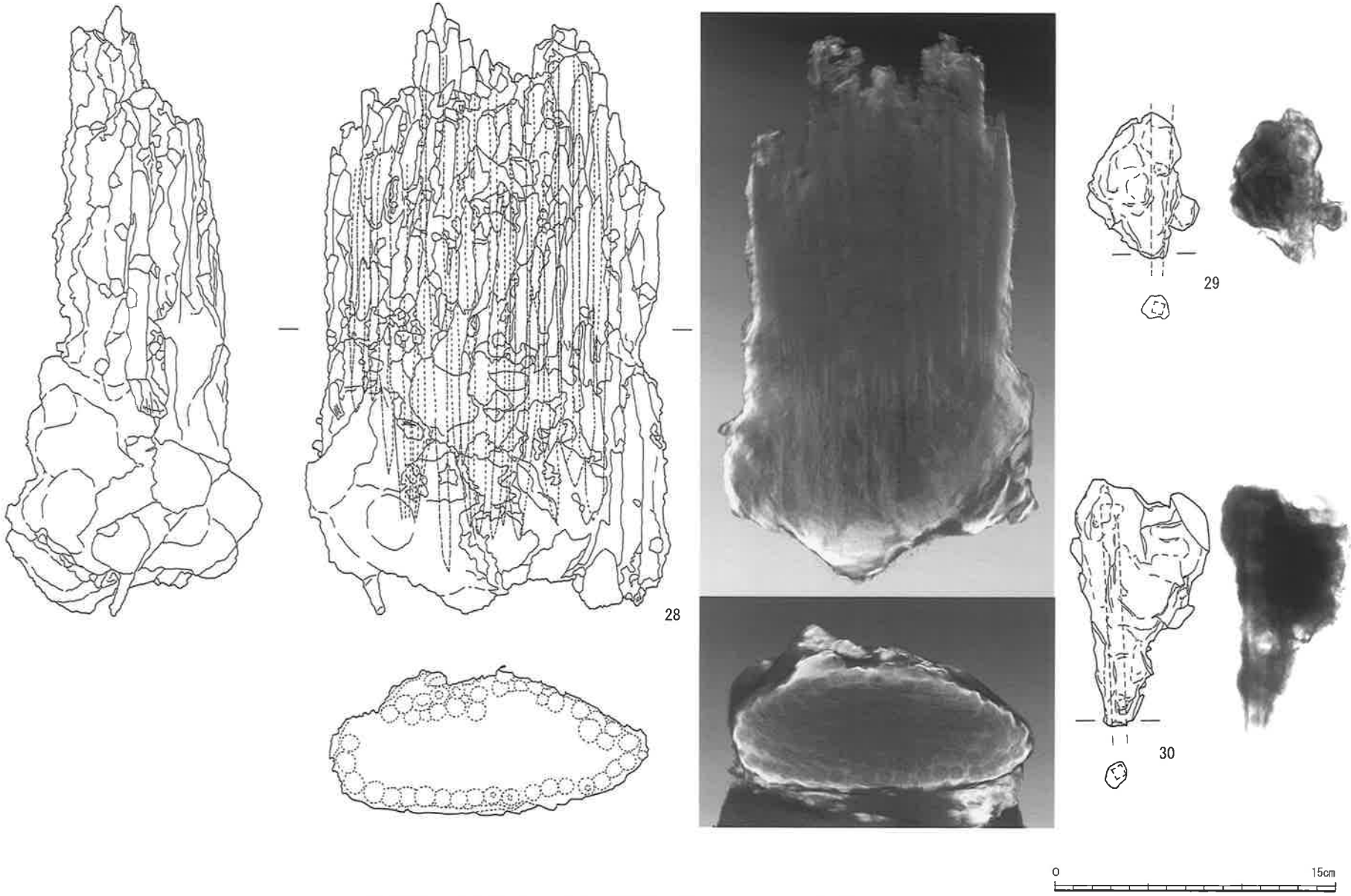
第32図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像②（１/３）



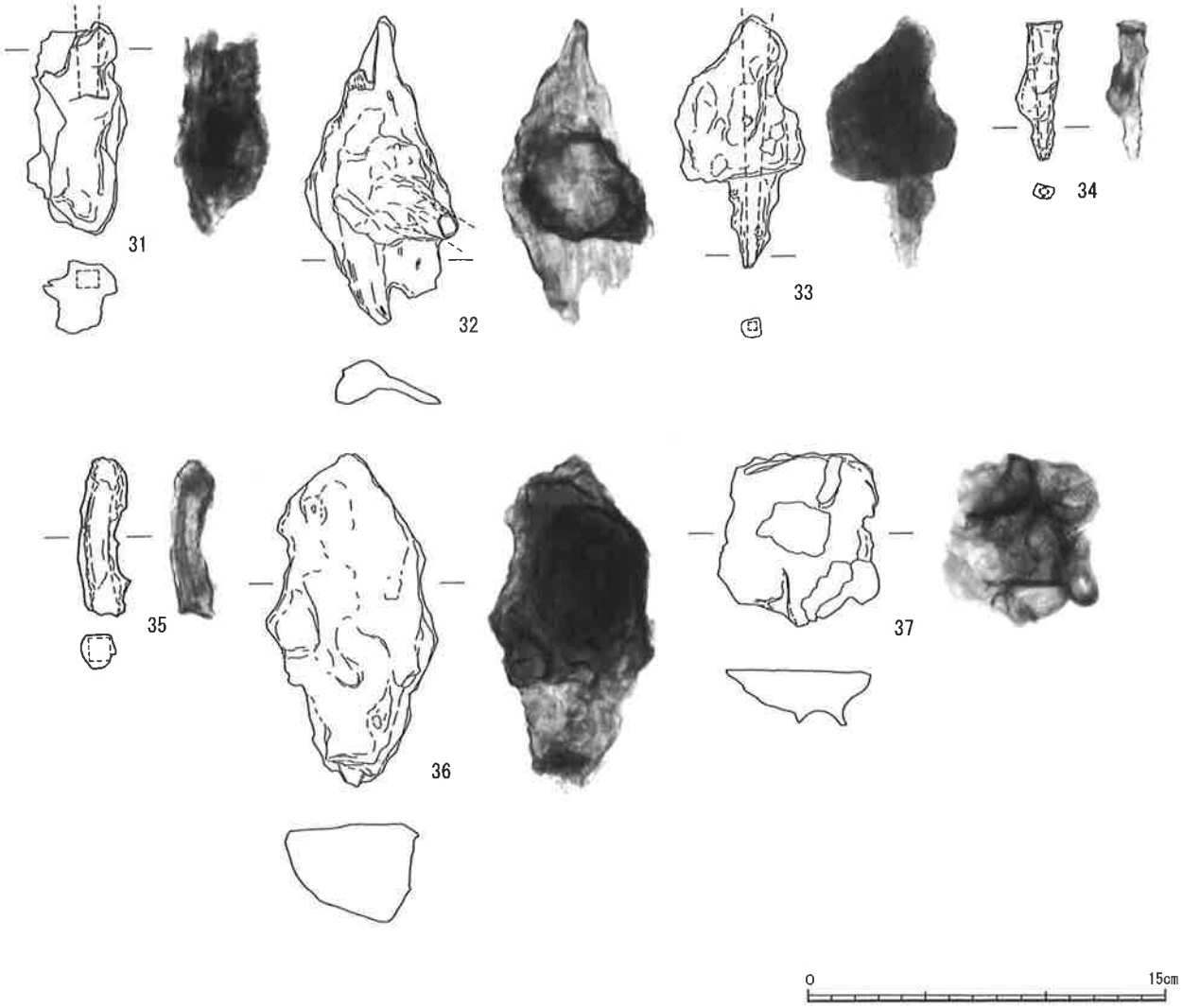
第33図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像③（１/３）



第34図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像④（１/３）



第35図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑤（１/３）



第36図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑥（１/３）

38は鉄剣と報告している。ＣＴ調査の結果、鉄剣ではなく鉄刀であり、鍔が確認できたことから鉄刀の柄の周辺部であることが分かった。鉄刀の刀身は残存しておらず、鞘の部分が錆化している状態である。また、錆の中に鉸具と考えられる銅製帯金具があることも明らかになった。鉸具の刺鉄は欠損している。

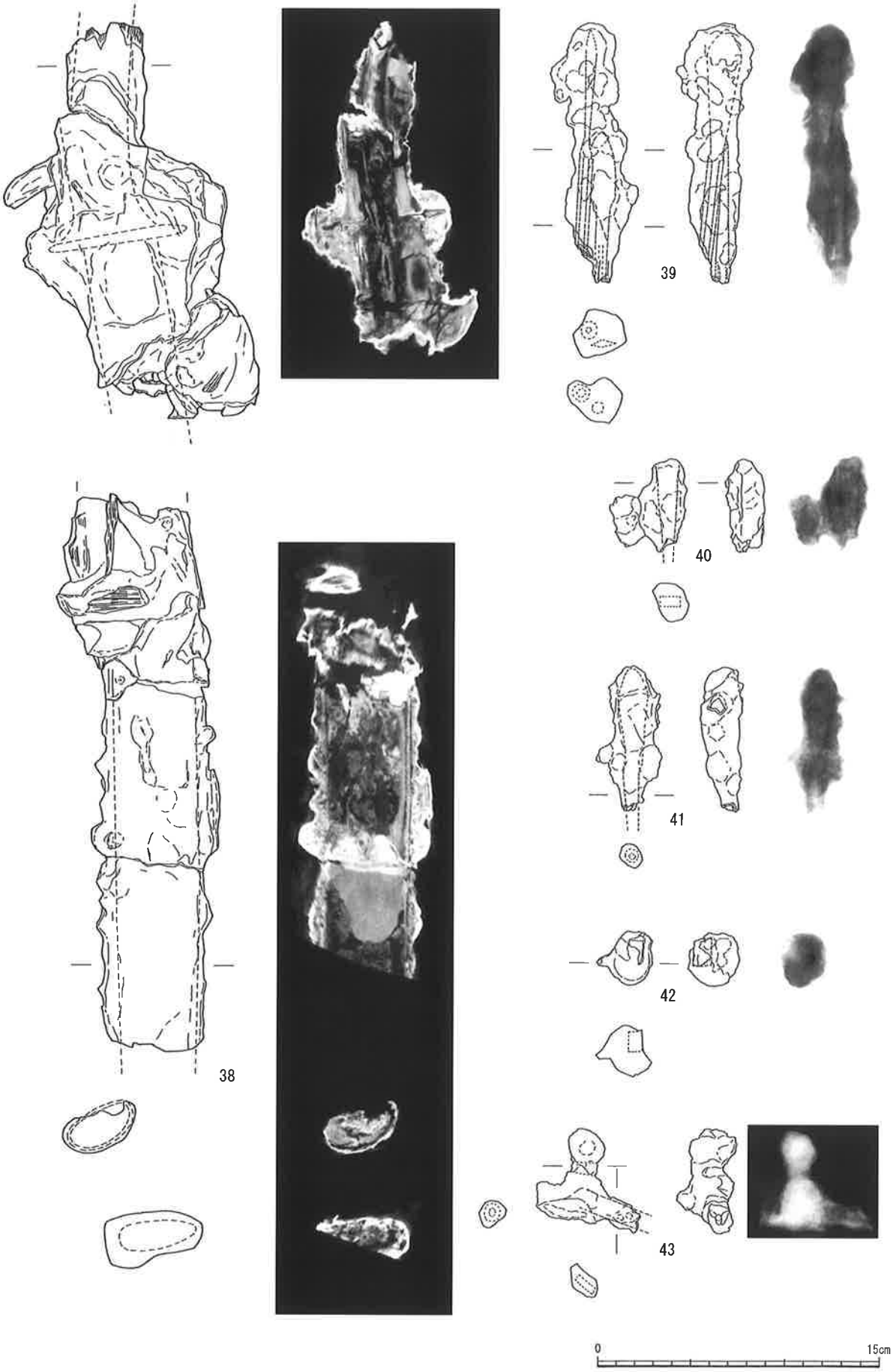
39は鉄釘と報告している。透過調査、ＣＴ調査の結果、鉄鏃であることが分かった。並んだ２本の鉄鏃が錆化、溶着している。

45は鉄製品と報告している。透過調査の結果、鉤状鉄製品であることが分かった。用途不明。

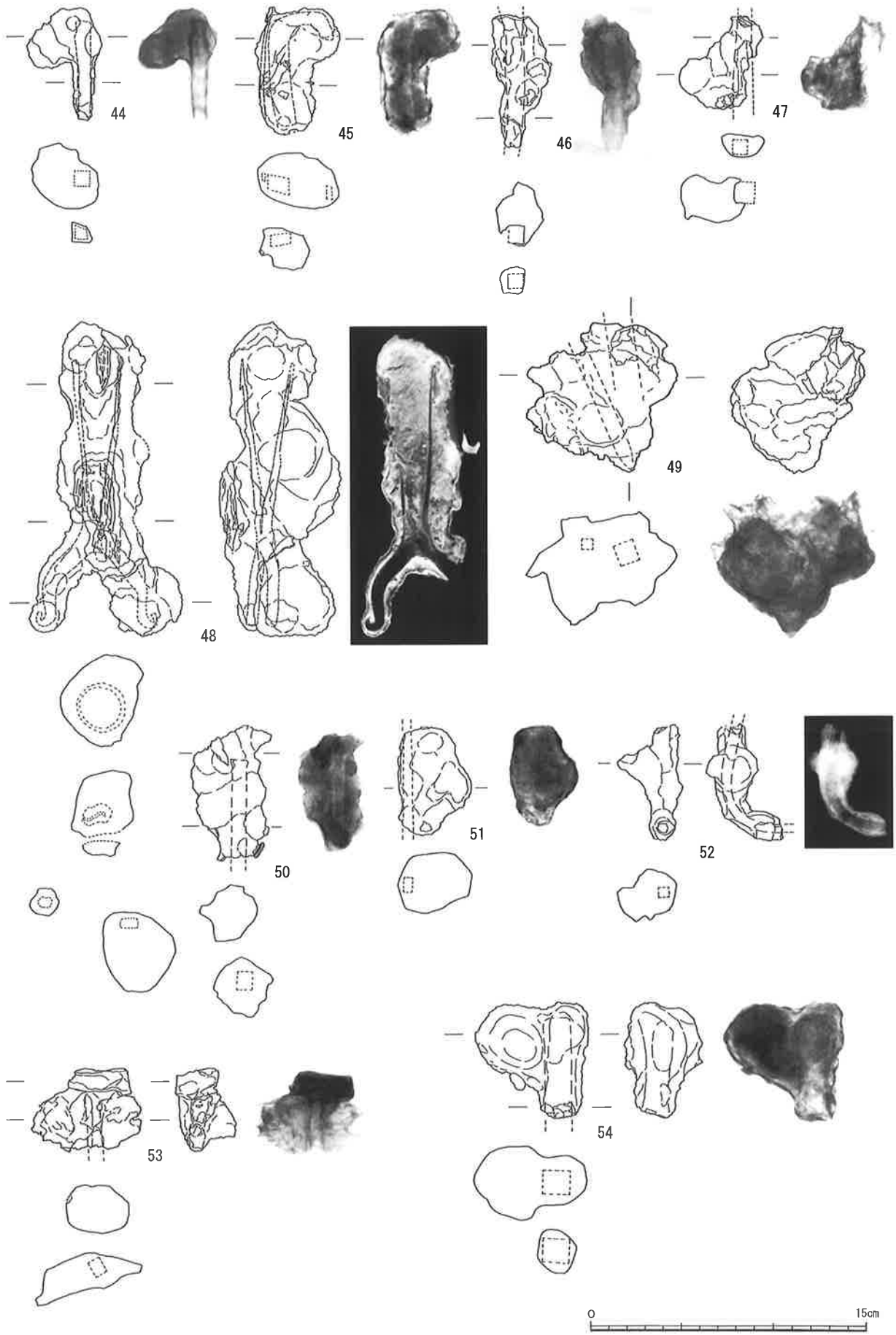
48は鉄釘と報告している。透過調査の結果、刺又状鉄製品であることが分かった。先端部に刃が確認できなかった。用途不明。

53は鉄釘と報告している。透過調査で角釘であることが確認できた。透過画像より、釘の周辺に木質が錆化して残存していることが分かった。

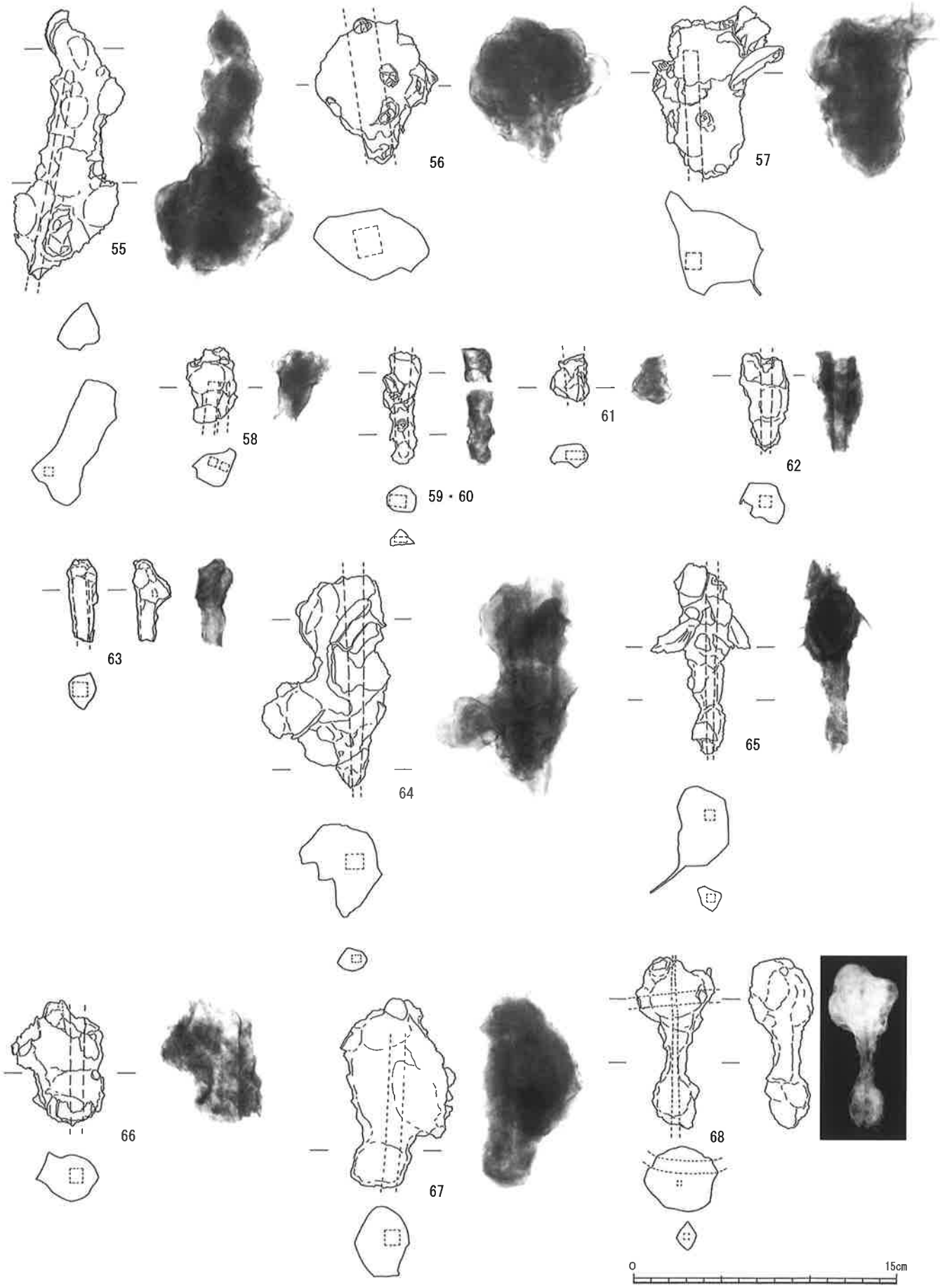
71は鉄製品と報告している。透過調査の結果、角釘であることが分かった。透過画像より、釘の頭部から先端までの形状が明らかになった。



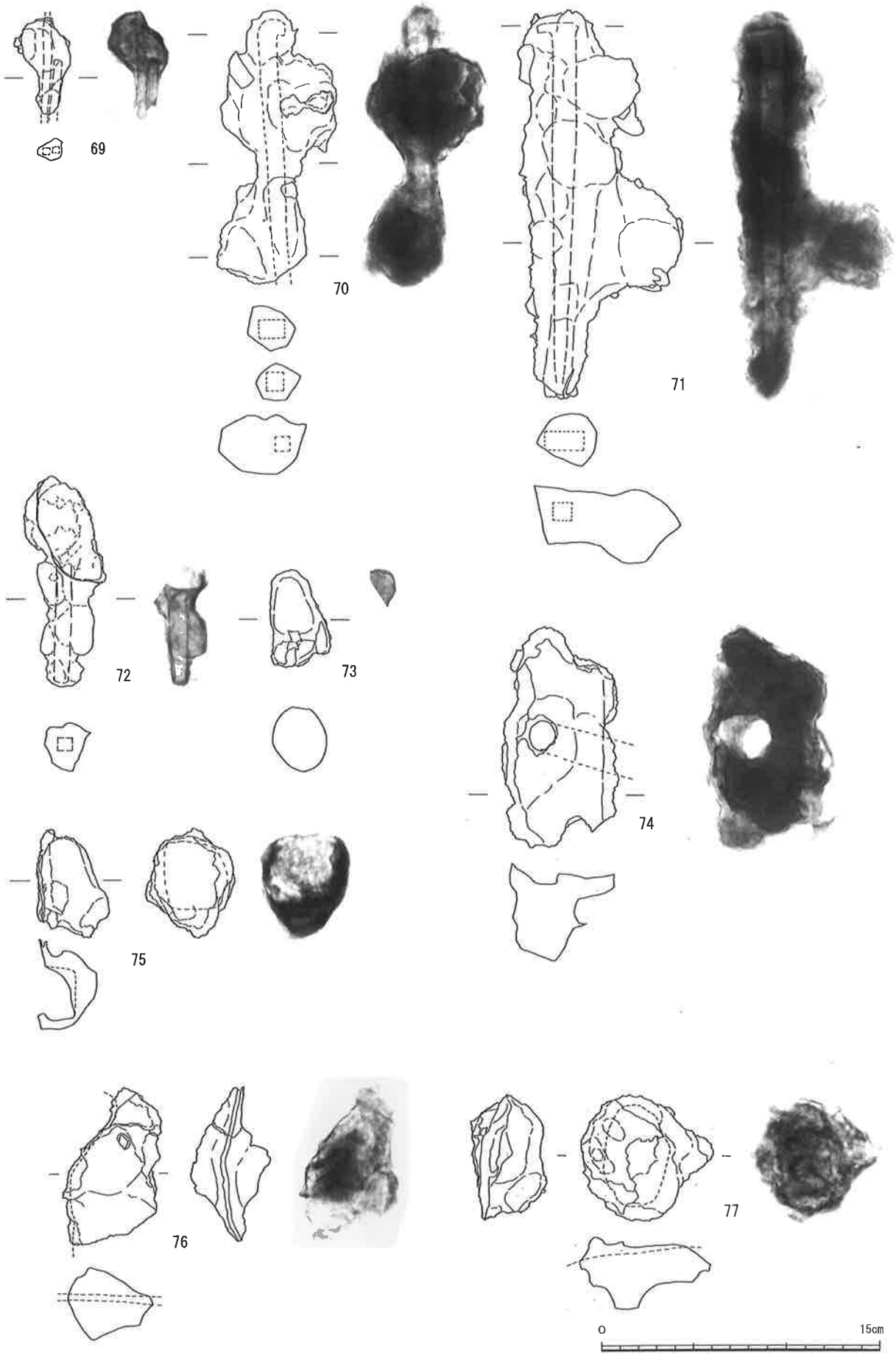
第37図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑦（１/３）



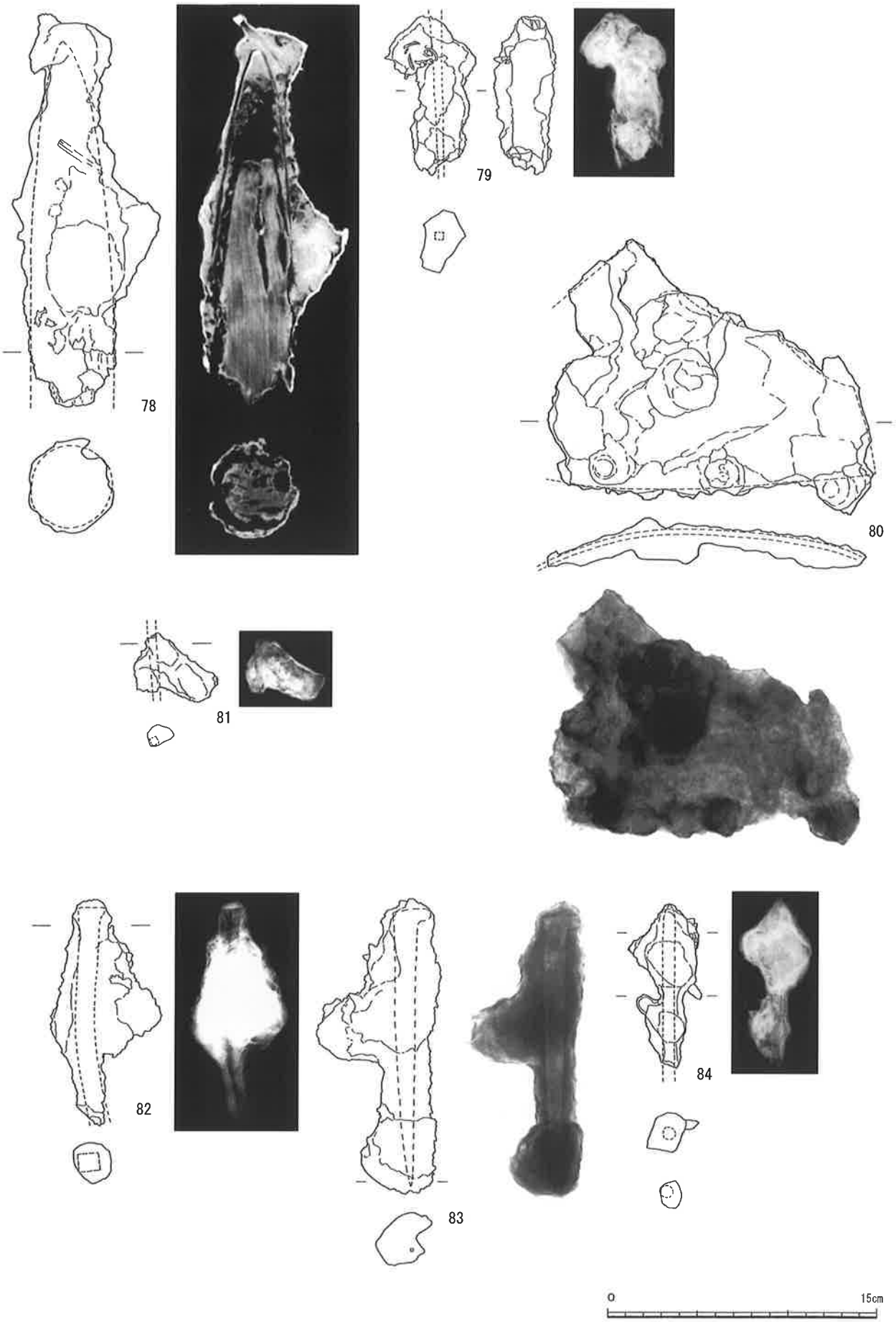
第38図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑧（１/３）



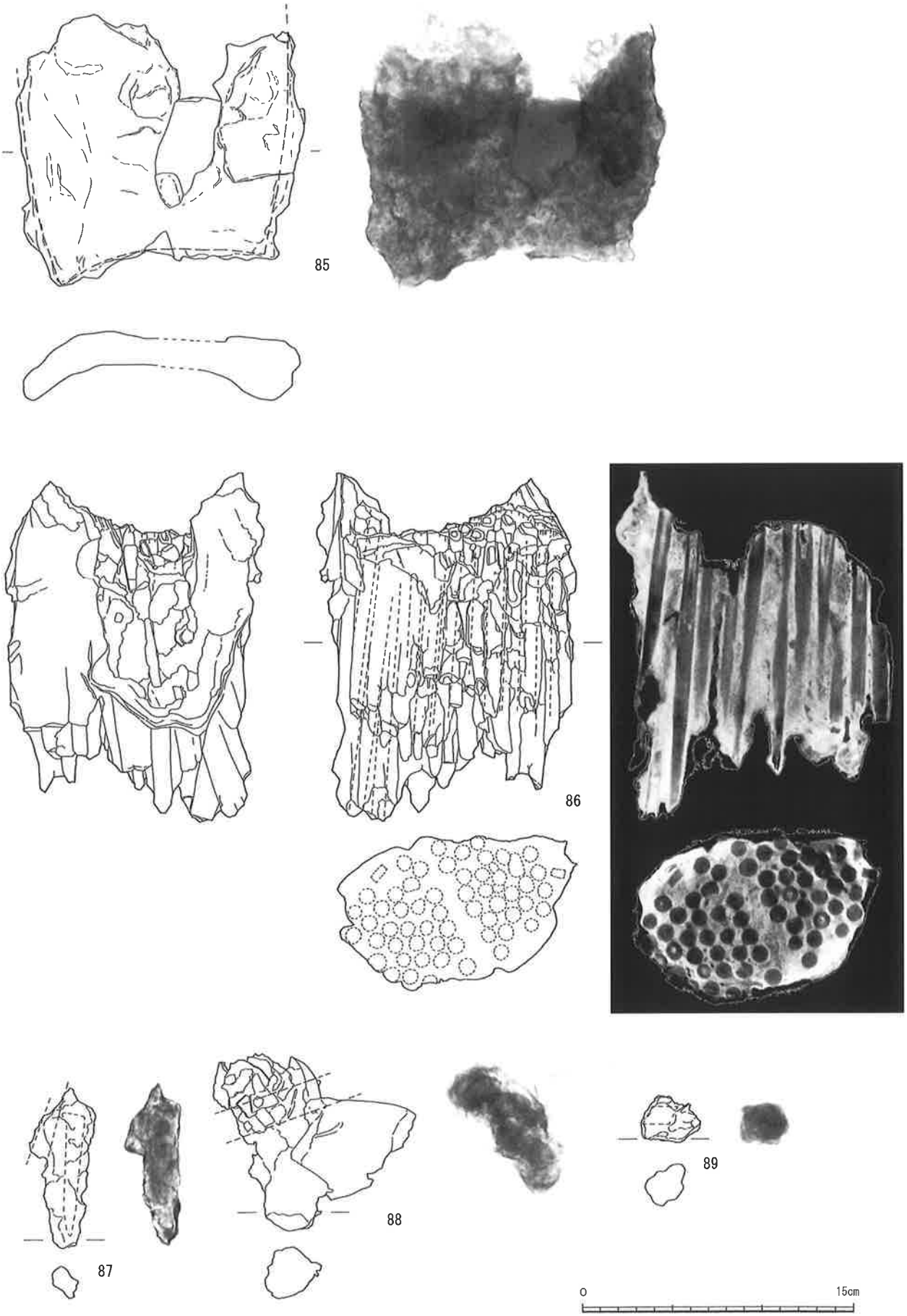
第39図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像⑨（1/3）



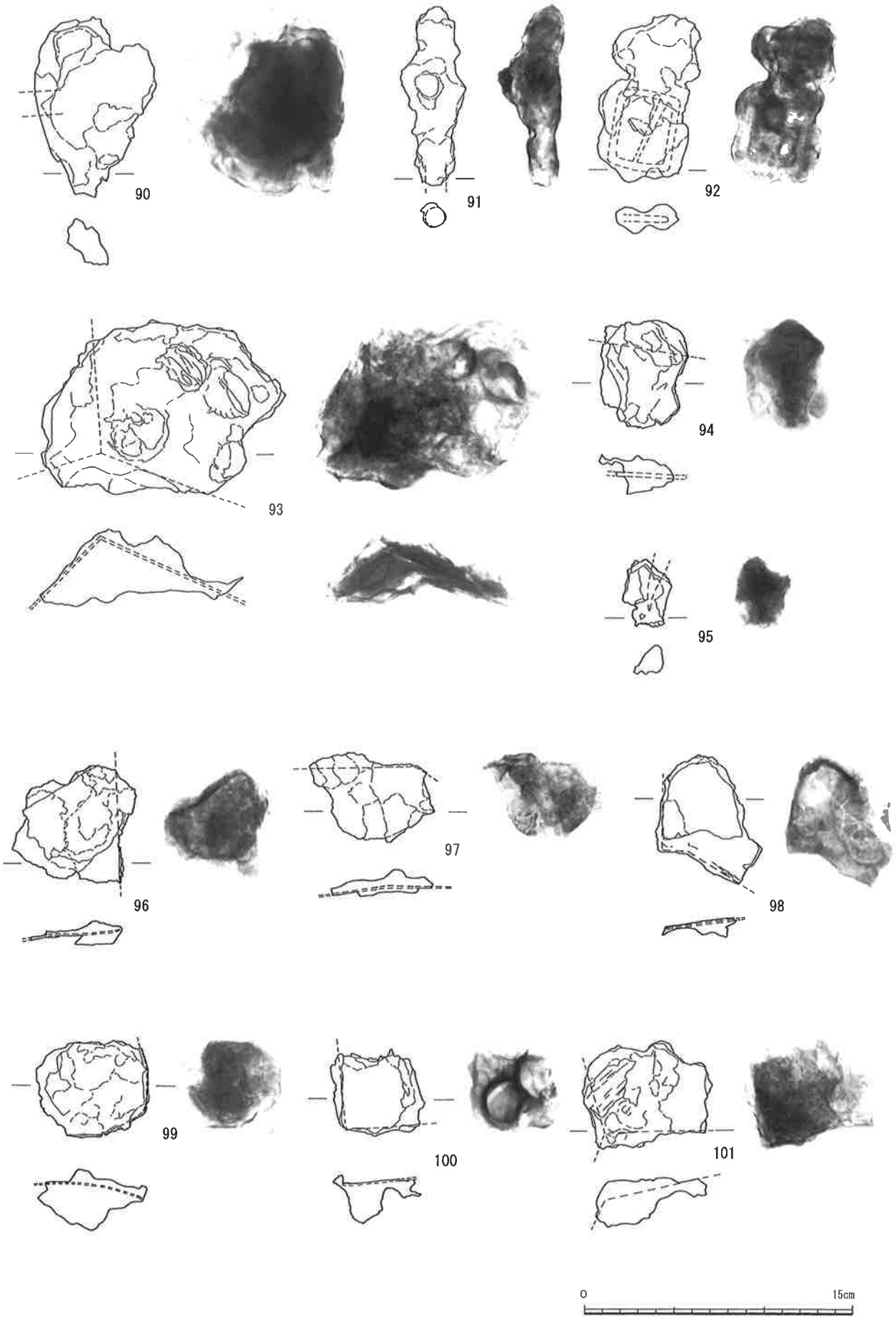
第40図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像⑩（1/3）



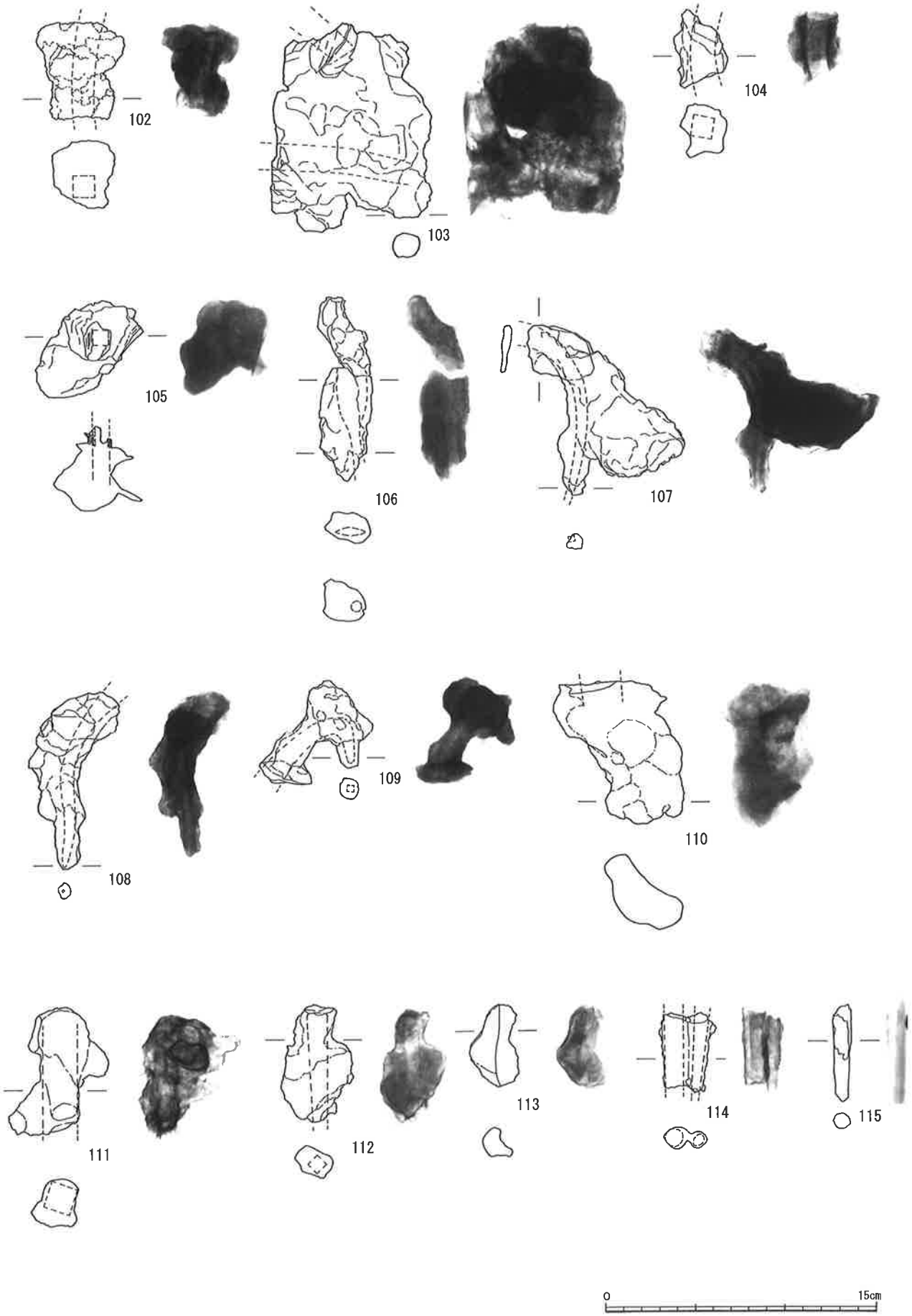
第41図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像⑪（1/3）



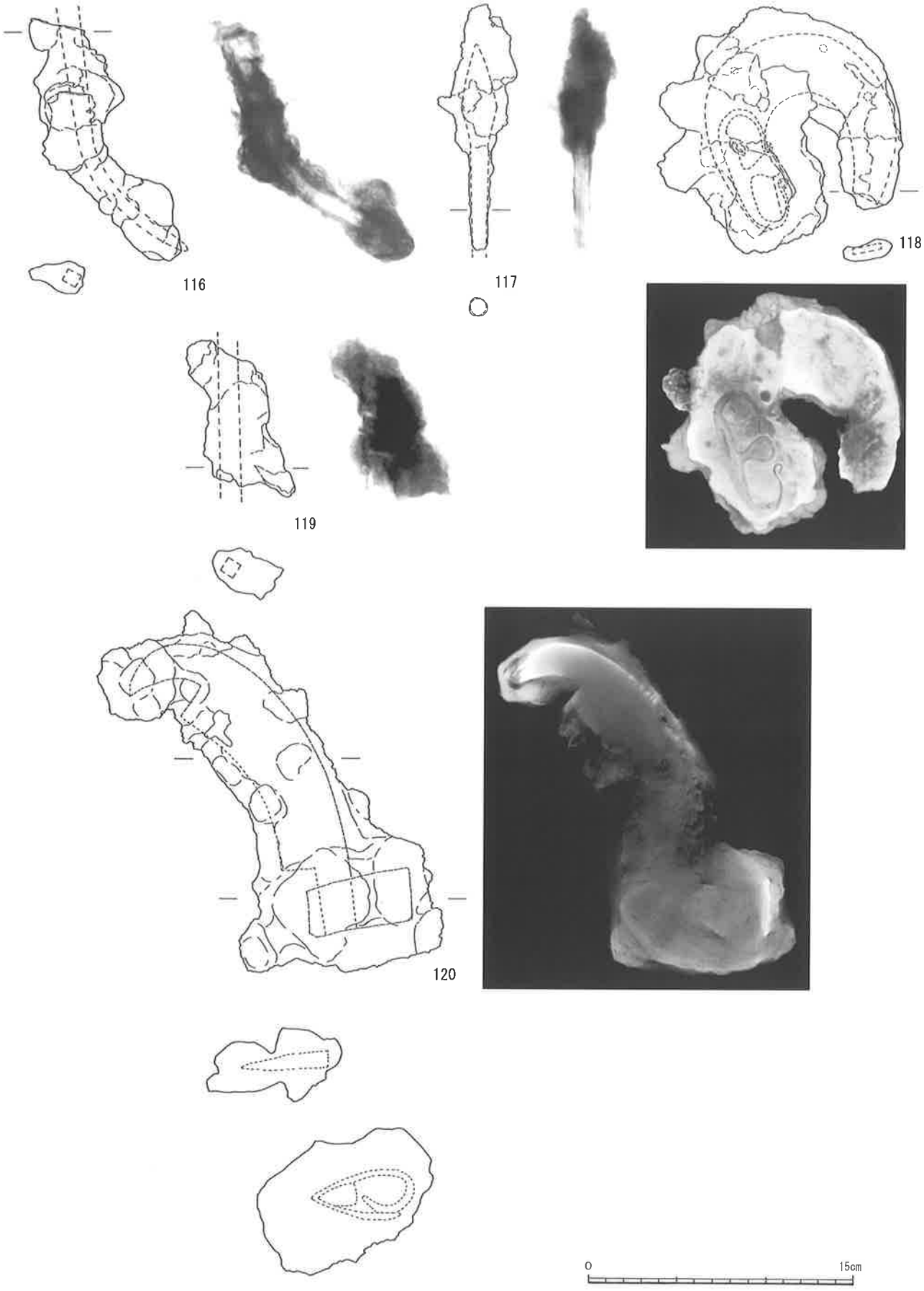
第42図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑫（１/３）



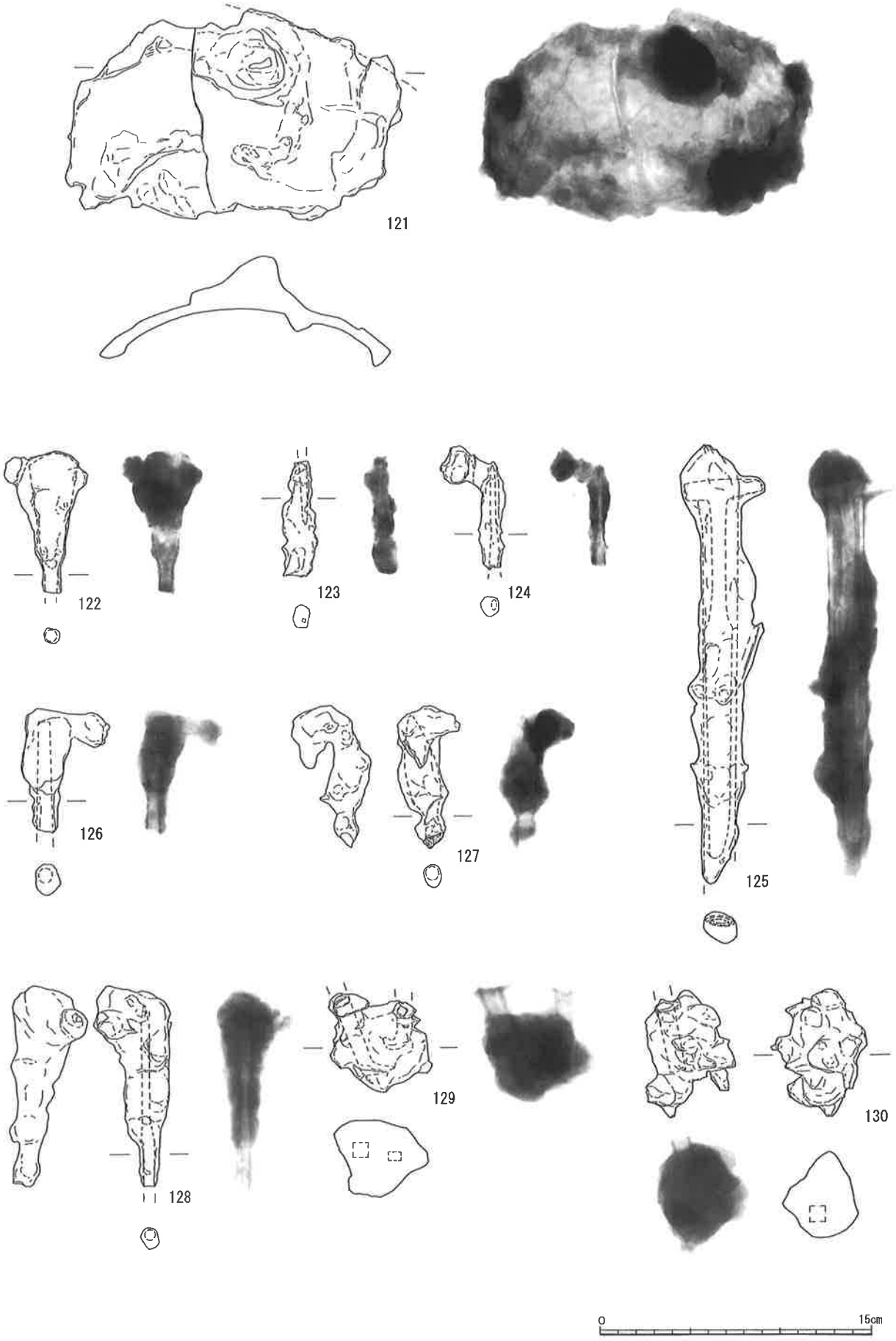
第43図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑬（１／３）



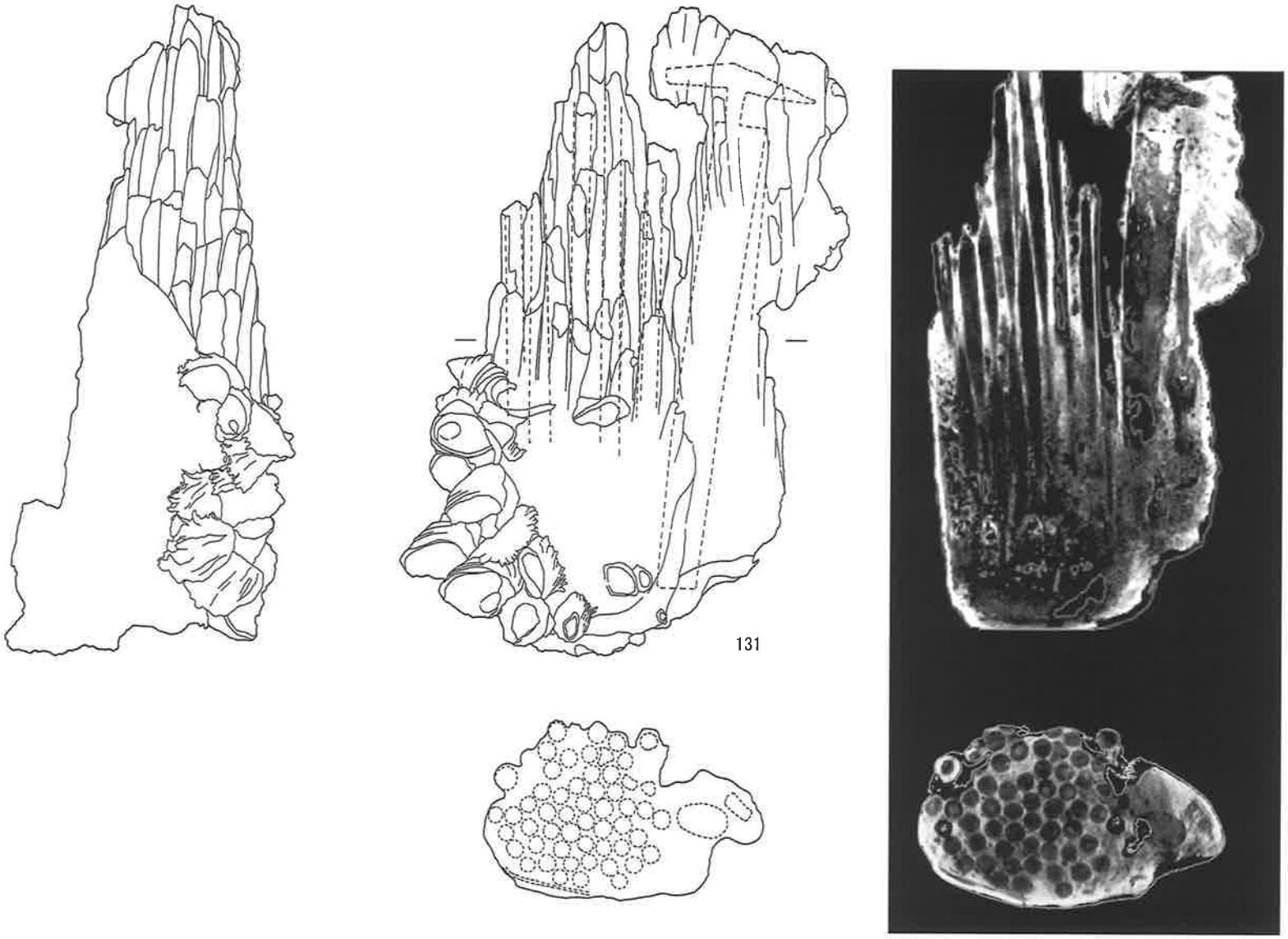
第44図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像⑭（1/3）



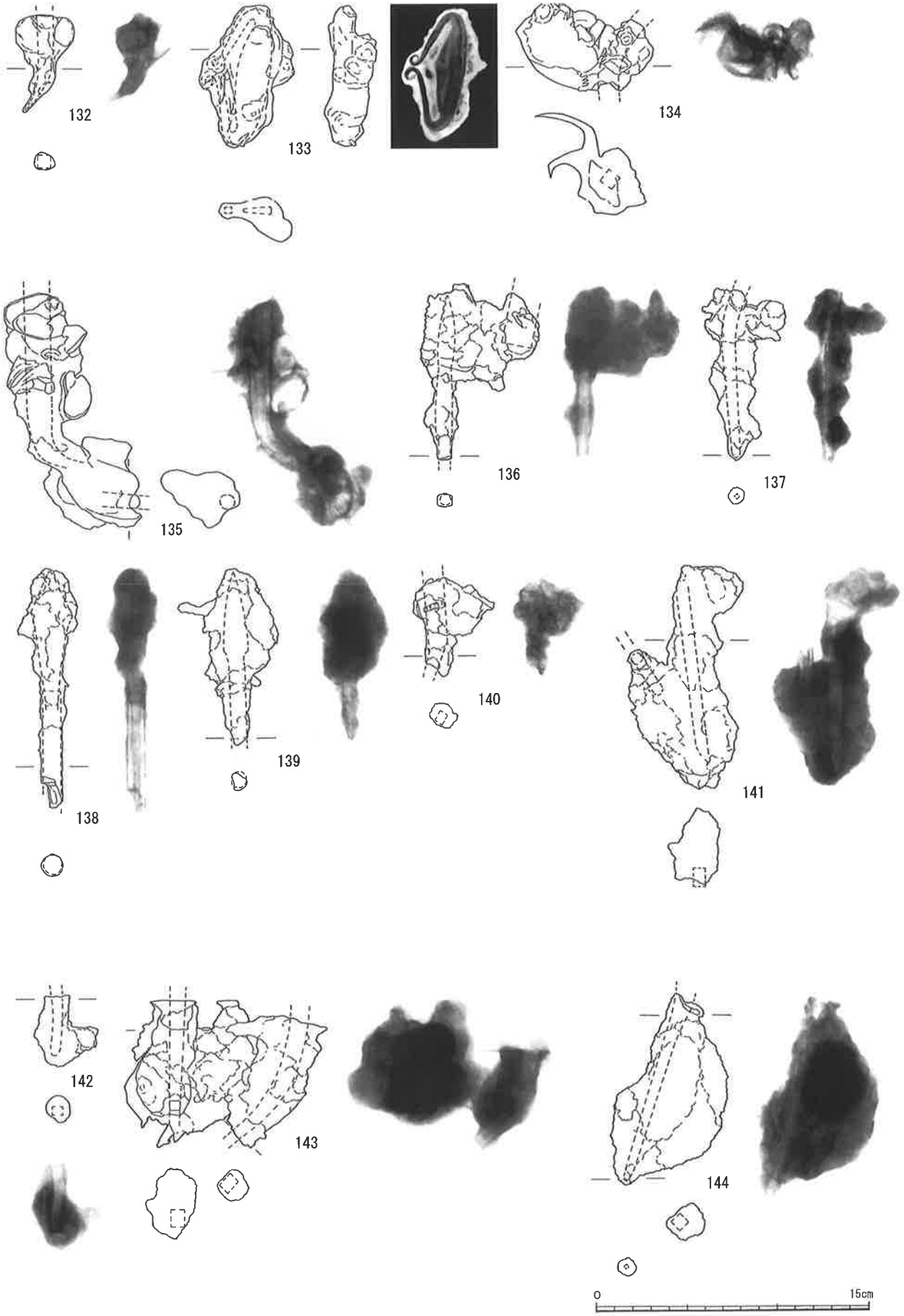
第45図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像⑮（1/3）



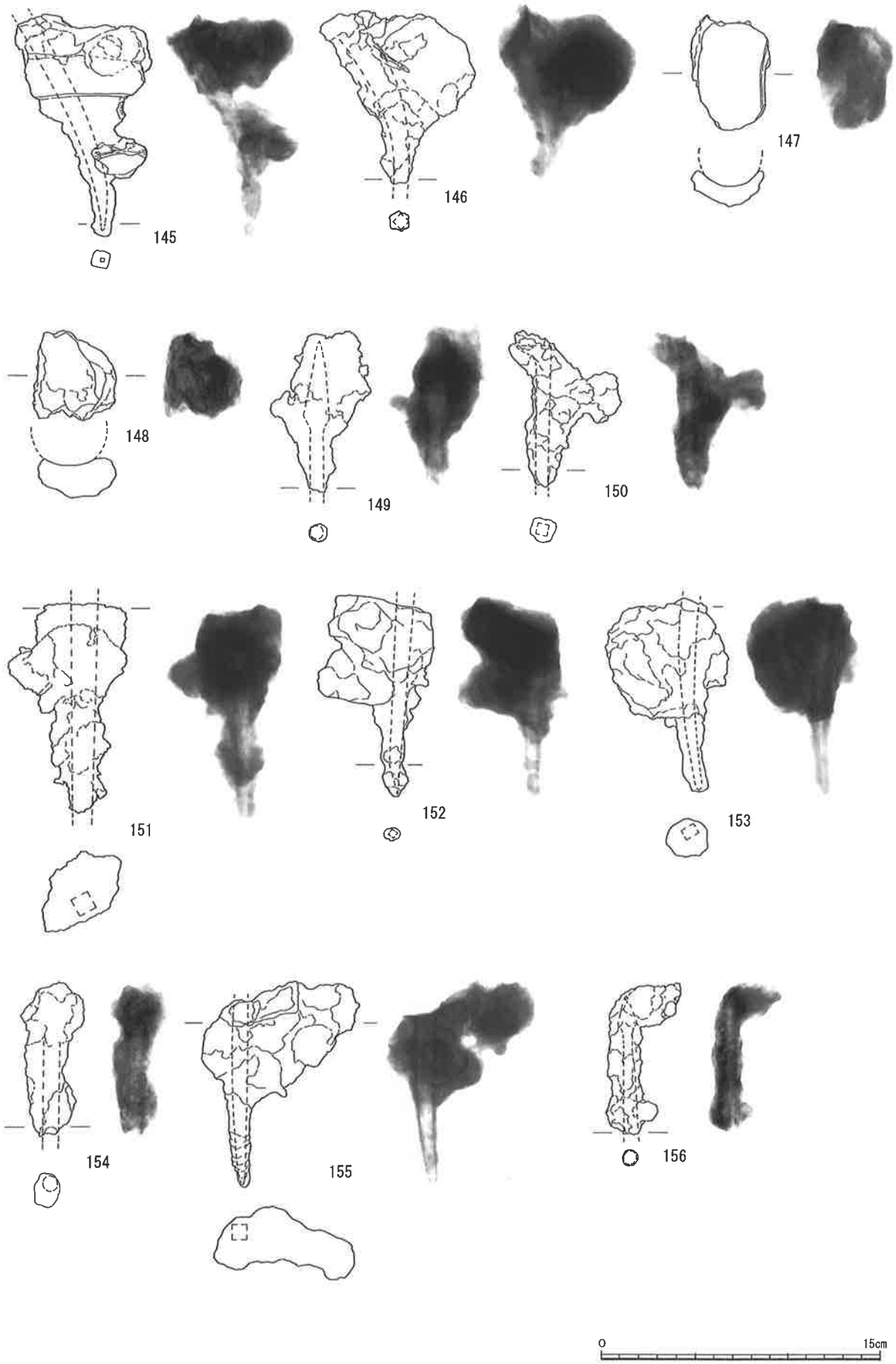
第46図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑯（１/３）



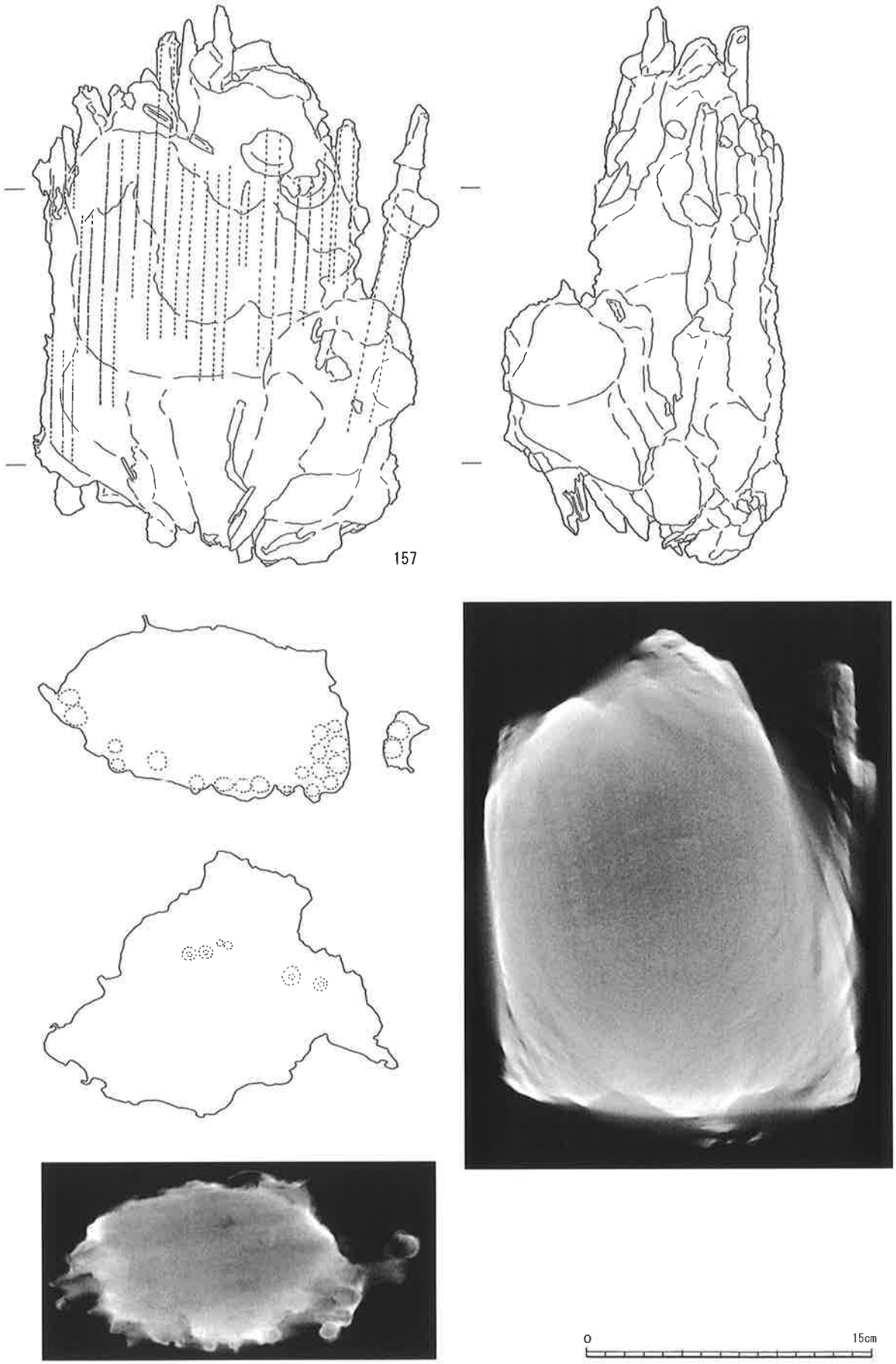
第47図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑰（１/３）



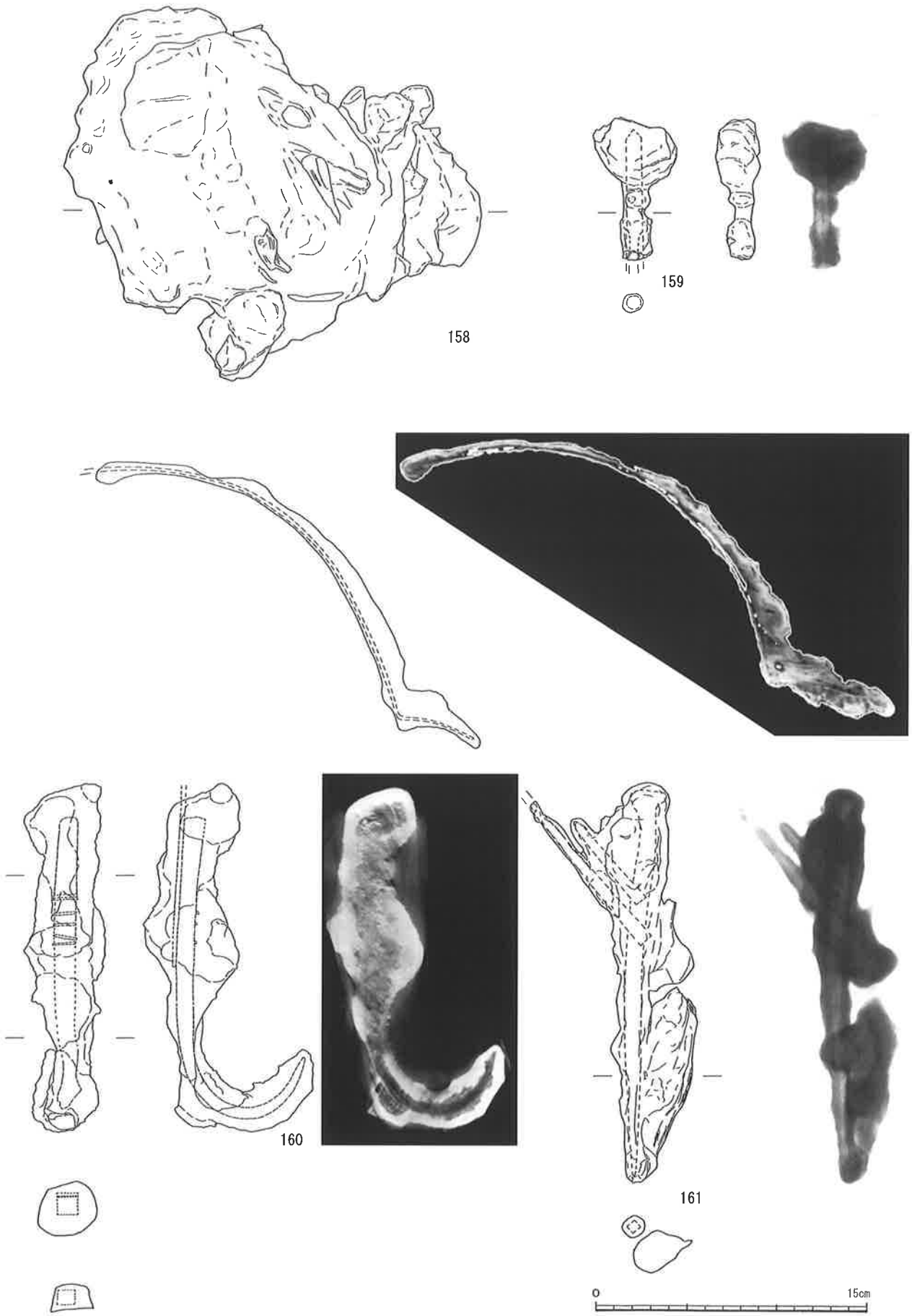
第48図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑱（１/３）



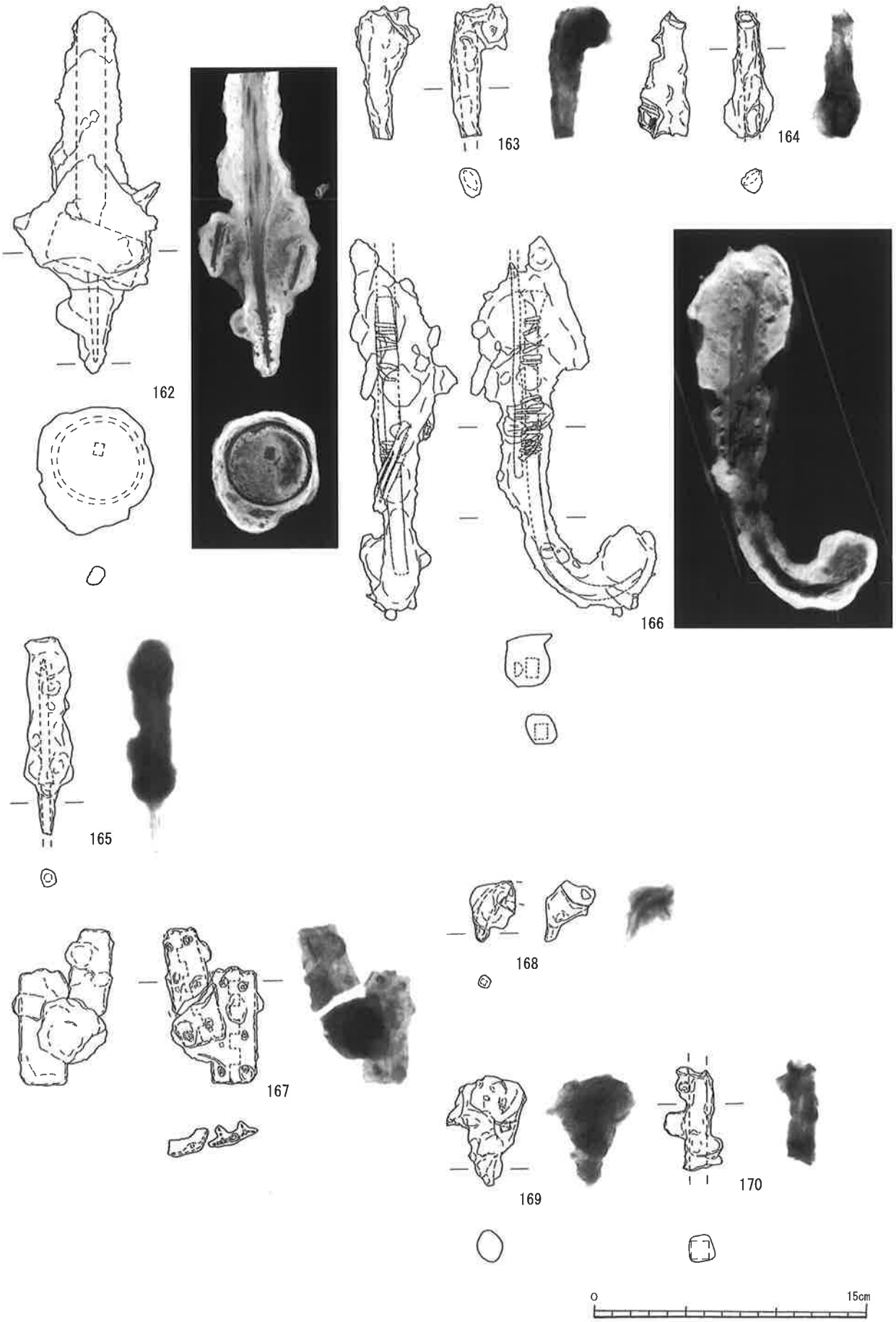
第49図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑲（１／３）



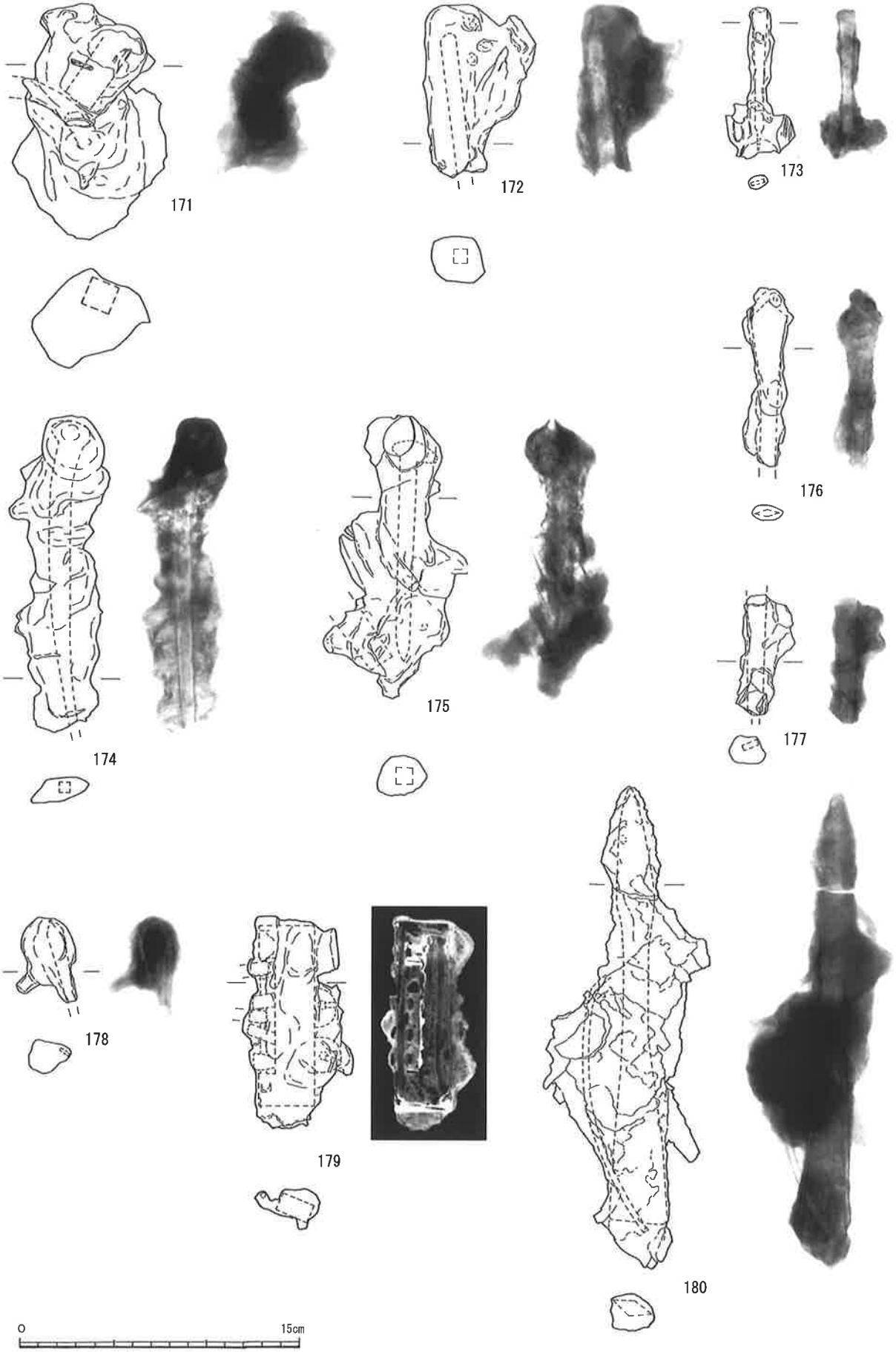
第50図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像⑳（１/３）



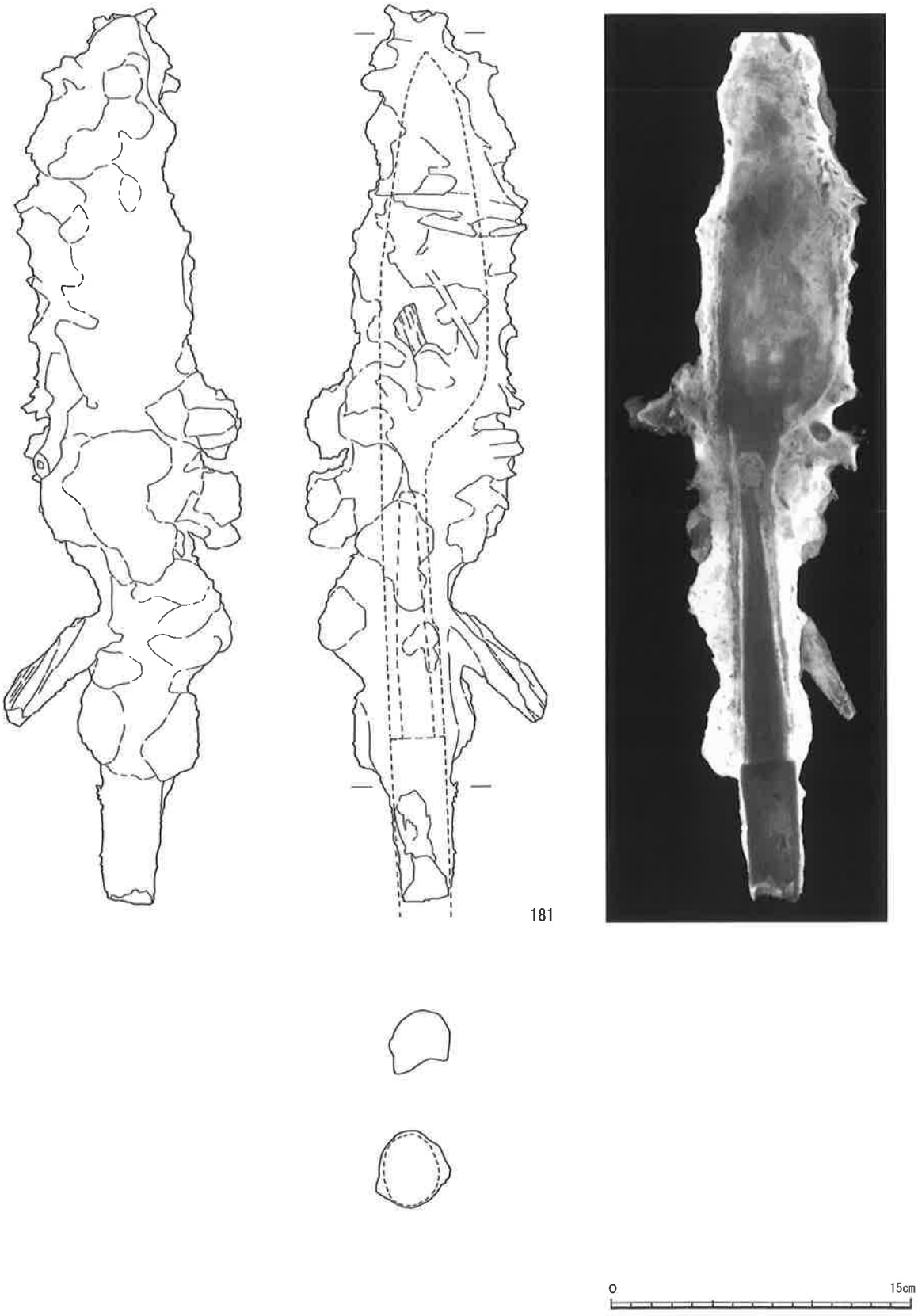
第51図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像㉑（1/3）



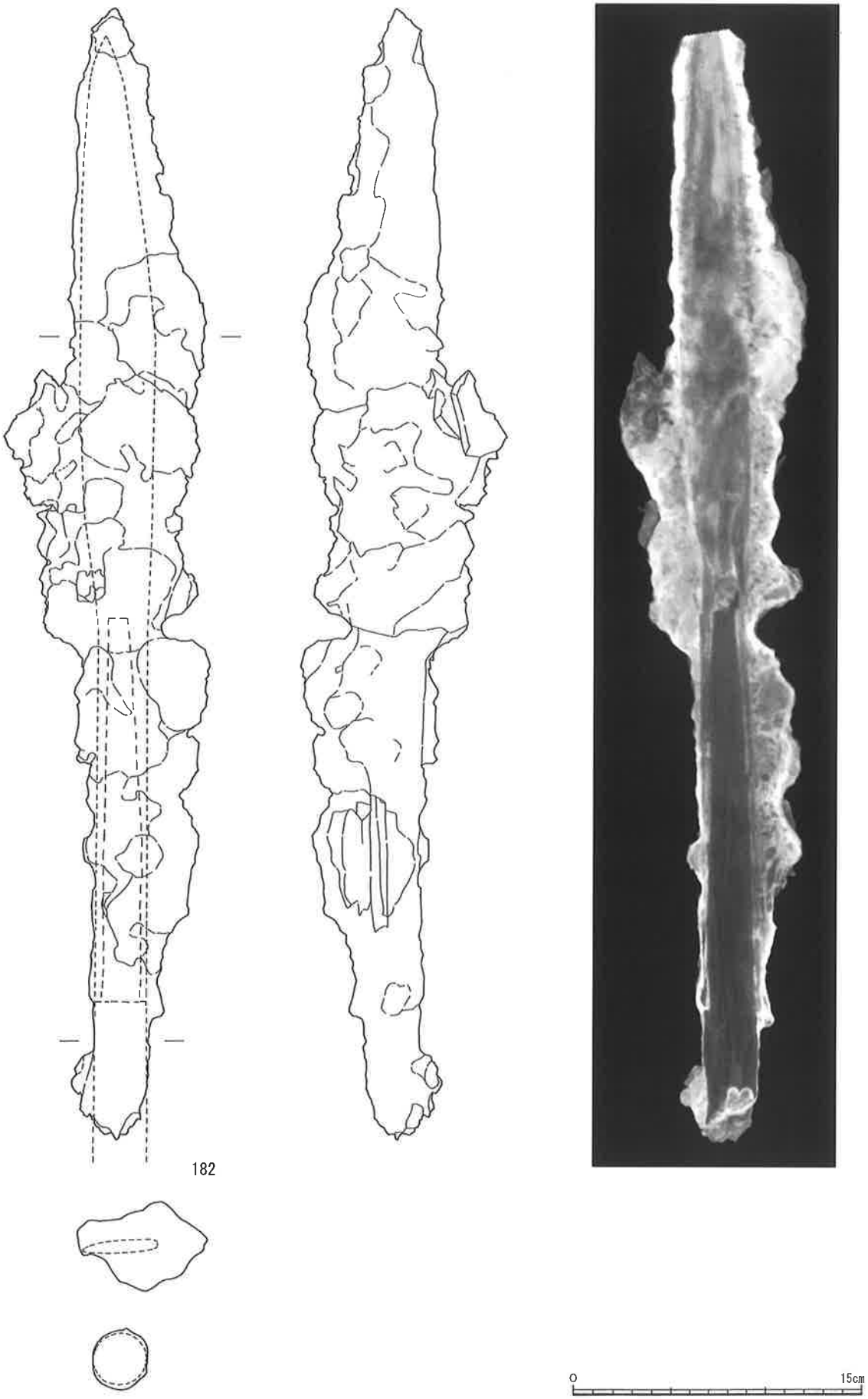
第52図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像㉒（1/3）



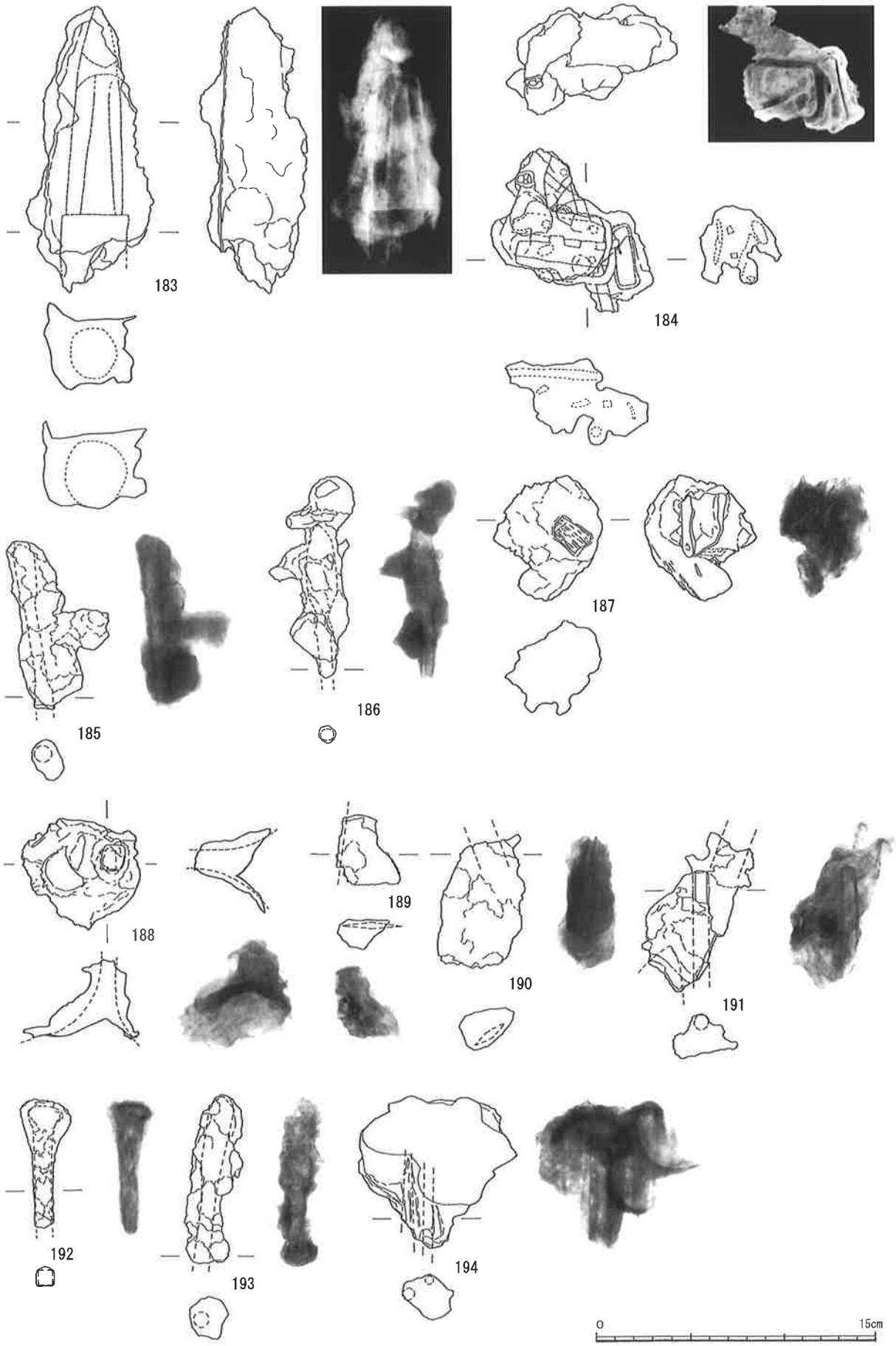
第53図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像㉓（1/3）



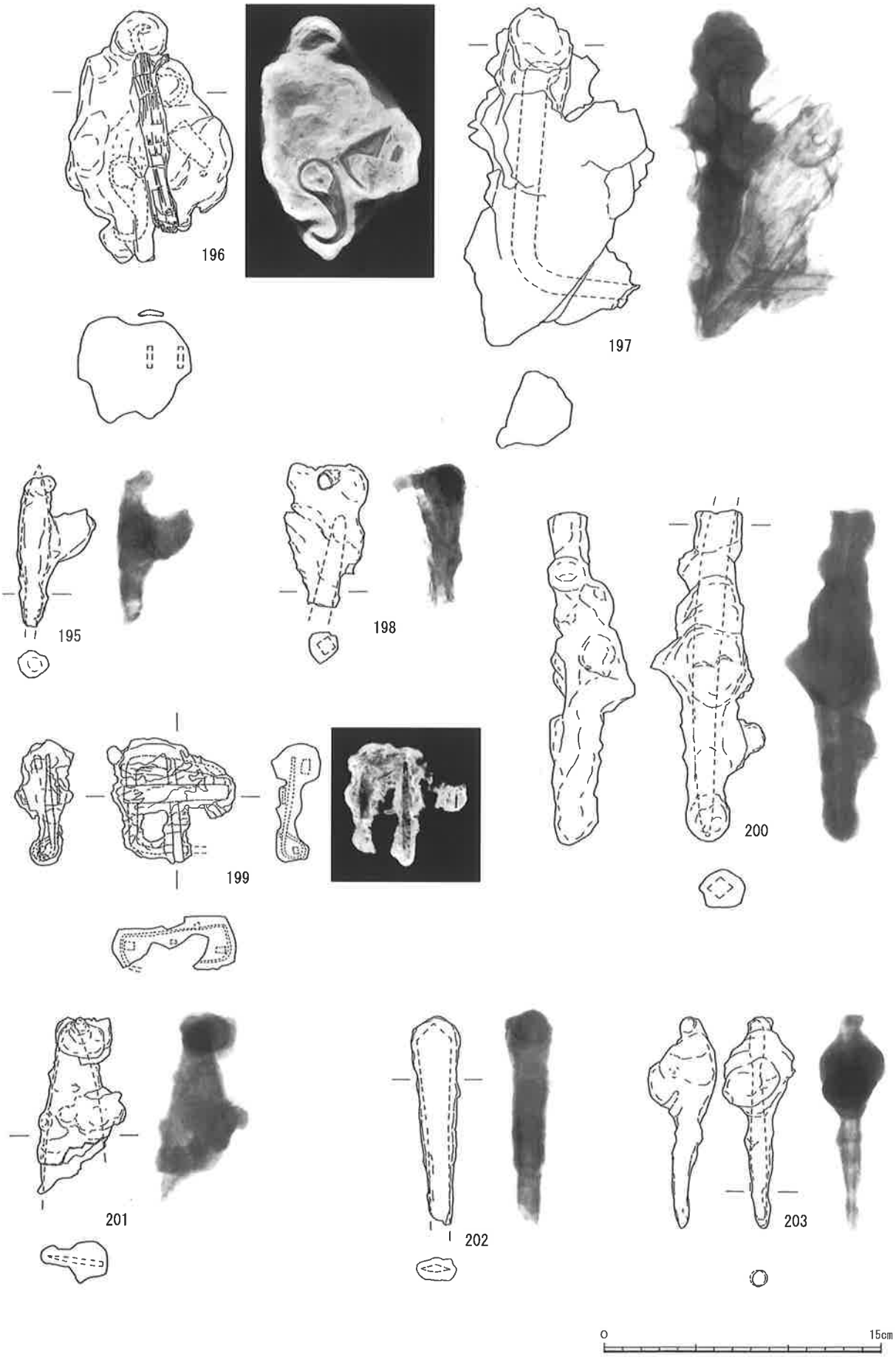
第54図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像㉔（１/３）



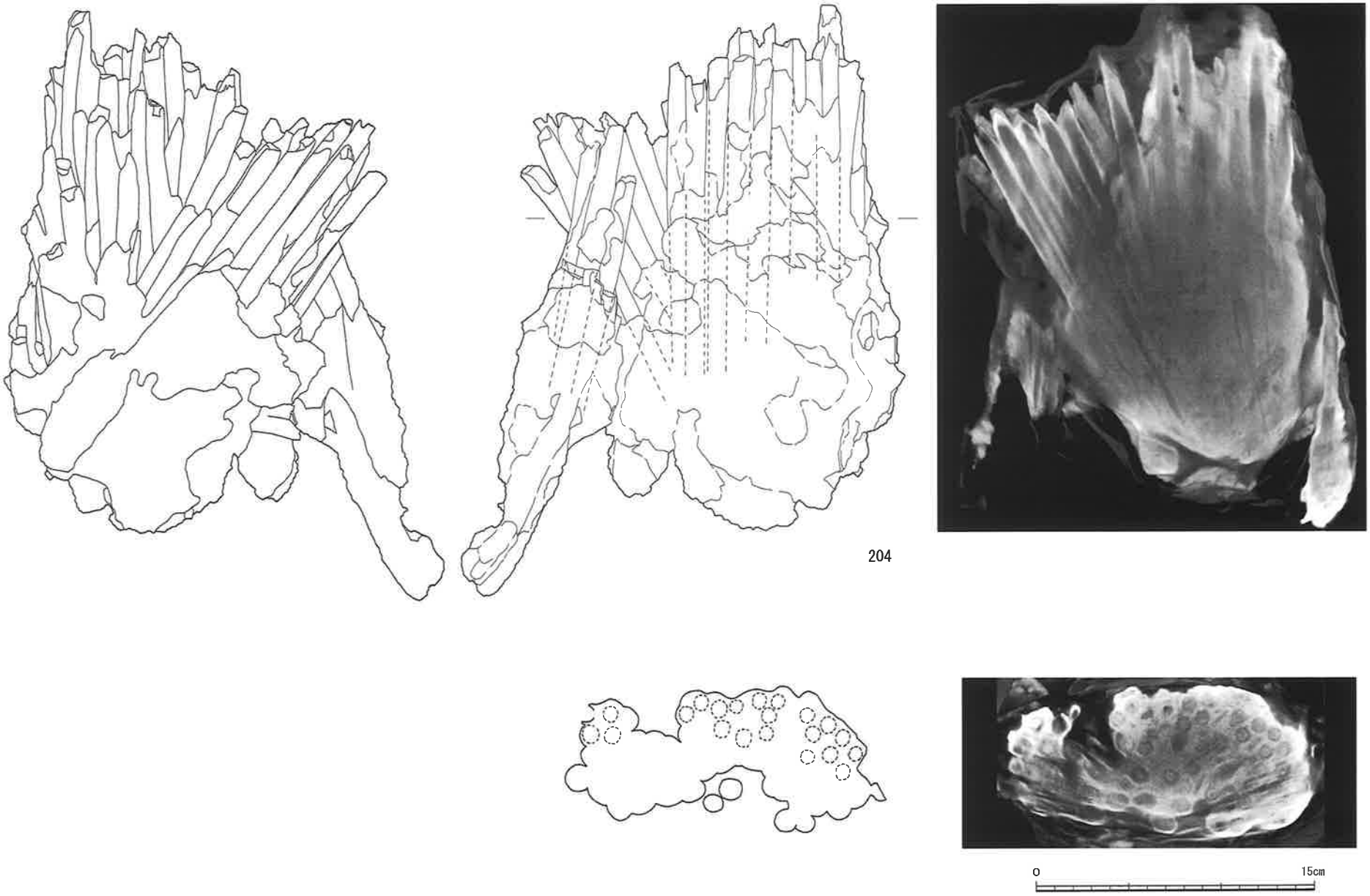
第55図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像㉕（１/３）



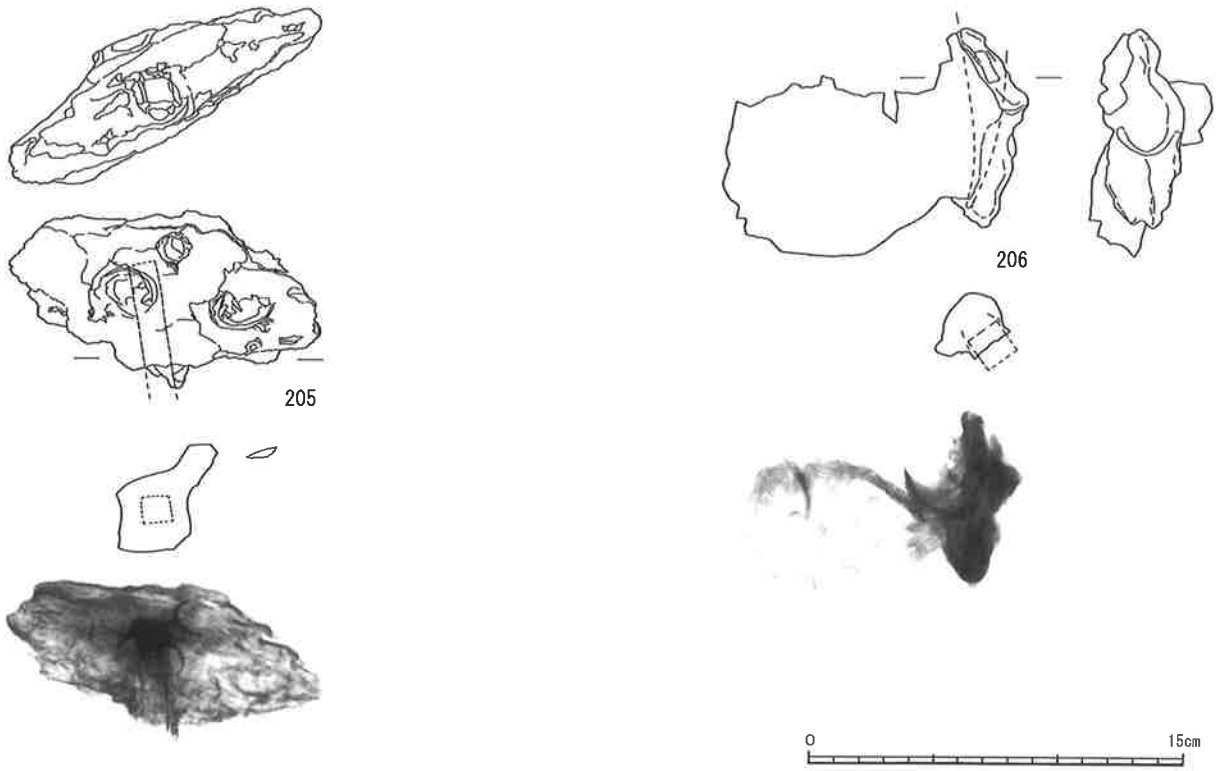
第56図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像㉖（1/3）



第57図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・X線画像㉗（1/3）



第58図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像㉘（１/３）



第59図　鷹島海底遺跡出土鉄製品実測図・Ｘ線画像㉙（１/３）

78は棒状鉄製品と報告している。ＣＴ調査の結果、杭のような遺物であることが分かった。杭表面は鉄で覆われており、内部に木材が詰まっていることが確認できた。用途不明であるが、同形の遺物として183がある。

83は鉄釘と報告している。透過調査の結果、角釘であることを確認できた。透過画像より釘の頭部から先端までの形状が分かった。

86は箭（矢）束と報告している。ＣＴ調査の結果、60本以上の矢が内部に確認できた。また、ＣＴ画像より矢束は鏃の部分が欠損しており、錆化・溶着した箙の部分であることが分かった。

92は鉄製品と報告している。透過調査の結果、鉸具であることが分かった。遺物の輪郭がはっきり表示されなかったことから、鉸具の錆化が進んでいることが分かった。

93は鉄製品と報告している。透過調査の結果、箱状の板状鉄製品であることが分かった。板状鉄製品は他にも見つかっており、同一個体の可能性もあると考えられる。

117は鉄釘と報告している。透過調査の結果、鉄鏃であることが分かった。刃部の錆化が著しい。透過画像より茎が箙に差し込まれていることが分かった。

118は鉄製品と報告している。ＣＴ調査の結果、内部に蹄鉄状鉄製品と火打ち金を確認した。ＣＴ画像より、蹄鉄状鉄製品には少なくとも４箇所に穿孔が確認できた。火打ち金は133のものとは中央部の形状が異なっている。また、錆の中に鉸具と考えられる構造も確認できた。

120は鉄製品と報告している。ＣＴ調査の結果、両刃（もろは）の鉈であることが分かった。刃と柄を固定する輪状の口金もＣＴ画像で確認できた。柄は欠損している。内部の錆化は進行しておらず、メタルの部分が残っていることが分かった。

122は鉄釘と報告している。透過調査の結果、鉄鏃であることが分かった。刃部の錆化が著しい。茎が欠損している。

125は鉄釘と報告している。透過調査の結果、短剣であることが分かった。長さ約20cmで、柄の先端がＴ字状であることを確認できた。柄から剣身までが一体の構造で、鞘に納められた状態のまま錆化している。

131は箭（矢）束と報告している。ＣＴ調査の結果、50本以上の矢が内部に確認できた。また、矢と並ぶようにＴ字状鉄製品があることが分かった。Ｔ字状鉄製品は錆化が著しく、断面の形状を確認できていない。用途不明。

133は鉄製品と報告している。透過・ＣＴ調査の結果、火打ち金であることが分かった。ＣＴ画像より火打ち金の中央部は刃となっていることを確認できた。火打ち金は118の内部にも確認しているが、中央部の形状が異なる。

138は鉄釘と報告している。透過調査の結果、鉄鏃であることが分かった。刃部の錆化が著しい。画像より箆が残存して、茎が差し込まれていることが分かった。

141は鉄釘と報告している。透過調査の結果、角釘であることを確認できた。また、角釘と並ぶ形で箆を確認できた。

149は鉄釘と報告している。透過調査の結果、鉄鏃であることを確認できた。

157は箭（矢）束と報告している。ＣＴ調査を行ったが、遺物内部に含まれる水分の影響を受け、ＣＴ画像が不鮮明である。しかしながら、矢束内部に矢が隙間なくあることを確認できた。

158は鉄製冑片と報告している。ＣＴ調査の結果、冑破片であることが確認できた。また、庇と考えられる部分と鉢の部分の間に鋲のような留め具がなかったこと、鉄板が重なった箇所が確認できなかったことから、１枚の鉄板を加工して冑が作られている可能性があると考えられる。

159は鉄釘と報告している。透過調査の結果、茎があることから鉄鏃であることが分かった。

160は鉄製品と報告している。透過・ＣＴ調査の結果、鉤状の遺物とそれを支える棒状の遺物を針金のようなもので巻いて固定していることが分かった。針金は幅約1.5㎜である。用途不明製品であるが、同じ形状の遺物として166がある。

161は鉄釘と報告している。透過調査の結果、角釘であることを確認できた。中央の角釘に交差する形で２本の棒状遺物があり、鉄釘と考えられていたが、透過画像より、箆である可能性もある。また、遺物先端部の錆の中に中央部の角釘の横に並ぶ形で、もう１本角釘があることを確認できた。

162は鉄製品と報告している。ＣＴ調査の結果、輪状の遺物に角釘状の遺物があることが分かった。輪状の鉄製品の直径は約45㎜である。用途不明。

166は鉄釘と報告している。ＣＴ調査の結果、鉤状の遺物とそれを支える棒状遺物を針金のようなもので固定していることが分かった。針金は幅約1.5㎜である。用途不明製品であるが、同じ形状の遺物として160がある。

167は鉄製品と報告している。透過調査の結果、二つの蝶番が重なった状態で、錆により溶着したものであることが分かった。蝶番は長さ約60㎜、幅約23㎜、厚さ約１㎜の大きさで、６箇所に小さな

釘が打たれている。釘は最大幅約２㎜である。

174は鉄製品と報告している。透過調査の結果、角釘であることが分かった。また、透過画像より錆の下に木質が残存していることも分かった。

176は鉄釘と報告している。透過調査の結果、鉄鏃であることが分かった。透過画像より、鉄鏃の茎が箆に差し込まれていることが確認できた。

179は鉄製品と報告している。透過・ＣＴ調査の結果、錠であることが分かった。また、錠の掛け金に、五つの金具が付けられていることも分かった。金具の錆化が進んでおり、形状は不明であるが、金具の先端が薄い円形を呈しており、金具先端中央に開けられた穴を通るように輪状の金具が一つ取り付けられていることが確認できた。また、ＣＴ画像で白く表示される箇所があり、錠の一部にＸ線が透過しにくい部分があることが分かった。メッキ加工をされている可能性があると考えられる。錠の全長は97㎜、幅30㎜、厚さ10㎜。掛け金の直径は３㎜である。

180は鉄製品と報告している。透過調査の結果、両刃の鉄矛であることが分かった。また、鉄矛と並ぶような形で不明棒状遺物が確認できた。

181は棒状鉄製品と報告している。ＣＴ調査の結果、片刃の鉄矛であることを確認できた。また、矛の袋部の部分を木製の柄に装着していることが画像より分かった。報告書第４集の中で182と同一？と記載していたが、181、182ともに刃部であったため、別個体と考えられる。

182は棒状鉄製品と報告している。ＣＴ調査の結果、片刃の鉄矛であることが分かった。また、矛の袋部の部分を木製の柄に装着していることがＣＴ画像より分かった。報告書第４集の中の遺物一覧表では181と同一？と記載していたが、181、182ともに刃部であったため、別個体と考えられる。

183は鉄製品と報告している。透過調査の結果、78と同形の杭状の遺物であることが分かった。用途不明。

184は鉄製品と報告している。ＣＴ調査の結果、蝶番、鉸具が錆化して溶着したものであることが分かった。また、帯金具と思われる輪状の金具も２点確認できた。蝶番は168と同様の形状をしており、長さ約45㎜、幅約27㎜、厚さ約1.5㎜である。鉸具の長さは約43㎜、幅約33㎜である。

196は鉄製品（メタル有？）と報告している。透過・ＣＴ調査の結果、内部に勾玉状の金具が錆で溶着したものであることが分かった。また、ＣＴ画像より遺物の錆化が進み、メタル分が失われていることが分かった。金具の全長は約45㎜、最大幅約20㎜、厚さ約20㎜で、内部に６点が確認できた。用途不明。

197は鉄釘と報告している。透過調査の結果、角釘であることを確認できた。また、錆の下には木質が残存していることが分かった。

199は鉄製金具と報告している。ＣＴ調査の結果、四角形状の構造と刺鉄の存在から、鉸具であることが分かった。また、鉸具・刺鉄に直交する形で帯状の金具が巻かれていることが分かった。

201は鉄釘と報告している。透過調査の結果、鉄刀の先端部、もしくは片刃の鉄矛の先端部の可能性があると考えられる。

205は鉄釘と報告している。透過調査の結果、角釘であることを確認できた。また、透過画像より

遺物表面の錆の下には木質が残存していることが分かった。

２．章　　結

今回、鷹島海底遺跡出土鉄製品に対して、透過Ｘ線撮影調査・Ｘ線ＣＴ調査を行った結果、鷹島海底遺跡で出土例のなかった火打ち金、蹄鉄、錠などが発見された。用途不明ではあるが、形状が判明した遺物もある。また、従来より遺物の使用用途が分かっていた遺物に関しても、法量や状態を確認することができた。鷹島海底遺跡出土鉄製品は表面が錆に覆われており、見た目では錆の塊にしか見えないが、鉄釘・矢束の内部に木質が残存している遺物があることも確認できた。Ｘ線調査を行うことで、内部の木質の収縮・変形、遺物の破損を未然に防ぐことができる。

さらに、Ｘ線による調査で得た情報をもとに、更なる調査研究が進展することになり、その結果を世界に向けて発信していくことで、海外の研究者との連携、協力に繋げていくことができる。

Ｘ線による調査は、鷹島海底遺跡出土鉄製品を調査する上で非常に有効な方法であることが実証された。

表２　鷹島海底遺跡出土鉄製品　Ｘ線調査結果一覧表

KZK01（平成13年度）緊急調査出土遺物一覧表

挿図番号	遺物番号	種別	遺　物　名	透過Ｘ線	Ｘ線ＣＴ	Ｘ線調査での遺物名	備　　考
第31図１	15	鉄製品	釘	◎		角釘	
第31図２	33	鉄製品	釘	◎		角釘	釘２本有
第31図３	34	鉄製品	釘	◎		角釘	
第31図４	35	鉄製品	釘	◎	◎	角釘	
第31図５	36	鉄製品	板状製品		◎	板状鉄製品（脛当て？）	
第31図６	37	鉄製品	板状製品		◎	板状鉄製品（脛当て？）	
第31図７	38	鉄製品	板状製品		◎	板状鉄製品（脛当て？）	
第31図８	39	鉄製品	板状製品		◎	板状鉄製品（脛当て？）	
第32図９	44	鉄製品	角釘、その他		◎	角釘・輪状鉄製品	
第32図10	45	鉄製品	角釘	◎		角釘	
第32図11	46	鉄製品	釘	◎		角釘	
第32図12	47	鉄製品	釘	◎		角釘	釘２本有
第32図13	48	鉄製品	曲がり釘	◎		角釘	釘２本有
第32図14	50	鉄製品	釘	◎		角釘	
第33図15	53	鉄製品	釘	◎		角釘	釘２本有
第33図16	54	鉄製品	不明Ｖ字形	◎		角釘	釘２本有
第33図17	61	鉄製品	釘		◎	角釘	
第33図18	62	鉄製品	不明	◎		角釘	
第33図19	93	鉄製品	釘	◎		角釘	
第33図20	95	鉄製品	不明	◎		角釘	釘３本有
第34図21	96	鉄製品	釘	◎		角釘	
第34図22	97	鉄製品	槍？釘？	◎		角釘	
第34図23	149	鉄製品	釘	◎		角釘	釘２本有
第34図24	157	鉄製品	不明（釘？）	◎		角釘	
第34図25	160	鉄製品	角釘	◎		角釘	釘２本有
第34図26	165	鉄製品	不明	◎		角釘	
第34図27	178	鉄製品	不明		◎	角釘	
第35図28	184	鉄製品	矢束		◎	矢束	木質残存、矢は約80本以上有
第35図29	208	鉄製品	釘	◎		角釘	
第35図30	211	鉄製品	釘	◎		角釘	
第36図31	213	鉄製品	釘	◎		角釘	
第36図32	233	鉄製品	釘	◎		角釘	木質残存
第36図33	234	鉄製品	釘	◎		角釘	
第36図34	236	鉄製品	釘	◎		角釘	
第36図35	237	鉄製品	釘	◎		角釘	
第36図36	244	鉄製品	不明（鉄板状製品）	◎		不明（鉄板状製品）	
第36図37	245	鉄製品	不明（鉄板状製品）	◎		不明（鉄板状製品）	
第37図38	451	鉄製品	鉄剣	○	◎	鉄刀・鉸具	

◎：調査済（図版使用）　○：調査済

KZK02（平成14年度）緊急調査出土遺物一覧表

挿図番号	遺物番号	種別	遺　物　名	透過Ｘ線	Ｘ線ＣＴ	Ｘ線調査での遺物名	備　　考
第37図39	22	鉄製品	鉄釘	◎	○	鉄鏃	鉄鏃２本有
第37図40	24	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第37図41	33	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第37図42	34	鉄製品	腐食鉄	◎		腐食鉄	木質残存
第37図43	40	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第38図44	50	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第38図45	51	鉄製品	鉄製品	◎		鉤状鉄製品	
第38図46	55	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第38図47	56	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第38図48	58	鉄製品	鉄釘	○	◎	刺又状鉄製品	

挿図番号	遺物番号	種別	遺　物　名	透過X線	X線CT	X線調査での遺物名	備　　考
第38図49	60	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	釘２本有
第38図50	63	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	
第38図51	64	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第38図52	66	鉄製品	鉤状鉄製品	◎		角釘	
第38図53	77	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	木質残存
第38図54	99	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第39図55	102-1	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第39図56	102-2	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第39図57	102-3	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第39図58	102-4	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	釘２本有
第39図59	102-5	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	60と接合可
第39図60	102-6	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	59と接合可
第39図61	102-7	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第39図62	108	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第39図63	109	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第39図64	118-1	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第39図65	118-2	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第39図66	118-3	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第39図67	118-4	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第39図68	134	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	釘２本有
第40図69	140	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	釘２本有
第40図70	145	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	
第40図71	165-1	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	
第40図72	165-2	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	
第40図73	165-3	鉄製品	鉄製品	◎		錆塊？	
第40図74	186	鉄製品	鉄製品	◎		不明鉄製品	
第40図75	187-1	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	
第40図76	187-2	鉄製品	鉄製品	◎		板状鉄製品	
第40図77	187-3	鉄製品	鉄製品	◎		板状鉄製品	
第41図78	208	鉄製品	棒状鉄製品	○	◎	杭状鉄製品	木質残存
第41図79	209	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第41図80	221	鉄製品	鉄製鍋または胄か	◎		板状鉄製品	
第41図81	222	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第41図82	225	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第41図83	230	鉄製品	鉄釘	◎	○	角釘	
第41図84	233	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第42図85	240	鉄製品	板状鉄製品（胄破片）	◎	○	板状鉄製品	
第42図86	327	鉄製品	箭（矢）束		◎	矢束	木質残存、矢は約60本以上有
第42図87	387	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	釘２本有
第42図88	388	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第42図89	389	木製品	船材（外板）	◎		角釘	台帳上は木製品船材と記載しているが、剥落した錆塊を分析している。
第43図90	393	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第43図91	408	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第43図92	422	鉄製品	鉄製品	◎		鉸具	
第43図93	429	鉄製品	鉄製品	◎		板状鉄製品	
第43図94	430-1	鉄製品	鉄製品	◎		板状鉄製品	
第43図95	430-2	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	
第43図96	431	鉄製品	鉄製品	◎		板状鉄製品	
第43図97	434	鉄製品	鉄製品	◎		板状鉄製品	
第43図98	436	鉄製品	鉄製品	◎		板状鉄製品	
第43図99	437	鉄製品	鉄製品	◎		板状鉄製品	
第43図100	438	鉄製品	鉄製品	◎		板状鉄製品	
第43図101	441	鉄製品	鉄製品	◎		板状鉄製品	

挿図番号	遺物番号	種別	遺　物　名	透過X線	X線CT	X線調査での遺物名	備　　考
第44図102	444	木製品	船材（外板）	◎		角釘	台帳上は木製品船材と記載しているが、剥落した錆塊を分析している。
第44図103	445-1	鉄製品	外板の金属部分	◎		角釘	釘２本有
第44図104	445-2	鉄製品	外板の金属部分	◎		角釘	
第44図105	445-3	鉄製品	外板の金属部分	◎		角釘	
第44図106	445-4	鉄製品	外板の金属部分	◎		鉄鏃	
第44図107	455-1	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第44図108	455-2	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第44図109	455-3	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第44図110	460-1	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	
第44図111	460-2	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	
第44図112	460-3	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	
第44図113	460-4	鉄製品	鉄製品	◎		不明鉄製品	
第44図114	460-5	鉄製品	鉄製品	◎		箆	箆２本有　木質残存
第44図115	460-6	鉄製品	鉄製品	◎		箆	木質残存
第45図116	475	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第45図117	481	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第45図118	500	鉄製品	鉄製品		◎	踏鉄状鉄製品・火打ち金・鉸具	
第45図119	507	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	
第45図120	532	鉄製品	鉄製品	○	◎	鉈	
第46図121	540	鉄製品	鉄製冑（破片）	◎		冑片	
第46図122	553	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第46図123	554	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第46図124	555	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第46図125	566	鉄製品	鉄釘	◎	○	短剣	
第46図126	639	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第46図127	640	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第46図128	642	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第46図129	648	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	釘２本有
第46図130	650	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	
第47図131	658	鉄製品	箭（矢）束		◎	矢束・Ｔ字状鉄製品	木質残存、矢は約50本以上有
第48図132	663	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第48図133	669	鉄製品	鉄製品	○	◎	火打ち金	
第48図134	689	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	
第48図135	690	鉄製品	鉄釘？	◎		角釘	釘２本有
第48図136	697	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第48図137	702	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第48図138	704	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第48図139	705	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第48図140	707	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第48図141	716	鉄製品	鉄釘	◎		角釘・箆	
第48図142	718	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第48図143	719	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	釘２本有
第48図144	720	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第49図145	723	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第49図146	724	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第49図147	725	鉄製品	鉄製品	◎		棒状鉄製品破片	726と同一遺物か
第49図148	726	鉄製品	鉄製品	◎		棒状鉄製品破片	725と同一遺物か
第49図149	727	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第49図150	734	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第49図151	735	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第49図152	736	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第49図153	738	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第49図154	739	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	

挿図番号	遺物番号	種別	遺　物　名	透過X線	X線CT	X線調査での遺物名	備　　考
第49図155	740	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第49図156	742	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第50図157	762	鉄製品	箭（矢）束		◎	矢束	木質残存・矢本数不明
第51図158	797	鉄製品	鉄製冑片	○	◎	冑片	
第51図159	843	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第51図160	898	鉄製品	鉄製品	○	◎	鉤状鉄製品	
第51図161	919	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	釘２本有、他２点棒状遺物有（鎹か？）
第52図162	927	鉄製品	鉄製品	○	◎	角釘状鉄製品・輪状鉄製品	
第52図163	928	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第52図164	930	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第52図165	942	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第52図166	948	鉄製品	鉄釘	○	◎	鉤状鉄製品	
第52図167	950	鉄製品	鉄製品	◎	○	蝶番	蝶番２点有
第52図168	955	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第52図169	956	鉄製品	鉄釘	◎		不明鉄製品	
第52図170	963	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第53図171	965	木製品	船材（隔壁梁材）	◎		角釘	台帳上は木製品船材と記載しているが、剥落した錆塊を分析している。
第53図172	984	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第53図173	988	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第53図174	992	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	木質残存
第53図175	999	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	釘２本有
第53図176	1003	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第53図177	1009	鉄製品	鉄製品	◎		鉄鏃	
第53図178	1010	鉄製品	鉄製品	◎		鉄鏃	
第53図179	1020	鉄製品	鉄製品	○	◎	錠	
第53図180	1034	鉄製品	鉄製品	◎		鉄矛(両刃)・不明棒状遺物	
第54図181	1038	鉄製品	棒状鉄製品		◎	鉄矛（片刃）	木質残存
第55図182	1039	鉄製品	棒状鉄製品		◎	鉄矛（片刃）	木質残存
第56図183	1045-a	鉄製品	鉄製品	◎	○	杭状鉄製品	木質残存
第56図184	1045-b	鉄製品	鉄製品	○	◎	鉸具・蝶番・輪状鉄製品	
第56図185	1061	鉄製品	鉄製品	◎		鉄鏃	
第56図186	1063	鉄製品	鉄製品	◎		鉄鏃	
第56図187	1103-1	鉄製品	鉄製品	◎		不明鉄製品	
第56図188	1103-2	鉄製品	鉄製品	◎		角釘	
第56図189	1103-3	鉄製品	鉄製品	◎		鉄剣破片？	
第56図190	1103-4	鉄製品	鉄製品	◎		鉄鏃	
第56図191	1103-5	鉄製品	鉄製品	◎		鉄鏃	鉄鏃３本有、木質残存
第56図192	1151	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第56図193	1214	鉄製品	金属製品	◎		鉄鏃	
第56図194	1238	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	鉄鏃２本有、木質残存
第57図195	1240	鉄製品	鉄製品	◎		鉄鏃	
第57図196	1243	鉄製品	鉄製品（メタル有？）	○	◎	勾玉状鉄製品	勾玉状鉄製品６点有
第57図197	1262-a	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	木質残存
第57図198	1262-b	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第57図199	1289	鉄製品	鉄製金具	○	◎	鉸具	
第57図200	1290-h	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	
第57図201	1290-i	鉄製品	鉄釘	◎		鉄刀破片(鉄矛破片？)	
第57図202	1290-j	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第57図203	1290-k	鉄製品	鉄釘	◎		鉄鏃	
第58図204	1294	鉄製品	箭（矢）束		◎	矢束	木質残存、矢は約60本以上有
第59図205	1299	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	木質残存
第59図206	1325	鉄製品	鉄釘	◎		角釘	

◎：調査済（図版使用）　○：調査済

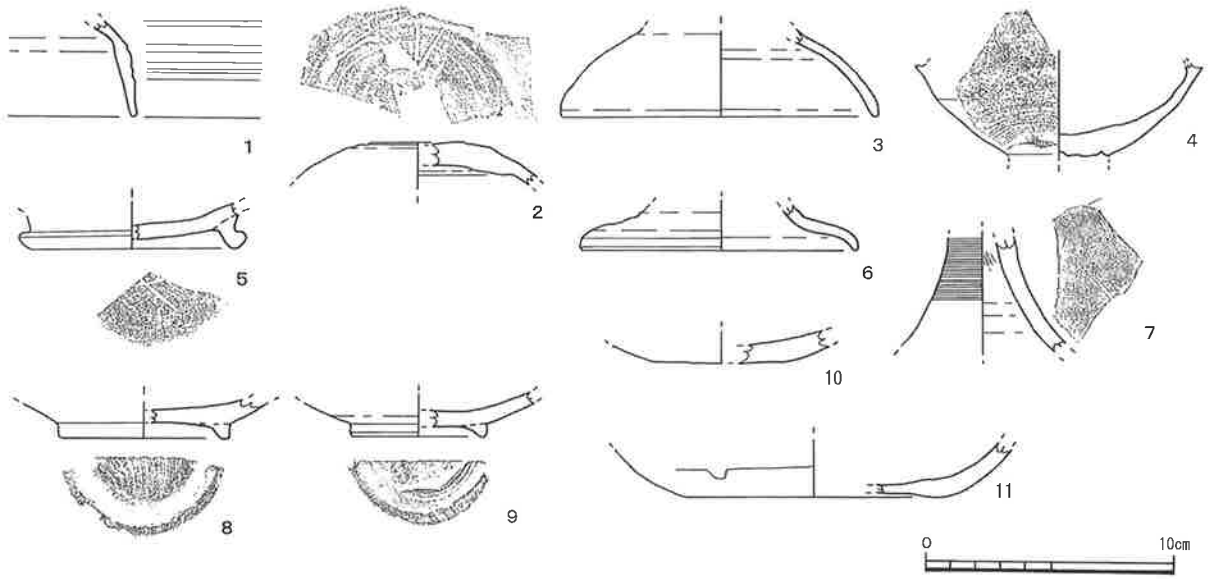
第Ⅶ章　志佐川流域の遺跡について

松浦市の中心部を北流する志佐川とその流域には、縄文時代から中世にかけて左岸に栢ノ木遺跡、右岸に久保園遺跡や宮ノ下リ遺跡の３遺跡が位置する。これまで集落や墓域が営まれたことが、発掘調査より解明しつつある。そのため、これら３遺跡について今後の調査やこれまでの資料の再整理を進め、志佐川流域の遺跡群として位置づけられるよう検討を重ねる必要があることを提示した（江上2012ｂ）。そのため本章では、これまで資料化を進めた報告を行う。今回は栢ノ木遺跡第18次調査と第23次調査の出土遺物、久保園遺跡第３次調査と第６次調査の出土遺物の報告である。

１．栢ノ木遺跡第18次・23次調査（第10図　表３　図版５）

平成24年度に実施した第26次調査近辺には既報告された第18次調査、平成23年度に実施した第25次調査近辺には既報告された第23次調査の未報告資料を含めた遺物の確認作業を行い、資料化を進めた。

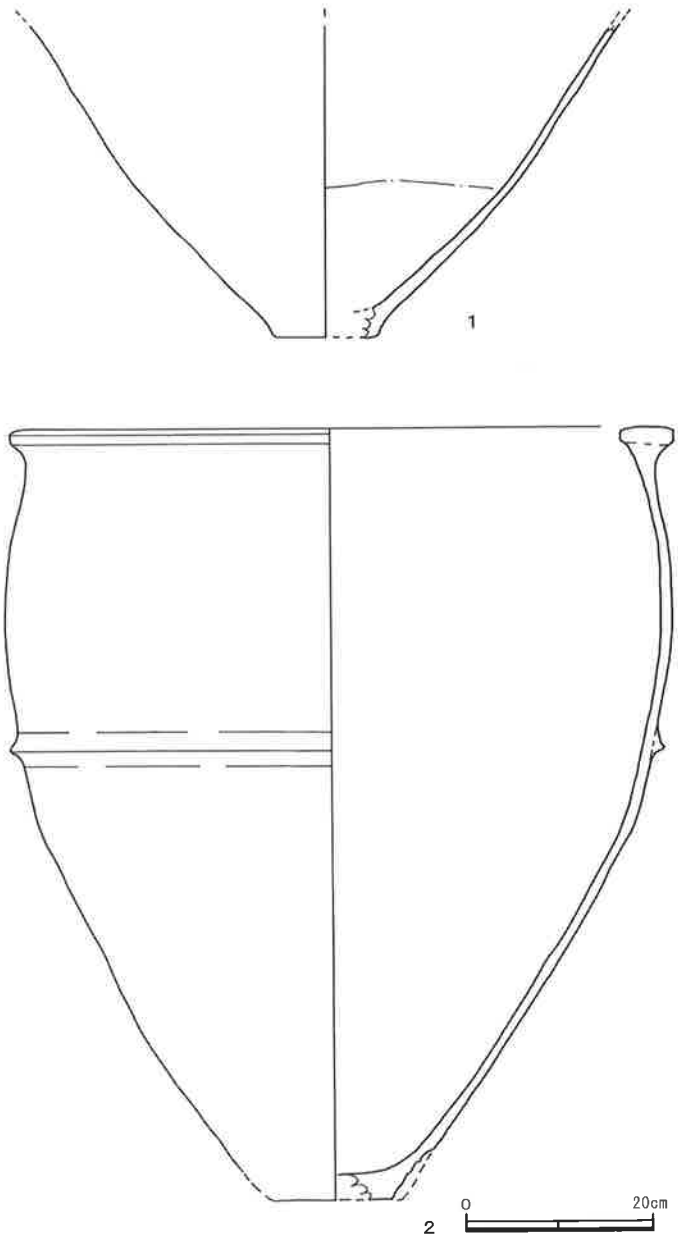
１～７は須恵器である。１は口縁部から肩部が残存する坏蓋で、口唇端部は丸い。内面は口縁部と肩部に強いナデを施す。外面は肩部に一条、口縁部から肩部にかけて二条の沈線を施す。２は坏蓋と考えられ、天井部に「ハ」のヘラ記号が施される。３は口縁部から天井部にかけて残存する坏蓋で、天井部にわずかに立ち上がりが認められることから、撮みがついていたと考えられる。４は底部から口縁部まで残存する高坏である。底部には脚部との接合痕が認められる。５は高台付坏身で、高台は「ハ」字状に広がり、端部は跳ね上がる。外底には「X」のヘラ記号が施される。６は脚裾部が残存する高坏である。７は脚部が残存する高坏で、内面に「ハ」ヘラ記号が施される。８は土師器の埦である。高台は貼付けで、断面形状は四角形を呈している。外底には静止糸切り痕が認められる。９は黒色土器の埦である。高台は貼付けを呈し、形状は「ハ」字状に開く。端部は板状圧痕が認められる。内面はミガキが明瞭に認められる。10は底部が残存する瓦器埦である。11は底部が残存する青磁碗で



第60図　栢ノ木遺跡18次・23次調査出土遺物（１/３）

ある。施釉は内面および外面の一部に認められ、底部と立ち上がりは露体を呈する。内面には貫入が確かめられる。

２．久保園遺跡第３次・６次調査（第61～64図　図版５）

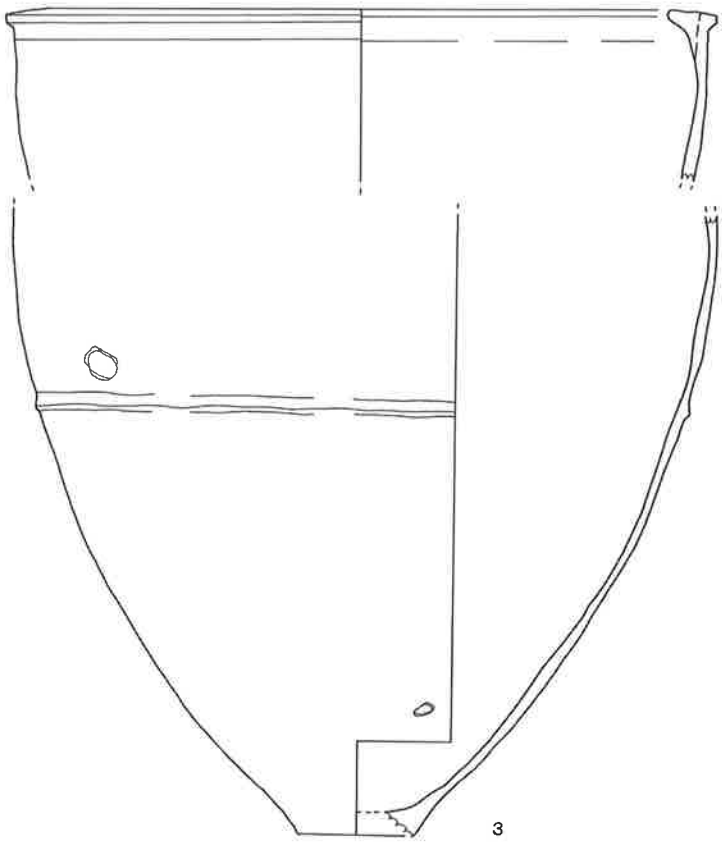


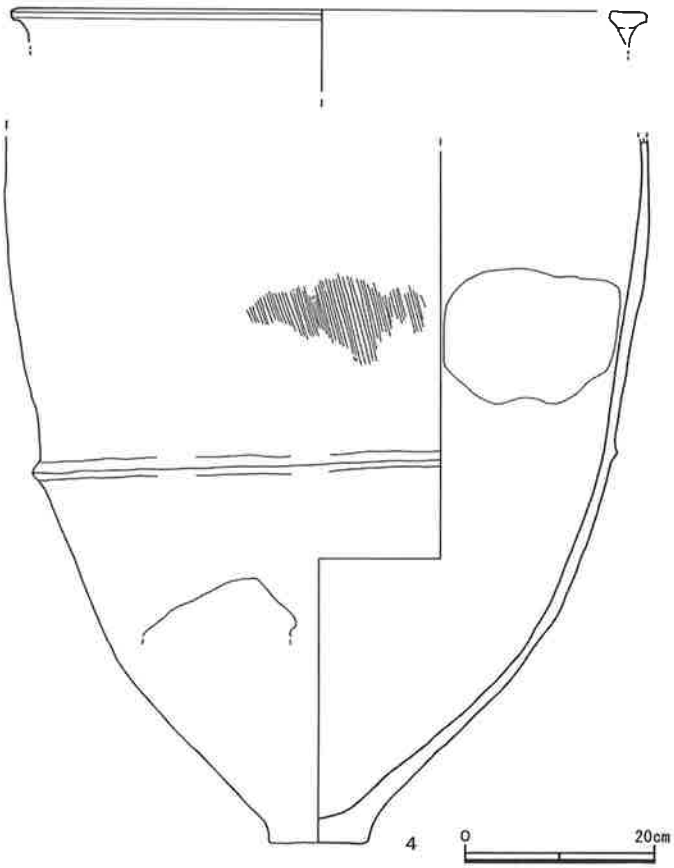
第61図　久保園遺跡１・２号甕棺（１/８）

久保園遺跡はこれまで７次の調査が継続されているが第３次調査で３基（１～３号甕棺）、第６次調査で１基（４号甕棺）の甕棺墓が検出されていた。しかし、諸般の事情により一部の報告が滞っていた経緯であったが平成24年度に整理作業を進めたため、その報告を行う。

１は１号甕棺である。検出時は削平が著しく、残存状態は極めて悪い。そのため、墓壙の平面形は不明である。埋置角度はほぼ水平に近い。甕棺は胴部から底端部にかけて残存する。器面は摩滅が著しい。色調は胴部半ばと下半内面の色調は上半と下半で違いが見られ、上半は橙色、下半は灰黒色を呈する。残存で器高33.0cm、復元底径11.0cmを測る。

２は２号甕棺である。検出時底端部の残存状況が良好でないものの底部から口縁部まで残存する。口縁部は帯状の粘土を貼り付け、断面はやや内傾を呈する。最大径は胴部上半である。突帯は胴部中位に１条巡らせ、断面が三角形を呈する。黒班は内・外面に認められる。残存で器高81.5cm、復元口径68.0cm、復元底径13.8cmを測る。





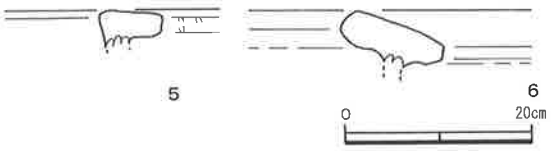
第62図　久保園遺跡３・４号甕棺（１/８）

３は３号甕棺である。検出時は削平の影響を受け、残存状態は悪い。底端部から胴部にかけて残存する。口縁部は内面へ張り出し、やや外傾する。胴部最大径は中位である。突帯は胴部中位よりやや下に１条巡らせ、断面が三角形を呈する。穿孔は突帯より上半に１箇所と胴部下半に１箇所の２箇所に認められる。突帯より上半の穿孔は径が大きく、４cm程の楕円形を呈する。胴部下半の穿孔は２cm程の楕円形を呈する。両者とも外面から打ち欠いている。残高で器高は66.0cm、復元口径56.0cm、底径12.4cmを測る。

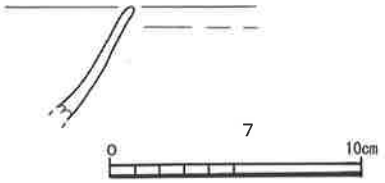
４は４号甕棺である。検出時の墓坑の平面形は隅丸の五角形に近く、長軸1.25m、短軸1.20mを測る。埋置角度は28度である。口縁部は帯状の粘土を貼り付け、外面へ張り出している。外面は胴部中位にハケが認められるが、その他の部位は摩滅により不明である。胴部最大径は上位である。突帯は胴部下半に１条巡らせ、断面が三角形を呈する。底部は平底を呈する。黒班は外面の胴部下半と内面の胴部中位に認められる。残高で器高は74.2cm、復元口径55.0cm、底径10.6cmを測る。

５・６は４号甕棺内より出土した甕棺の口縁部である。

７は１号甕棺内に混入した龍泉窯系青磁碗である。口縁部から体部の資料である。焼成が不良であるため器面は粗い。この他に図化できない土師器埦が出土する。



第63図　４号甕棺内出土遺物（１/８）



第64図　１号甕棺内混入遺物（１/３）

３．章　　結

両遺跡出土遺物について、本報告及び既報告と併せて時期の位置づけ及び若干の考察を述べたい。栢ノ木遺跡で確認された須恵器を中心とする時期は、北部九州の編年でⅢＢ期に位置づけられ、ⅣＡ期まで続くようである。土師器は日常的に使用される器種が出土し、須恵器から求められる時期と符合する。その後Ⅵ期に位置づけられる既報告の須恵器より、一時的な活動が伺える。

本市における古墳時代後期については調査事例も限られ、集落、埋葬施設等の様相は不明であることは述べた(江上2012ａ)。セットでは供膳具である坏蓋・坏身・高坏の出土事例が主体を占め、貯蔵具である壺・甕は限られている。また、北部九州編年のⅢＢ期に位置づけられる資料が多い。

一方、本市の土師器の出土事例では供膳具は埦が多く、貯蔵具は壺・甕が確認できる。本市での須恵器・土師器の出土事例は限られた遺跡より出土しているため、生活していた事は把握できるものの遺構に伴った出土事例でないため、今後事例の増加が望まれる。

23次で確認された土師器・瓦器は、11世紀後半から12世紀前半代に位置づけられる。これらの遺物も本市の限られた遺跡より出土が確認されている事から今後、詳細に検討しなければならない。久保園遺跡より出土した甕棺は、１号が形式不明、２・４号が城ノ越式、３号が汲田式に位置づけられる。本市における棺を用いた埋葬方法は、栢ノ木遺跡で甕棺、池田遺跡で壺棺が確認されている。しかし、栢ノ木遺跡は詳細な報告、池田遺跡は実測図が未報告であるため、実態は不明である。今後の報告が期待される。また、７より削平を受けた時期は、13世紀以降と考えられる。７次調査では遺物包含層より土師器坏・小皿、輸入陶磁器等より12世紀から14世紀に位置づけたが、本遺跡はこの時期以降に開発が行われたものと考えられる。今後、詳細に検討しなければならない。

参考文献

中田　敦之2006　「松浦市内遺跡確認調査」（６）　松浦市文化財調査報告書　第６集　松浦市教育委員会

中田　敦之・松尾　昭子2009　「松浦市内遺跡確認調査」(２)　松浦市文化財調査報告書 第３集　松浦市教育委員会

江上　正高　2012ａ　「（伝）松浦市淀姫神社出土資料について」　長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第２号

江上　正高　2012ｂ　「松浦市内遺跡確認調査」(２)　松浦市文化財調査報告書　第５集　松浦市教育委員会

第Ⅷ章　まとめ

松浦市では平成７年度から３ヵ年ずつの継続事業として、市内の埋蔵文化財の確認・試掘調査を実施している。今回の報告書では、平成13年度から平成14年度の緊急調査で出土した鷹島海底遺跡の出土遺物のうちから報告を行っていない鉄製品のＸ線調査の画像を付した報告も実施している。

報告した遺跡は、平成24年度に実施した姫神社遺跡第５次調査・青島遺跡第２次調査・栢ノ木遺跡第26次調査、平成25年度に実施した久保園遺跡（隣接地）調査・栢ノ木遺跡第27次調査、平成26年度に実施した寺ノ尾Ａ遺跡調査・栢ノ木遺跡第28次調査・久保園遺跡第８次調査である。この３ヵ年分の報告とＸ線の調査で重要な事項を挙げてまとめとする。

栢ノ木遺跡は、本市における弥生時代の重要な遺跡として位置づけられており、範囲確認・試掘調査を継続して実施している。また、これまでの確認調査や本調査の結果から、弥生時代から中世にかけての複合遺跡であることが確認できている。しかし、かつての集落の一部は、今では水田地帯として利用されているため、遺物包含層が削平され、厚く堆積した埋土に覆われている。当時の集落跡は変化を余儀なくされている現状であり、第27次・28次調査の結果からもその影響がうかがえる。第26次調査では、第24次・25次調査に続き旧河川跡が確認できている。古墳期の遺物が多く出土し、長崎県でも出土点数の少ない滑石製子持勾玉が完形で出土している。旧河道に古墳期の遺物が確認できることから、栢ノ木遺跡の古墳期を考える上で、貴重な資料が出土したことになる。

今回の調査とは別に、志佐川流域の遺跡群として位置づけるため、栢ノ木遺跡第18次・23次調査の出土遺物、久保園遺跡第３次・６次調査の出土遺物の再整理を行い報告に至った。栢ノ木遺跡は、中世期に削平されていることや発掘調査の範囲に限りがあるが、甕棺・石棺墓が確認できている墓域とその周辺に掘立柱建物が広がる集落が存在することが過去の調査からでも認められる。久保園遺跡の甕棺の出土は、志佐川流域の遺跡群の墓域を考えるうえで重要な地点であり、いくつかの墓域の可能性を示唆するものである。今後、志佐川流域の遺跡群として位置づけするためには、これまでの栢ノ木遺跡の調査の未報告分の報告と既報告分の遺物の再整理を行い、栢ノ木遺跡だけでなく久保園遺跡、宮ノ下リ遺跡の範囲確認調査を継続的に続けていくことが必要である。

一方、鷹島海底遺跡出土鉄製品の透過Ｘ線調査・Ｘ線ＣＴ調査を実施した結果、新たに火打ち金や錠の存在が明らかになった。さらに、用途不明の特殊な形状をした遺物があることも明らかとなった。鷹島海底遺跡出土遺物は蒙古襲来の際に海外から持ち込まれた遺物であるため、その解明には海外の研究者との協力が不可欠となる。蒙古襲来についての理解を深めるためにも、引き続き透過Ｘ線・Ｘ線ＣＴ調査を行い、出土遺物の解明に努めていく必要性がある。

表３　出土遺物一覧表

姫神社遺跡第５次調査

調査区	遺構名/出土層	出土遺物
Ｔ１	第Ⅰ層	obフレイク　近世陶磁器
Ｔ２	第Ⅰ層	an使用痕
	第Ⅱ層	近世陶器
Ｔ５	第Ⅰ層	obフレイク　近世陶磁器
Ｔ７	ＳＫ１	近世陶磁器　骨片(牛歯)
Ｔ８	第Ⅱ層	ob使用痕
―	表面採取	近世陶磁器　その他(レンガ)

青島遺跡第２次調査

調査区	遺構名/出土層	出土遺物
Ｔ１	第Ⅰ層	obフレイク　その他
Ｔ２	第Ⅰ層	obフレイク　近世磁器
―	表面採取	obコア　obフレイク　ob使用痕 ob加工痕　an打製石斧　須恵器　白磁碗　李朝陶器碗

栢ノ木遺跡第26次調査

調査区	遺構名/出土層	出土遺物
Ｔ１	第Ⅱ層	近世磁器
Ｔ２	第Ⅰ層	石鏃　近世陶器
Ｔ３	第Ⅰ層	anフレイク　近世磁器
	第Ⅱ層	土師器
Ｔ４	第Ⅰ層	obフレイク　土師器　近世陶磁器　その他
Ｔ５	第Ⅱ層	anコア　土師器　近世磁器　その他
	第Ⅲ層	土師器　輸入陶器　近世陶磁器　瓦片
Ｔ６	第Ⅰ層	弥生土器　土師器　近世陶磁器
Ｔ７	第Ⅰ層	須恵器　龍泉窯系　近世陶器
	第Ⅲ層	弥生土器
Ｔ８	第Ⅰ層	anフレイク　anチップ　土師器　須恵器　龍泉窯系
	第Ⅱ層	anコア
	第Ⅲ層	obコア　anフレイク　滑石製品（勾玉）　土師器　須恵器
Ｔ９	第Ⅱ層	近世陶磁器
	第Ⅲ層	須恵器
Ｔ10	第Ⅰ層	anフレイク　土師器　近世磁器
	第Ⅱ層	obフレイク　anコア　土師器　須恵器　近世磁器
	第Ⅲ層	土師器
	排土	弥生土器
―	表採	obフレイク　anコア　anフレイク　加工痕　弥生土器　土師器　龍泉窯系　同安窯系　近世磁器　石片

栢ノ木遺跡第27次調査

調査区	遺構名/出土層	出土遺物
Ｔ１	第Ⅰ層	ob・anフレイク　土師器　龍泉窯系　近世磁器
Ｔ２	第Ⅰ層	ob・anフレイク　弥生土器　土師器　須恵器
Ｔ３	第Ⅰ層	ob・anフレイク　弥生土器　土師器　龍泉窯系
	第Ⅱ層(撹乱)	ob・anフレイク　弥生土器　土師器　須恵器　龍泉窯系　近世磁器
	ＳＸ01	ob・anフレイク　ob加工痕　弥生土器　近世陶器
Ｔ４	第Ⅰ層	龍泉窯系　白磁　近世磁器
	第Ⅴ層	anフレイク　龍泉窯系　近世陶磁器
Ｔ５	第Ⅰ層	近世陶器
Ｔ６	第Ⅰ層	土師器　近世陶器　瓦片
Ｔ８	第Ⅰ層	obフレイク・瓦片
	第Ⅱ層	ob・anフレイク　土師器　須恵器　近世陶器
	第Ⅲ層	anフレイク
Ｔ９	第Ⅰ層	越州窯系　龍泉窯系
Ｔ10	第Ⅰ層	近世磁器
Ｔ11	第Ⅰ層	anフレイク
	第Ⅱ層	ob・anフレイク　弥生土器　龍泉窯系　近世陶器
Ｔ12	第Ⅰ層	ob・anフレイク
―	排土	ob・anフレイク　須恵器

寺ノ尾Ａ遺跡第１次調査

調査区	遺構名/出土層	出土遺物
Ｔ４	第Ⅰ層	obフレイク　近世陶磁器
Ｔ５	第Ⅰ層	土師器　近世陶磁器

栢ノ木遺跡第28次調査

調査区	遺構名/出土層	出土遺物
Ｔ１	第Ⅰ層	obフレイク　anフレイク　灰obフレイク　弥生土器
Ｔ１	第Ⅱ層	obフレイク　anフレイク　弥生土器　青花磁器
Ｔ１	第Ⅲ層（撹乱）	obフレイク　anフレイク　弥生土器
Ｔ１	第Ⅳ層（撹乱）	obフレイク　弥生土器
Ｔ２	第Ⅲ層	obフレイク　anフレイク　弥生土器
Ｔ３	第Ⅰ層	anフレイク
Ｔ４	第Ⅱ層	obフレイク　anフレイク　弥生土器
Ｔ５	第Ⅰ層	近世磁器
Ｔ６	第Ⅰ層	近世磁器
Ｔ６	第Ⅱ層	近世磁器

久保園遺跡第８次調査

調査区	遺構名/出土層	出土遺物
Ｔ１	第Ⅰ層	近世磁器
Ｔ２	第Ⅱ層（撹乱）	白磁　近世磁器

表４　出土遺物観察表

姫神社遺跡第５次調査

No	調査区	遺構名/出土層	種類	器種	法量（単位はcm） 口径	器高	底径	胎土	調整	色調	備考
1	Ｔ７	ＳＫ１	陶器	碗	11.0	7.3	4.4	精緻	外面　釉 内面　釉	外面　10Ｙ6/2オリーブ灰色 内面　10Ｙ6/2オリーブ灰色	—

No	調査区	遺構名/出土層	種類	器種	法量（単位はcm、g） 最大長	最大幅	最大厚	重さ	備考
2	Ｔ８	第Ⅱ層	黒曜石	削器	5.8	3.3	1.6	32.0	—
3	Ｔ８	第Ⅱ層	黒曜石	削器	4.9	2.6	0.9	8.0	—

青島遺跡第２次調査

No	調査区	遺構名/出土層	種類	器種	法量（単位はcm、g） 最大長	最大幅	最大厚	重さ	備考
1	—	表採	黒曜石	石鏃	3.0	1.6	0.5	1.0	—
2	—	表採	安山岩	打斧	9.7	5.3	1.8	94.0	—
3	—	表採	黒曜石	剥片	3.9	3.7	1.0	10.0	二次加工
4	—	表採	黒曜石	剥片	3.3	2.8	0.8	6.0	二次加工

No	調査区	遺構名/出土層	種類	器種	法量（単位はcm） 口径	器高	底径	胎土	調整	色調	備考
5	—	表採	須恵器	不明	(5.6)	(1.9)	—	やや精緻	外面　回転ナデ 内面　回転ナデ	外面　10Y4/1灰色 内面　10Y4/1灰色	—
6	—	表採	須恵器	坏身	—	(1.4)	—	やや精緻	外面　回転ナデ 内面　回転ナデ	外面　2.5Y4/1黄灰色 内面　2.5Y6/1灰色	—
7	—	表採	須恵器	不明	—	(2.6)	—	やや精緻	外面　格子目タタキ 内面　同心円文当具痕	外面　10Y4/1褐色 内面　10Y5/1褐色	—
8	—	表採	白磁	碗	—	(2.6)	—	精緻	外面　— 内面　—	外面　— 内面　—	—
9	—	表採	陶器	碗	—	(1.7)	(3.6)	精緻	外面　釉 内面　釉	外面　10G6/1緑灰色 内面　10G6/1緑灰色	—

栢ノ木遺跡第26次調査

No	調査区	遺構名/出土層	種類	器種	法量（単位はcm） 口径	器高	底径	胎土	調整	色調	備考
1	Ｔ10	第Ⅱ層	土師器	甕	(14.6)	(5.0)	—	精緻	外面　ナデ 内面　ナデ、ヘラケズリ	外面　10YR7/3にぶい黄橙色 内面　10YR7/3にぶい黄橙色	—
2	Ｔ10	第Ⅱ層	土師器	甕	—	(4.1)	—	精緻	外面　ナデ 内面　ナデ、マメツ	外面　2.5YR5/8明赤褐色 内面　2.5YR4/1赤灰色	—
3	Ｔ10	第Ⅲ層	土師器	椀	15.6	7.1	—	精緻	外面　ヘラケズリ、ナデ 内面　ヘラケズリ後ナデ	外面　5YR7/1明褐灰色 内面　5YR4/8赤褐色	—
4	Ｔ10	第Ⅲ層	土師器	椀	(12.8)	(4.9)	—	精緻	外面　ナデ 内面　ナデ、ユビナデ	外面　2.5YR6/8橙色 内面　2.5YR6/8橙色	—
5	Ｔ10	第Ⅲ層	土師器	椀	(12.8)	(3.5)	—	精緻	外面　ナデ、ヘラケズリ 内面　ナデ	外面　5YR7/3にぶい橙色 内面　5YR7/3にぶい橙色	—
6	Ｔ10	第Ⅲ層	土師器	椀	(14.0)	(4.0)	—	精緻	外面　ナデ、ヘラケズリ 内面　ナデ	外面　5YR6/4にぶい橙色 内面　5YR7/2明褐灰色	—
7	Ｔ10	第Ⅲ層	土師器	椀	—	(3.9)	—	精緻	外面　タテハケ 内面　ナデ	外面　5YR5/1褐灰色 内面　5YR7/3にぶい橙色	—
8	Ｔ10	第Ⅲ層	土師器	椀	—	(3.1)	—	やや精緻	外面　マメツ 内面　ナデ	外面　5YR7/2明褐灰色 内面　5YR8/1灰色	—
9	Ｔ10	第Ⅲ層	土師器	ミニチュア甕	(4.1)	3.9	1.4	精緻	外面　ナデ、指頭圧痕 内面　ナデ、指頭圧痕	外面　7.5YR4/1褐灰色 内面　7.5YR4/1褐灰色	—
10	Ｔ８	第Ⅲ層	須恵器	甕	—	(4.4)	—	精緻	外面　ナデ 内面　ナデ	外面　N3/暗灰色 内面　N3/暗灰色	—
11	Ｔ７	第Ｉ層	須恵器	鉢	—	(4.6)	—	精緻	外面　クシ描き、沈線 内面　ナデ	外面　N6/灰色 内面　N6/灰色	—
12	Ｔ９	第Ⅲ層	須恵器	甕	—	(7.2)	—	精緻	外面　カキメ、格子目叩き 内面　同心円文当具痕	外面　10YR6/1灰色 内面　10YR6/1灰色	—
13	Ｔ９	第Ⅲ層	須恵器	甕	—	(6.6)	—	精緻	外面　格子目叩き 内面　ナデ、同心円文当具痕	外面　7.5Y6/1灰色 内面　N6/灰色	—
14	Ｔ10	第Ⅱ層	土師器	椀	—	(2.7)	—	やや精緻	外面　マメツ 内面　マメツ	外面　5YR7/1灰白色 内面　5YR7/1灰白色	—

No	調査区	遺構名/出土層	種類	器種	法量（単位はcm、g） 最大長	最大幅	最大厚	重さ	備考
15	Ｔ８	第Ⅲ層	滑石製	子持勾玉	(10.6)	5.7	3.1	145.0	子持11個、穿孔3ヶ所(いずれも未穿孔)

栢ノ木遺跡第27次調査

No	調査区	遺構名/出土層	種類	器種	法量（単位はcm、g） 最大長	最大幅	最大厚	重さ	備考
1	Ｔ３	ＳＸ１	黒曜石	剥片	1.5	2.3	0.5	0.2	二次加工

No	調査区	遺構名/出土層	種類	器種	法量（単位はcm） 口径	器高	底径	胎土	調整	色調	備考
2	—	ＳＸ１	弥生土器	甕ヵ	—	(1.7)	—	やや精緻	外面　マメツ 内面　マメツ	外面　2.5Y8/2灰白 内面　2.5Y8/2灰白	—

栢ノ木遺跡第18次・23次

No	調査区	遺構名/出土層	種類	器種	法量（単位はcm） 口径	器高	底径	胎土	調整	色調	備考
1	Ｔ７	第Ⅵ層	須恵器	坏蓋	—	(3.7)	—	精緻	外面　ナデ、沈線 内面　ナデ	外面　7.5YRにぶい橙 内面　7.5YRにぶい橙	
2	Ｔ７	第Ⅵ層	須恵器	坏蓋	—	(1.7)	—	精緻	外面　回転ヘラケズリ 内面　回転ナデ	外面　5YR4/1褐灰色 内面　5YR4/1褐灰色	「ハ」ヘラ記号
3	Ｔ７	第Ⅶ層	須恵器	坏蓋	(12.4)	(3.5)	—	精緻	外面　ナデ 内面　ナデ	外面　5YR4/6赤褐色 内面　5YR4/6赤褐色	
4	Ｔ７	第Ⅶ層	須恵器	高坏	(10.0)	(4.6)	—	精緻	外面　ナデ、カキメ 内面　ナデ	外面　7.5Y5/1灰色 内面　7.5Y7/1灰白色	
5	Ｔ２	第Ⅱ層	須恵器	高台付坏身	—	(1.8)	(8.0)	精緻	外面　ナデ 内面　ナデ	外面　5YR6/1褐灰色 内面　5YR7/1明褐灰色	「メ」ヘラ記号
6	Ｔ７	第Ⅶ層	須恵器	高坏	—	(1.8)	—	精緻	外面　回転ナデ 内面　回転ナデ	外面　5Y6/1灰色 内面　5Y6/1灰色	
7	Ｔ７	第Ⅴ層	須恵器	高坏	—	(4.5)	—	精緻	外面　カキメ、ナデ 内面　回転ナデ	外面　N5/　灰色 内面　N5/　灰色	「ハ」ヘラ記号
8	Ｔ11	第Ⅲ層	土師器	坏身	—	(1.5)	(6.6)	精緻	外面　ナデ 内面　ナデ	外面　5YR6/5橙色 内面　5YR6/5橙色	
9	Ｔ７	第Ⅵ層	瓦器	碗	—	(1.7)	(5.2)	精緻	外面　ミガキ 内面　ナデ	外面　2.5Y2/1黒色 内面　2.5Y2/1黒色	
10	Ｔ７	第Ⅴ層	須恵器	坏	—	(1.3)	—	精緻	外面　回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面　回転ナデ	外面　5Y7/1灰白 内面　5Y7/1灰白	
11	Ｔ７	第Ⅵ層	磁器	碗	—	(2.2)	(9.8)	—	外面　釉 内面　釉	外面　7.5GY6/1緑灰、7.5YR3/4暗褐色 内面　7.5GY6/1緑灰	

※Ｔ７は18次、Ｔ７以外は23次出土遺物

図　　版

図版１

姫神社遺跡５次Ｔ１完掘状況（南から）

姫神社遺跡５次Ｔ２完掘状況（南から）

姫神社遺跡５次Ｔ７完掘状況（西から）

姫神社遺跡５次Ｔ７ＳＫ１牛歯出土状況

青島遺跡２次遠景

青島遺跡２次Ｔ２完掘状況(北から)

栢ノ木遺跡26次遠景

栢ノ木遺跡26次Ｔ５完掘状況(北から)

図版２

栢ノ木遺跡26次Ｔ８第Ⅲ層検出状況（西から）

栢ノ木遺跡26次Ｔ８第Ⅲ層
滑石製子持勾玉出土状況

栢ノ木遺跡26次Ｔ９完掘状況（南から）

栢ノ木遺跡26次Ｔ10完掘状況（西から）

久保園遺跡（隣接地）作業風景

久保園遺跡（隣接地）Ｔ２完掘状況（西から）

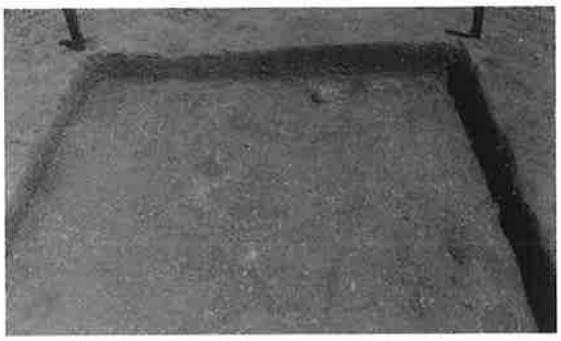
栢ノ木遺跡27次遠景

栢ノ木遺跡27次Ｔ２完掘状況（北から）

図版３

栢ノ木遺跡27次Ｔ３完掘状況（南から）

栢ノ木遺跡27次Ｔ４完掘状況（北から）



寺ノ尾Ａ遺跡１次Ｔ３完掘状況（南から）

寺ノ尾Ａ遺跡１次Ｔ５完掘状況（北から）

栢ノ木遺跡28次Ｔ１完掘状況（東から）

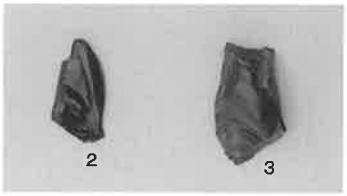
栢ノ木遺跡28次Ｔ３完掘状況（東から）

久保園遺跡８次作業風景

久保園遺跡８次Ｔ１完掘状況（東から）

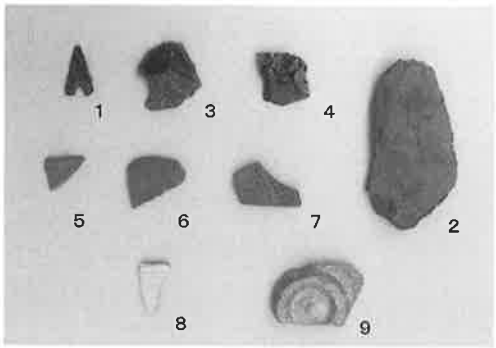
図版４

姫神社遺跡５次出土遺物①



姫神社遺跡５次出土遺物②

姫神社遺跡５次出土遺物③



青島遺跡２次出土遺物

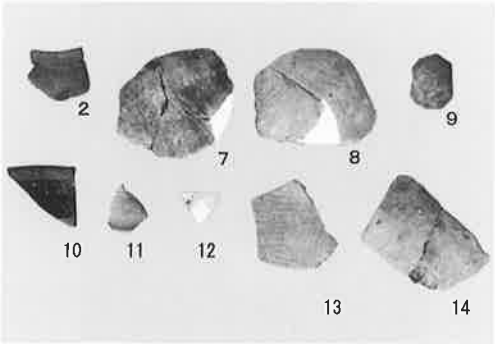
栢ノ木遺跡26次出土遺物①

栢ノ木遺跡26次出土遺物②

栢ノ木遺跡26次出土遺物③

栢ノ木遺跡26次出土遺物④

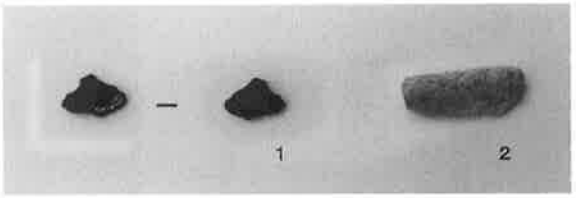
栢ノ木遺跡26次出土遺物⑤



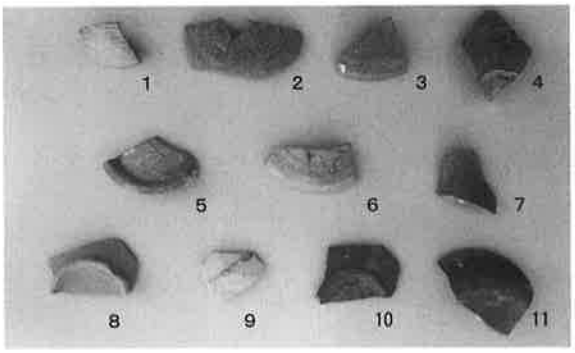
栢ノ木遺跡26次出土遺物⑥

栢ノ木遺跡26次出土遺物⑦

図版５



栢ノ木遺跡27次ＳＸ１出土遺物



栢ノ木遺跡18次・23次出土遺物

久保園遺跡１号甕棺

久保園遺跡２号甕棺

久保園遺跡３号甕棺

久保園遺跡４号甕棺

報告書抄録

ふりがな	まつうらしないいせきかくにんちょうさ（4）
書　名	松浦市内遺跡確認調査（4）
副書名	
巻　次	
シリーズ名	松浦市文化財調査報告書
シリーズ番号	第6集
編集者名	鈴木美奈都
編集機関	松浦市教育委員会
所在地	〒859－4598 長崎県松浦市志佐町里免365番地　TEL0956－72－1111 E-mail　bunkazai@city.matsuura.lg.jp
発行年月日	西暦　2015年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ひめじんじゃいせきじ 姫神社遺跡５次	星鹿町北久保免682	42208	208-044	33° 22′ 18″	129° 40′ 21″	20120709 ～20120726	42	養護老人ホーム 改築工事
	種別：遺物包含地	主な時代：近世	主な遺構：土壙墓		主な遺物：近世陶器		特記事項：	
あおしまいせきじ 青島遺跡２次	星鹿町青島免856番地1	42208	208-034	33° 24′ 35″	129° 41′ 26″	20120904 ～20120911	12	無線基地局電気 通信設備新設工事
	種別：	主な時代：－	主な遺構：－		主な遺物：－		特記事項：	
かやのきいせきじ 栢ノ木遺跡26次	志佐町栢木免 他	42208	208-026	33° 19′ 27″	129° 42′ 39″	20121203 ～20121226	60	用排水路建設工事 ・範囲確認調査
	種別：遺物包含地	主な時代：古墳	主な遺構：－		主な遺物：土師器・須恵器・滑石製子持勾玉		特記事項：旧河道跡	
くぼぞのいせきりんせつち 久保園遺跡（隣接地）	志佐町里免244番地1・3	42208	208-024	33° 20′ 6″	129° 42′ 40″	20131001 ～20131003	8	住宅建築
	種別：	主な時代：－	主な遺構：－		主な遺物：－		特記事項：	
かやのきいせきじ 栢ノ木遺跡27次	志佐町栢木免 他	42208	208-026	33° 19′ 36″	129° 42′ 31″	20140224 ～20140317	54.4	範囲確認調査
	種別：遺物包含地	主な時代：弥生	主な遺構：ピット		主な遺物：弥生土器・黒曜石製剥片		特記事項：	
てらのおえーいせきじ 寺ノ尾Ａ遺跡１次	御厨町下登木免305番地1・5	42208	208-071	33° 21′ 7″	129° 40′ 23″	20140529 ～20140602	24	住宅建築
	種別：	主な時代：－	主な遺構：－		主な遺物：－		特記事項：	
かやのきいせきじ 栢ノ木遺跡28次	志佐町栢木免96番地1・98	42208	208-026	33° 19′ 26″	129° 42′ 36″	20141201 ～20141212	36	範囲確認調査
	種別：	主な時代：－	主な遺構：－		主な遺物：－		特記事項：	
くぼぞのいせきじ 久保園遺跡８次	志佐町高野免109番地2	42208	208-024	33° 19′ 57″	129° 42′ 42″	20141218 ～20141219	2.3	無線基地局新設工事
	種別：	主な時代：－	主な遺構：－		主な遺物：－		特記事項：	

松浦市文化財調査報告書　第６集

松浦市内遺跡確認調査（４）

平成27年３月31日

発　行　長崎県松浦市教育委員会
　　長崎県松浦市志佐町里免365番地
印　刷　有限会社　タイセイ印刷
　　長崎県松浦市志佐町浦免886番地7